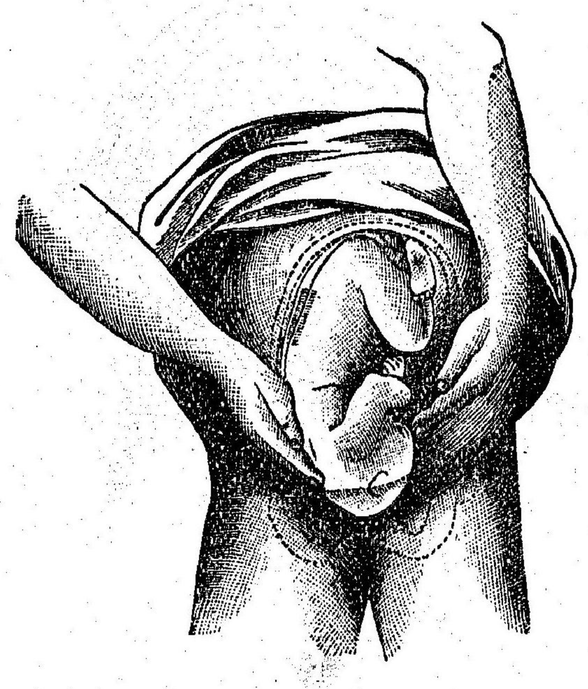
第九十圖



骨盤内ニ深ク進入セル部ヲ觸診ス

（レオポルド氏ニ由ル）

（甲）胎兒ニ就テ

（イ）心音（兒背ニ於テ明カナリ其數約百二十乃至百四十女子ハ男子ヨリ少シク多シ）

（ロ）胎動雜音（足ト子宮トノ摩擦）

（ハ）臍帶雜音（稀ニ存ス）

（乙）母體ニ就テ

（イ）子宮血管雜音（下腹ノ兩側ニテ聽診ス）

（ロ）腹部大動脈音

（ハ）腸内瓦斯雜音

内診ヲ行フニハ先ヅ外陰部膣ヲ消毒シ診者ノ手ヲ十分ニ消毒シ而後示指若クハ示指ト中指ヲ膣ノ後壁ニ沿フテ送入シ左ノ諸件ヲ診ス

一　尿道ノ狀態（疼痛ノ有無）

二　胎兒先進部及其位置（前膣穹窿部ヨリ）

三　子宮膣部ノ狀態（長短、形狀、子宮口ノ形狀）

四　會陰ノ硬軟（内ハ示指外ハ拇指ヲ以テ會陰ヲ狹ム）

五　尾骶骨ノ尖端薦骨尾骶骨關節ノ運動性

六　膣ノ廣狹、硬軟、恥骨ノ廣狹

雙合診ハ内診ト同時ニ他手ヲ下腹上ニ接シテ子宮ヲ下方ニ壓シテ内診中ノ手ヲシ

テ觸診ニ容易ナラシムルノ方ニシテ子宮ノ硬軟、胎兒ノ體部移動性等ヲ診スルニ便ス

第二十二章　姙婦ノ診斷

古來ヨリノ慣習ニ由リ確徵疑徵不確徵トス

確徵　胎兒心音ヲ聽取ス胎兒ノ部分ヲ明カニ觸知スルコト他覺的ニ胎兒運動ヲ認ム臍帶雜音

疑徵　月經閉止ヘガール氏徵候子宮球狀ニ增大スルコト觸診時子宮收縮腟部穹窿部軟化帶青赤色トナル乳房ノ變化腹壁姙娠線及臍窩全ク扁平又ハ水泡狀ニ隆起ス乳房外陰部白線稀レニ顏面等ニ着色ス

不確徵　自覺障害即チ最モ多キハ惡心嘔吐トス其他身體倦怠、憂鬱、頭痛、眩暈、薦骨痛、腰痛、齒痛、浮腫、尿意頻數等ナリ

姙娠時期ノ診斷

第一ケ月ノ末　月經ナク子宮腟部ハ軟化帶赤色ヲ呈シ子宮少シク增大ス

第二ケ月末　子宮大凡鷄卵大外子宮口ハ圓形、白線ハ多少着色ス膀胱壓迫症惡心嘔吐乳房一時性刺痛

第三ケ月　子宮ハ兒頭大子宮益々軟化シ殆ンド膠ニ觸ルヽガ如キ感アリ

第四ケ月　子宮底ハ恥骨縫際ヲ越ヘテ大骨盤ニ出デ大サ大人頭大トナル腹壁多少膨大ス子宮雜音ヲ聞ク

第五ケ月　子宮底ハ恥骨縫際ト臍部ノ中央ニ來リ子宮ハ多少長軸ニ廻轉シ左緣ハ前方ニ出デ下腹著シク膨隆ス白線ノ著色著シ又姙娠線ヲ見ル著シキ子宮腟部軟化乳房緊張モントコメリー氏線著名能ク注意スルトキハ胎兒心音ヲ聞クコトアリ

第六ケ月末　子宮底ハ殆ンド臍部ニ達シ子宮體ハ殆ンド球狀胎動ヲ感ジ子宮腟部ハ擧上シ腟部肥大スル故ニ幾分カ短縮シタルカ如ク見ユ

第七ケ月末　子宮底ハ臍部ヨリ二指横徑ニ在リ臍窩ハ扁平胎兒移動シ易ク時々其ノ位置ヲ變ズ

第八ケ月末　子宮底ハ臍部ト心窩ノ中間ニ達シ側方ハ殆ンド肋骨弓ニ達ス歩行時 Stolgang（反身歩行）ヲナス下肢ニ浮腫胸部側方ニ疼痛ヲ訴フ腹圍ハ本邦人ニ於テハ平均七二乃至七五仙迷ナリ

第九ケ月末　子宮底ハ心窩ニ達シ呼吸困難外子宮口ニ指ヲ挿入シ得經產婦ハ全子宮口ニ指ヲ挿入シ得胎兒ノ部分ヲ觸知シ得時々姙娠痛ヲ起ス

第十ケ月　子宮底降リ臍部ト心窩ノ中央ニ來ル呼吸困難緩解シ臍窩水泡狀トナル子宮腟部ノ前唇ハ消失ス腹圍本邦人ハ平均八五乃至九〇仙迷

第二十三章　姙婦ノ攝生法

姙娠ハ元來生理的機能ナルヲ以テ平素ノ生活法ヲ持續スルヲ要ス然レトモ凡テ過度ノ勞働（長途ノ乘車、重荷ノ提擧等）ヲ避ケ毎日一定ノ勞働精神作用ヲ營マシムレバ身體爽快トナリ且姙娠ニ對スル憂鬱ノ念ヲ去ラシムルヲ得、○飲食物ハ可成消化シ易クシテ滋養ニ富メルモノヲ適度ニ用ユベク強テ平素ノ習慣ヲ破ルニ及バザルモ不消化ナルモノ及峻烈ナルモノ假令芥子、蕃椒、山葵等ヲ用ユベカラズ其他酒精飲料モ用ヰザルヲ可トス○衣服ハ氣候ニ從ヒ撰擇ス可キハ勿論常ニ寬濶ナルヲ可トス○便通ヲ整ヘ若シ便秘スルトキ早朝適度ノ運動ヲ命ジ且ツ其後ニ一椀ノ冷水又ハ冷牛乳ヲ飲マシメ加之毎朝一定時ニ上圊セシム可シ其他果物ヲ食セシメ或ハ結晶カルヽス泉鹽、硫酸苦土等ノ緩下劑ヲ與ヘ又ハ灌腸ヲ行フベキモ峻下劑ハ決シテ用ユベカラス○乳房ハ毎日一回冷水又ハ酒精ヲ以テ能ク之ヲ拭淨シ且ツ乳嘴發育不良或ハ陷沒セルモノニアリテハ之ヲ提擧セシムベシ

婦人ノ入浴ハ差支ナキノミナラス姙娠ノ後半期ニ於テハ勉メテ入浴セシムベシ但シ溫度ノ適當ナランコトヲ要ス冷ニ過キ熱キニ失スル時ハ共ニ害アリ○精神ハ常ニ安靜ヲ要ス殊ニ初姙娠ニ然リ凡テ精神感動ヲ惹起スルガ如キコトハ可及的之ヲ避クルコトヲ要ス且姙娠中ハ時トシテ失神卒倒スルガ如キコトアレバ劇場寄席等ノ如キ衆人群集ノ場處ニ至ルコトヲ避クベシ

○第二十四章　姙娠分娩起算表

最終月經	分娩期日	最終月經	分娩期日	最終月經	分娩期日	最終月經	分娩期日
一月一日	十月八日	五月十日	二月十四日	九月十日	六月十七日
仝　五日	仝　十二日	仝　十五日	仝　十九日	仝　十五日	仝　廿二日
仝　十日	仝　十七日	仝　二十日	仝　廿四日	仝　二十日	仝　廿七日
仝　十五日	仝　廿二日	仝　廿五日	三月一日	仝　廿五日	七月二日
仝　二十日	仝　廿七日	仝　廿八日	仝　四日	仝　廿八日	仝　五日
仝　廿五日	十一月一日	六月一日	仝　八日	十月一日	仝　八日
二月一日	仝　四日	仝　五日	仝　十二日	仝　五日	仝　十二日
仝　五日	仝　八日	仝　十日	仝　十七日	仝　十日	仝　十七日
仝　十日	仝　十一日	仝　十五日	仝　廿二日	仝　十五日	仝　廿二日
仝　十五日	仝　十五日	仝　二十日	仝　廿七日	仝　二十日	仝　廿七日
仝　二十日	仝　廿七日	仝　廿五日	四月一日	仝　廿五日	八月一日
仝　廿五日	十二月一日	仝　廿八日	仝　四日	仝　廿八日	仝　四日
三月一日	仝　六日	七月一日	仝　八日	十一月一日	仝　八日

三月五日	十二月十日	七月五日	四月十二日	十一月廿五日	八月十二日
仝 十日	仝 十五日	仝 十日	仝 十六日	仝 十日	仝 十七日
仝 十五日	仝 二十日	仝 十五日	仝 廿一日	仝 十五日	仝 廿二日
仝 廿二日	仝 廿五日	仝 二十日	仝 廿六日	仝 二十日	仝 廿七日
仝 廿五日	仝 三十日	仝 廿五日	五月一日	仝 廿五日	九月一日
仝 廿八日	一月二日	仝 廿八日	仝 四日	仝 廿八日	仝 四日
四月一日	仝 六日	八月二日	仝 八日	十二月一日	仝 七日
仝 五日	仝 十日	仝 五日	仝 十二日	仝 五日	仝 十一日
仝 十日	仝 十五日	仝 十日	仝 十七日	仝 十日	仝 十六日
仝 十五日	仝 二十日	仝 十五日	仝 廿二日	仝 十五日	仝 廿一日
仝 二十日	仝 廿五日	仝 二十日	仝 廿七日	仝 二十日	仝 廿六日
仝 廿三日	仝 三十日	仝 廿五日	六月一日	仝 廿五日	十月一日
仝 廿八日	二月二日	仝 廿八日	仝 四日	仝 廿八日	仝 四日
五月一日	仝 五日	九月一日	仝 八日		
仝 五日	仝 九日	仝 五日	仝 十二日		

最後ノ月經以後九ケ月ヲ算シ之ニ七日ヲ加ヘ終末日ヲ分娩期トス

若シクハ三ケ月ヲ減ジ三日ヲ加フ

○第二十五章　産婦ノ診査

産婦ヲ診スルニハ左ノ順序ニ從フベシ

甲、問診

(1) 姓名年齡職業
(2) 兩親及同胞ノ健康狀態
(3) 小兒時代ノ疾病
(4) 月經ノ開始時期及爾後ノ經過
(5) 爾後ノ疾病
(6) 最終ノ月經、時期及持續
(7) 分娩ノ有無、若シ有リタルモノハ其姙娠分娩及產褥ノ經過
(8) 流產ノ有無、有リタルトキハ何ケ月ナリシヤ及其原因
(9) 子女ノ健否

乙、一般ノ診査

(1) 體格及營養
(2) 肺及心ノ診査
(3) 體溫、脈搏、呼吸
(4) 畸形ノ有無

(5) 下肢ノ診査 浮腫、靜脈瘤)
(6) 尿ノ檢査(尿白及圓壔)

丙、產科的診査

(1) 乳房ノ視診(形狀、大小等)及觸診、腺實質ノ多少及分泌物ノ有無)
(2) 腹部ノ視診(形狀、大小、姙娠線、臍ノ狀態、白線ノ着色、浮腫、靜脈瘤、胎動、脊椎及骨盤腹壁ノ狀態)
(3) 腹部ノ觸診
(イ) 腹壁ノ狀態(皮下脂肪組織ノ厚サ緊張ノ度)
(ロ) 子宮(底ノ位置及壁ノ抵抗及疼痛)
(ハ) 兒頭ノ位置(兒頭ハ護謨球ノ如ク手ニテ壓却スルモ反挑シ來ル大ニシテ硬ナルモノ)
(ニ) 兒ノ臀部ノ位置(大ニシテ軟ナル部)
(ホ) 四肢ノ部分
(ヘ) 兒背ノ位置(廣クシテ抵抗アル面)
(ト) 胎動
(4) 聽診
(一) 胎兒ニ就テ
(イ) 心音(數、正不正、音ノ清雜、其最モ著明ナル部位)

(ロ) 臍帶雜音
(ハ) 胎動音
(二) 母體ニ就テ
(イ) 子宮雜音
(ロ) 腹大動脈音
(ハ) 腸內雜音
(5) 測定
(イ) 腹ノ周圍(呼氣ノ際正常八十五仙迷)
(ロ) 臍及子宮底ノ高サ(恥骨縫際上線ヨリ計ルモノトス)
(ハ) 骨盤ノ測定(獨ハ獨逸婦人日ハ日本婦人)

仰位ニ於テ

一、腸骨前上棘ノ距離(獨二十五仙迷 日二十三仙迷)
二、腸骨櫛ノ最大距離(正常獨二十八仙迷 日二十六仙迷)

側位ニ於テ

三、外結合線或ハポーツロック氏形即チ第五腰椎棘狀突起ト恥骨縫際ノ前面トノ距離(二十仙迷 十八仙迷)

四、外斜徑、即チ一側ノ腸骨後上棘ト他側ノ前上棘トノ距離（獨二十二仙迷日二十仙迷）

（6）内診

（イ）子宮外口ノ診査（先ツ陰門及腟ノ狀態ヲ明ニシタルノ後チ外口ノ所在、大小形狀、外口唇ノ狀態、方向）

（ロ）子宮頸及腟部ノ長サヲ診査ス

（ハ）ノ上　胎胞未ダ破レザルトキハ卵膜緊張及厚サノ如何ヲ診査ス

（ハ）ノ下　胎胞破綻後ナレハ臍帶四肢ノ脫出シアルヤ否ヤ搏動シツヽアルヤ否ヤ

（ニ）先進體部ノ大小、形狀、硬度及移動性ヲ査ス（縫合及顱門、口及顱肛門及鷲骨棘狀突起、肩胛若クハ鎖骨及肋骨）

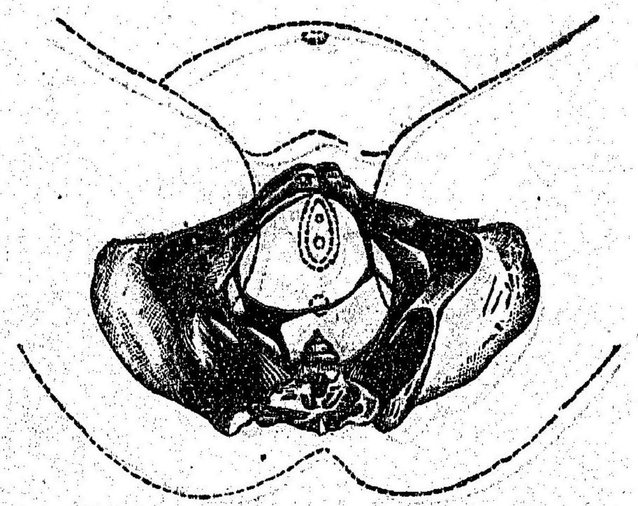
（附）胎兒ノ位置

（一）頭蓋位（全分娩ノ九十五%）

甲、後頭位（或ハ單ニ頭蓋位トモイフ）（第一後頭位（兒背子宮ノ右側ニ面ス（第九十一及第九十二圖）第二後頭位（兒背子宮ノ右側ニ面ス）（第九十三及第九十四圖）

乙、前顱位（稀ナリ）（第一前顱位（或ハ第四頭蓋位トモイフ）第二前顱位（或ハ第三頭蓋位トモイフ）

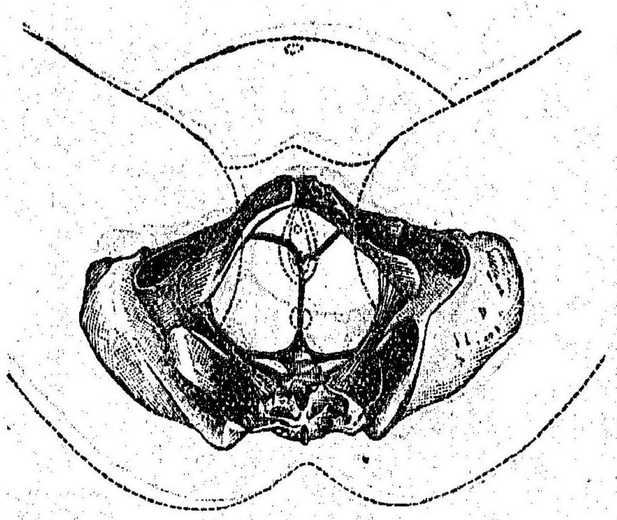
第九十六圖



第一頭蓋位ニ於テ矢狀縫合ト右斜徑線トノ一致ス（分娩ノ初期）

（ルシポルド氏ニ由ル）

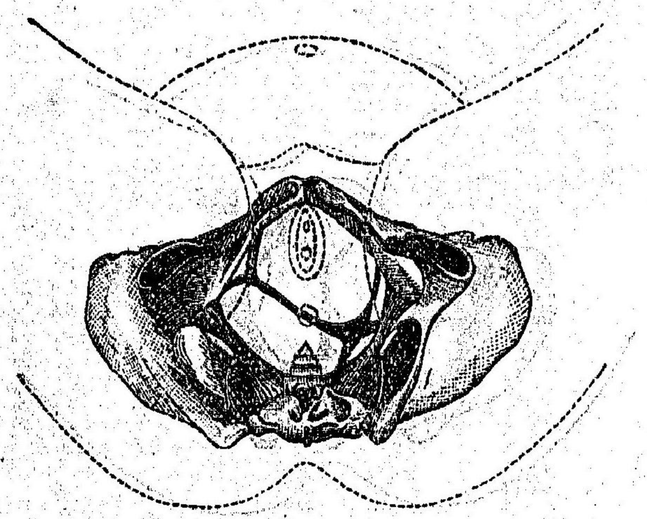
第九十二圖



第九十一圖ヨリ轉シタルモノニシテ矢狀縫合ト骨盤出口直徑トヲ一致ス（骨盤出口ニ達シタル時）

（レオポルド氏ニ由ル）

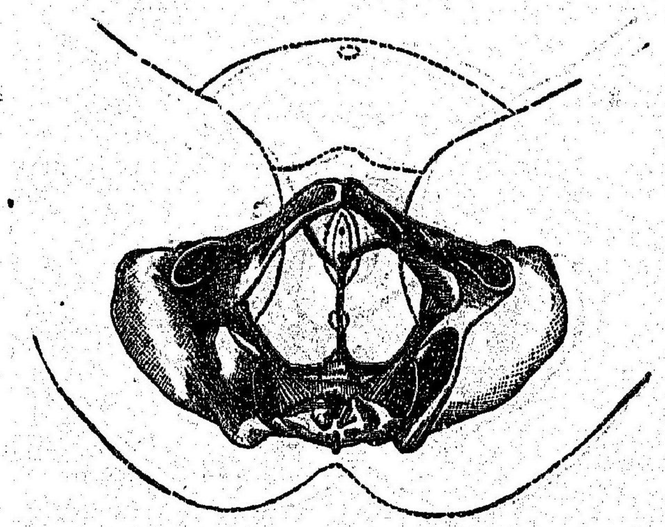
第九十三圖



第二頭蓋位ニ於テ矢狀縫合ト左斜徑線トヲ一致ス（分娩ノ初期）

（レオポルド氏ニ由ル）

第五十四圖



第九十三圖（ヨリ轉カシタルモノニシテ矢狀縫合ト骨盤出口直徑線トハ一致スルモノ（骨盤出口ニ達シタル時）

（二）顏面位（〇、六%）
（三）額位（稀有ナリ）
（四）骨盤端位（四%）
（五）斜位（横位）〇、四%
（ホ）先進部ノ骨盤内ノ位置
（ヘ）對角直徑線ノ測定

醫師ノ產婦ヲ診スルヤ其時期ノ如何ニ從ヒ診査ノ順序ヲ取捨變更セザルヲ得スト雖モ分娩マデ尙ホ充分ナル時間ヲ有スルトキハ以上ノ順序ニ從フベシ

〇第二十六章　分娩ノ處置

甲　開口期及產出期

（一）內診ヲ行フトキハ
（イ）產婆ニ命シテ產婦ヲシテ適當ノ位置ヲ（膝ヲ屈シ股ヲ開カシム）取ラシムベシ
（ロ）陰部ヲ一%リゾール水（或ハ三%石炭酸水）ヲ以テ洗フベシ但シ膣內ノ洗滌ハ膿樣若クハ惡臭アリ分泌液ノ存在スルトキニ行フベシ普通ノ場合ニ行フベカラズ

(八)醫師ハ手及前膊ヲ消毒シ手術衣ヲ着スベシ(消毒法ハ種々アリ例ヘバ石鹸溫湯ヲ用ヰ刷子ニテ三分間洗ヒ後二%リゾール水ニテ三分間洗フガ如シ)

(二)一手ノ示指及拇指ニテ小陰唇ヲ開キ他手ノ示指及中指ヲ膣内ニ送入シテ内診スベシ

(二)第一期ナルトキハ産婆ニ命ジテ灌腸セシムベシ

(三)陣痛增劇、子宮口開大セバ産床ニ就カシムベシ胎水ノ漏泄後直チニ娩出スルコト多ク且ツ羊水ノ漏泄ハ産婦半臥ノ位置ニ於テナサシムベキモノナリ

(四)胞破レ胎水出レバ其液ノ清ナルカ(胎屎)濁ナルカ綠色(死兒)ナルカヲ檢シ且ツ其ノ時間ヲ記スベシ

(五)陣痛ノ性質産婦ノ狀態(體溫脈搏等)胎兒ノ狀態(心音臍帶雜音)ハ頻回診察スベシ

(六)内診ハ先進部ニ異常位置アリタルトキ其正常位ニ變シタルヤ否ヤ若クハ兒頭尙ホ高キトキ胎胞破レタルトキ肢若クハ臍帶ノ脫出ヲ來タシタルヤ否ヤヲ定ムル爲メノ他ハ猥リニ之レヲ反覆スベカラズ

(七)産婦過敏ナルトキハ兒頭ノ子宮口ヲ出ルノ際及陰門ヲ出ツルノ際ニ短時間ノ「クロ、ホルム痲醉ヲ用ユルコトヲ得

(八)産出期ニ於テハ産婦自ラ努責ヲ始ムベシ其際産婆ニ命ジ努責ノ方法ヲ敎ヘシムベシ(手足ヲ他物ニ當テ、固定シテ之レヲ營マシム而シテ陣痛休止スレバ努責モ休止ス)若シ約半時ヲ過グルモ産機發展ヲ見ザレバ一時努責ヲ休止シ時期ヲ待ツテ更ニ開始セシム

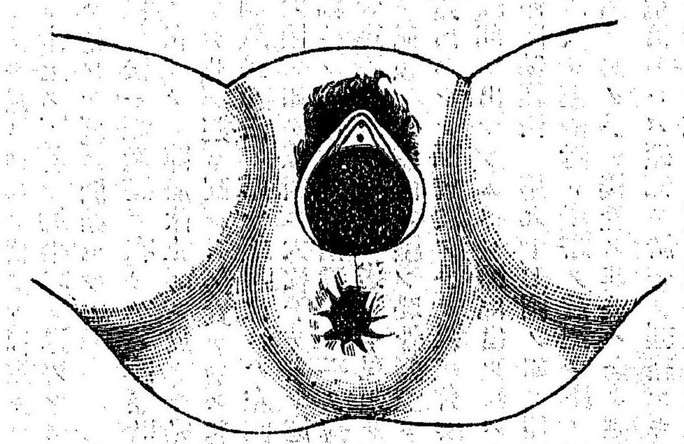
(九)會陰保護法ハ經産婦ニ在リテハ陣痛時兒頭ヲ認メ得ルヤ直チニ之レヲ行ヒ初産婦ニ在リテハ陣痛休止時ニ於テモ兒頭陰門ニ停止スルヲ待チテ之ヲ施スベシ而シテ此ノ期ニ到レバ努責ヲ禁ス其法二種アリ

一　側臥保護法　第一頭蓋位ニハ左側(第二頭蓋位ニハ右側ヲ臥サシメ)九十六圖ノ如ク膝間ニ大枕子ヲ入レ施術者ハ背側ニ座シ肛門及會陰後部ニ殺菌綿花ノ一片ヲ貼シ消毒セル手ノ拇指ト四指トヲ各陰唇ニ接着シ他ノ手ヲ恥骨縫際上ヨリ股間ニ送リテ兒頭ヲ支持スルヤ陣痛發スレバ會陰ノ手ヲ以テ兒頭ヲ骨盤内ニ壓シ恥骨縫際ヨリセル手ヲ以テ兒頭ヲ前方ニ牽引ス前額露出スルノ際會陰ノ手ヲ以テ會陰ヲシテ顏面ヲ拭フガ如ク之レヲ推送シテ頤部ヲ出サシムベシ頤部出ツレバ本術完了ス

二　仰臥保護法　第九十七圖ノ如ク仰臥ヲ命シ膝ヲ屈シ脚ヲ開キ大枕子ヲ臀下ニ入レ施術者ト産婦ノ右側ニ座スルヤ肛門及會陰後部ニ殺菌綿花ヲ貼シ圖ノ如ク手ヲ接着ス其後ハ全ク側臥ニ於ケルト同シ

(十)兒頭産出スレバ頸部ニ臍帶ノ纏絡ナキヤ否ヤヲ檢シ之レヲ發見スルトキハ輕ク之ヲ牽キテ緩クシ頭ヲ廻ラシテ胸ニ送ルベシ若シ緩クスルコト能ハザレバ

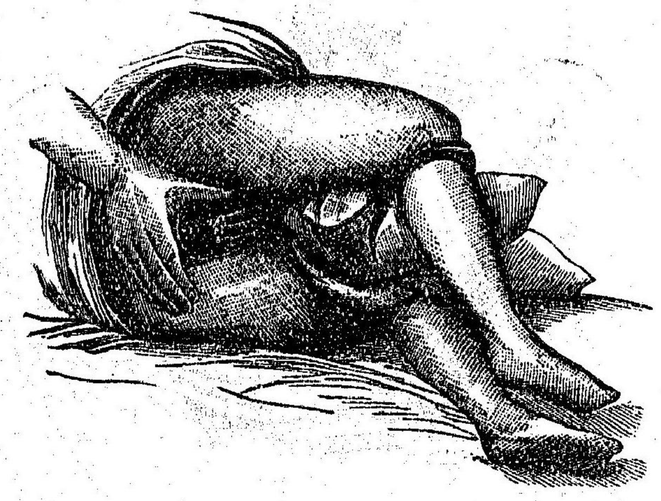
第九十五圖



兒頭露出會陰膨脹肛門哆開ス

（ルリメス氏ニ由ル）

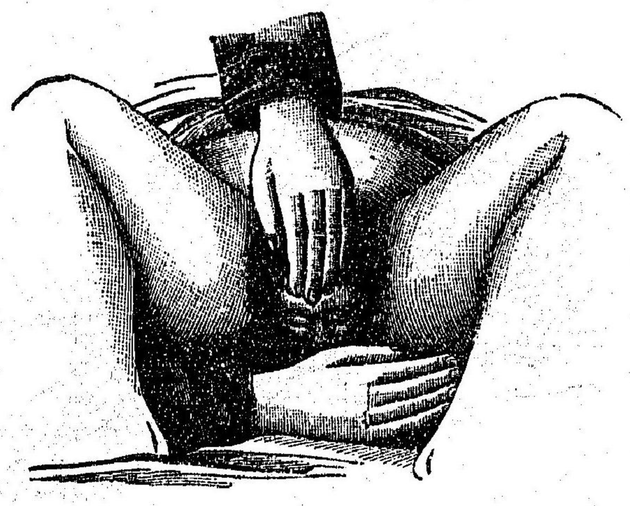
第九十六圖



側臥會陰保護法

（ルンゲ氏ニ由ル）

第九十七圖



仰臥會陰保護法

（ツアイフェルル氏ニ由ル）

後肩胛上ニ推移スベシ之レヲモナシ得ザルトキハ剪刀ニテ切ルヲ可トス兩結紮ヲ行ヒ能ハザレバ直チニ切離シ直チニ兒體ヲ挽出スベシ

（十一）兒頭產出スレバ其强啼及臍帶脈搏消失ヲ認ムルヤ直チニ臍ヲ去ル八仙迷ニ於テ臍帶ニ二個ノ結紮ヲ施シ第三ノ結紮ヲ陰門ニ接スル部ニ於テ施ス（第三結紮糸ハ後產進行ノ程度ヲ知ル爲）而シテ二個結紮ノ中間ヲ切離ス

（十二）兒體產出後產婦ノ腹ヲ解診シ子宮ノ良ク收縮セルヤ其底ノ何處ニアルヤヲ知ルベシ

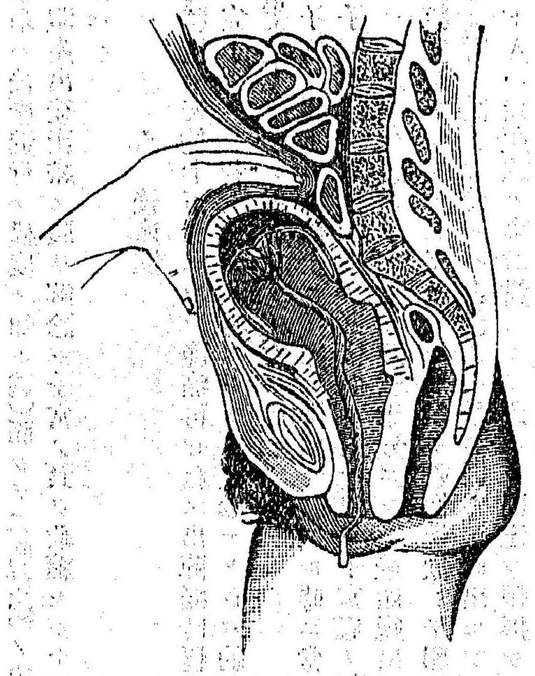
乙　後產期

（十三）兒體產出後約十五分ニシテ陣痛再ビ發ス出陣痛時輕度ニ努責セシムレバ後產ヲ完了スベシ若シ後產遲延スルモ出血尠ナケレバ約半時ヲ待チテクレデ氏術（第九十八圖）ヲ用ユ其方法左ノ如シ

先ツ子宮ヲ腹上ヨリ輪上ニ按摩シ陣痛ヲ發スル時ニ當リ第九十八圖ノ如ク拇指ヲ子宮前面、他ノ四指ヲ其後面ニ附ケ以テ子宮底ヲ把握シ次テ骨盤內ニ壓迫スベシ之レヲ施スコト五分乃至十分ニシテ後產娩出スルヲ常トス

（十四）卵膜停滯スルトキハ產出セル胎盤ヲ敢回轉捩シテ卵膜ヲ索狀トナシ而シテ產婦ノ臀ヲ高クシ後產ハ自己ノ重量ニ因リテ產出セシムベシ卵膜裂ケテ遺殘スルトキハ指頭或ハ麥粒鉗子ニテ之レヲ固定シ轉捩シテ索狀トナシ徐カニ牽出スベシ此ノ方法ヲ用ユルモ尙ホ遺殘スル部アルトキハ之レヲ放置スベシ

第九十八圖



クレデ氏胎盤壓出法

（シエツフル氏ニ由ル）

（十五）後產娩出後ハ陰部ニ損傷ナキヤ否ヤヲ診シ若シ之レ有ラバ之レヲ療シ之レナケレバ兩脚ヲ閉合シ產婦ヲ仰臥セシメ一手ヲ腹上ニ送リ子宮ヲ輪狀ニ按摩シ陣痛ヲ催進シ陣痛ヲ發スレバ按摩ヲ止メテ手ヲ靜カニ腹上ニ留メ反覆按摩

シテ子宮ノ善ク收縮シ圓形硬固兒頭大ノモノトナリ再ビ弛緩增大セザルヲ確カムルニ至リ按摩法ヲ止ム

（十六）子宮能ク收縮シタルトキハ更ニ外陰部及其周圍ヲ消毒シ消毒セル脫脂綿或ハ布片ヲ外陰部ニ貼シ丁字帶ヲ施シ安靜ヲ守ラシムベシ

（十七）後產完了スレバ胎盤及卵膜ノ各部ヲ檢シ其ノ完全ナルヤ否ヤヲ檢スベシ

○第二十七章　產科手術適應一般

第一　人工流產法ヲ行フ可キ適應症ハ左ノ如シ

（一）骨盤非常ニ狹隘ニシテ姙娠八ケ月スラ經過セザル所ノ胎兒モ尙ホ其胎路ヲ經テ分娩スルコト能ハザルニ當リ產婦若シ帝王截開術兒頭截割術胎兒分斷術等ヲ嫌忌スルガ爲メ是等ノ手術ニ據テ以テ胎兒ヲ出スコト能ハザル乎或ハ例令敢テ此至難ナル手術ヲ施シ得ルトスルモ其手術ノ豫後或ハ極メテ不良ナランコトヲトシ得ルトキ

（二）骨盤內ニ新生物ヲ生ジテ產道軟部ヲ壓迫狹隘ナラシムルニ際シ之ヲ手術ニ依テ以テ除去スルコト能ハザルトキ

（三）子宮後屈或ハ子宮脫ノ嵌頓症ニ於テ之ヲ挽回シ得可キ望アク而シテ既ニ危險ノ症狀ヲ發シタルトキ

（四）產婦若シ重症ノ疾病例ヘバ武雷篤氏病心臟病ノ代償機障碍ニ由テ其姙娠

ヲ持續スル能ハザルノミナラズ其胎兒ヲ墮出スルニ於テハ本病ノ輕快ニ望有ルトキ

(五)子癇嘔吐劇甚ニシテ百方之ヲ鎭靜スルコト能ハザルトキ

第二　人工早產法ニ適應スル諸症ハ左ノ如シ

(一)　骨盤ノ狹隘ナルコト扁平骨盤ニシテ前後ノ直徑八乃至七仙迷半ニ過ギザル者及全體狹隘ニシテ前後ノ直徑九仙迷ニ達セザル者

但シ骨盤ノ分娩時ニ當リテ其口徑ノ權衡ヲ失スルコトハ之ヲ豫定スルコト素ヨリ確實ナル能ハザルヲ以テ其產婦ニ質シテ往時分娩ノ模樣ヲ鑑ミ始メテ手術ノ適否ヲ定メ得可キナリ

(二)　產婦重症ノ疾病ニ罹リ當時流產ノ効以テ能ク本病ノ危急ヲ救ヒ得可キ望有ルトキ

(三)　子癇ヲ發シテ其勢劇甚ナルコト「クロヽフオルム」ノ嗅入クロラール」ノ灌腸莫比ノ皮下注射モ尙ホ之ヲ鎭靜セシムル「能ハズ或ハ熱浴及經絡被包等ノ發汗法ヲ試ムルモ毫モ其發作ヲ制スルコト能ハザルトキ

第三　卵膜穿開法ヲ行フ可キ適應症左ノ如

(一)　人工流產ヲ誘導スル時期

(二)　子宮口ノ充分ニ開張セルモ卵膜鞏靭ニシテ其破潰ノ往往遷延スル者（但シ縱位ノ際ニ限ル）

(三)　痙攣性陣痛即チ間歇時ナク陣痛連綿トシテ止マラザル者ヲ整然タル陣痛機能ニ調節センガ爲メノ必要アル時

(四)　羊膜水腫ノ徵ヲ認メタル時

(五)　胎盤ノ剝離早キニ過グルカ若クハ創位胎盤ニ於テ其出血ヲ止ムルノ要有ル時（但シ此際ニハ子宮口充分ニ開張シ有リテ以テ先降ノ胎兒部ヲ栓塞ノ如ク變容シ得可キ區域ナカル可カラス）

(六)　胎兒ノ異常位置即チ斜位或ハ橫位等ニ於テ其回轉法ヲ施シ正位ニ復シタル後之ヲ固定スヘキ必要アル時

但シ卵膜穿開ノ禁忌症骨盤狹窄、或ハ子宮口ノ狹窄及ビ强直、或ハ臍帶肢等ノ先降、或ハ胎兒ノ異常位置ナリトス

第四　鉗子娩出法ヲ行フ可キ適應症ハ左ノ如シ

(一)　子宮口ノ開張シ卵膜モ亦既ニシテ破裂セルモ兒頭ハ尙ホ骨盤ノ底部ニ旋轉シテ出デザルニ際シ母體及ビ胎兒ノ狀態完全ノ分娩ニ望有ル時

(二)　子宮口開張後二時間以上ヲ過クルモ兒頭深ク骨盤內ニ在リテ外面ニ露ハレズ既ニシテ其胎兒及ビ母體ニ危險ノ虞有ルコトヲ認ムル時

(三)　胎兒既ニシテ其頸部以下全體ヲ出セルモ子宮口ヲ以テ頸圍ヲ緊抑スルガ爲メ兒頭ノ子宮內ニ遺リテ其分娩ヲ妨ゲラル、時

(四)　陣痛微弱ヲ起シ爲メニ分娩久シキニ瀕リ母子ヲ害スル時

(五) 產婦非常ノ劇痛ヲ感ズルトキハ麻醉法ヲ行フヲ正當ナリト雖モ或ル場合ニ於テ之ヲ行フ可カラザルトキハ鉗子ヲ應用シテ分娩痛ヲ短縮セシムル一法アルノミ

第五 回轉法 凡テ先ツ外術ニ由テ之ヲ試ム可ク而シテ此法ヲ行フ可キ適應症左ノ如シ

(一) 子宮口ノ開張不充分ナル時(殊ニ頭位回轉法ヲ宜トス)

(二) 胎兒ノ斜位或ハ橫位ニ在テ卵膜尙未ダ破綻セズ且ツ骨盤ノ廣濶ナル者(頭位回轉法)

(三) 骨盤ノ廣狹不分明ナル乎若クハ非常ナル者ニ於テハ臀位回轉法外術ノ諸回轉法ヲ行フモ其効ナキニ於テハ手ヲ送入シテ足位回轉法ヲ施ス適應症左ノ如シ

(四) 胎兒橫位ニ在テ卵膜ノ尙ホ破綻セザルニ當リ子宮口ノ開張セル時或ハ羊水流出後ト雖モ尙ホ子宮口ヲ開張スル一ヲ得可ク且ツ子宮破裂ノ危險ヲ來ス可キ症候ヲ認メザル時

(五) 諸般ノ頭蓋位ニ於テスル兒頭尙ホ未ダ骨盤內ニ固定セズシテ容易ニ之ヲ回轉シ得可キ鑑識ノ確實ナル時

(六) 胎兒頭位ニ在リテ先ツ四肢或ハ搏動性臍帶ノ脫出スル時

(七) 骨盤中度ノ狹隘ニシテ往時分娩ノ胎兒頭蓋位ニ於テ其生命ヲ損セザルコトヲ詳ニスル者

(八) 分娩時ニ臨ミ母體若クハ胎兒ノ狀態他ニ傍發危險症ノ虞有ルガ爲メ當時速ニ分娩セシムルコトヲ要スルモ頭部尙ホ鉗子ノ應用ニ到來セザル時

(九) 胎盤ノ先降ニ在リテハ可成速ニ回轉法ヲ行フ可シ此際ニハ脚或ハ臀部ヲ牽出シテ子宮口ヲ栓塞セシムルコト肝要ナリ但シ子宮口ヲ損傷セザル樣注意ス可キコトハ勿論ナリトス大抵二指ヲ用ヰテ足ルモノナリ

第六 骨盤端位娩出法 ハ回轉法ヲ行ヒタル後ニ行フベキモノニシテ可成時期ヲ早マラザルヲ宜トス而シテ其適應症左ノ如シ

(一) 自然骨盤端位ニ在ルモ分娩遲延シテ胎兒ノ生命ニ危險ノ疑アルカ若クハ產婦ニ危險ノ症狀ヲ發シタル時

(二) 先降胎盤ニ於テ產婦ノ强壯ナル者(但シ可成猶豫シテ此術ヲ施サヾルヲ宜トス子宮口ノ裂創ハ假令小ナルモ甚危險ナル者ニシテ貧血家ノ如キハ爲メニ惡性出血ヲ來スコト屢々ナリ)

第七 骨盤端立ノ用手娩出法ヲ適應ス可キ症左ノ如シ

(一) 骨盤端位ノ自然分娩ニ於テ胎兒ハ既ニ臍部ニ至ル迄產出セルモ尙ホ體上半部ノ娩出ニ困難ナル時

第八 破顱術ハ子ーゲル氏鋏ヲ用ヰテ穿顱術ヲ施シ腦髓ヲ搾出セル後頭顱破碎器ヲ用ヰテ頭部ヲ挫分シ以テ分娩ニ易カラシムル法ナリ其適應症左ノ如シ

(一) 胎兒頭位ノ如何ナル場合ニ論ナク他ニ原因有リテ胎兒既ニ死亡スルカ若クハ死亡セザルモ瀕死ニ陷ヰルカ若クハ骨盤口或ハ産道軟部ノ非常ニ狹隘ナルガ爲メ分娩セザル時

(二) 子宮破裂ノ傾向有ル時

(三) 分娩第一期ニ臨テ窒息子癇等母體生命ノ危險ナルガ爲メ胎兒ノ生活ヲ顧ミルノ遑ナキ時

(四) 胎兒ノ頭部以下全身既ニ分娩スルモ頭部ノミ遺殘シテ露出セズ通常ノ用手法或ハ鉗子娩出法モ其効ヲ奏スルコト能ハザル時

第九 **斷首法** ヲ行フ可キ適應症ハ左ノ如シ(ブラウス氏鎖鈎ヲ稱用ス)

(一) 胎兒ノ横位ナル者ニ回轉法ヲ因循セルガ爲メ羊水流出シテ肩胛部ハ深ク骨盤内ニ壓下セラレ頭部ニ縱ニ牽引セラレテ子宮ハ胎圍ニ緊張スルヲ認ムルモ子宮破裂ノ虞有ルヲ以テ回轉法ヲ行フコト能ハザル時

第十 **帝王截開法** ヲ行フヘキ適應症ハ左ノ如シ

(一) 骨盤ノ非常ニ狹隘ニシテ百般ノ分娩法全ク無効ナルカ若クハ敢テ他ノ分娩法ヲ施スモ其豫後ヲ帝王截開術ノ豫後ニ比較シテ不良ナリト確診シタル時其他瘢痕收縮或ハ新生物ノ壓迫ニ由テ産道軟部ノ非常ニ狹隘トナル時

(二) 胎兒ノ分娩ニハ他ニ尚ホ種々ノ法有リテ母體ニハ危險ヲ招カザルノ望有ルモ姙婦自ラ其命ヲ棄ツルモ其胎兒ノ生育ヲ切望シテ止マザル時

第十一 **胎盤剝離手術** ハ其技術ノ困難ナルト或ハ此技術ヨリ來ル傳染毒危險ノ大ナルコト有ルヲ以テ必ズ賞用ス可キモノニ非ズ唯分娩第三期遷延ノ爲メニ危險ノ出血ヲ起スカ若クハ假令注意シテ其止血法ヲ試ムルモ尚ホ危險ナルトキニノミ限リテ行フ可キモノトス

第十二 **用匙除去法** トハ殘留卵膜ヲ産科匙ニ依リ除去スル法ニシテ頗ル熟練ヲ要スル者ナリト雖トモ之ヲ用手法ニ比スレハ遙ニ優レリ其適應症ハ不全墮胎或ハ胎盤ノ殘留症ニ於テ或ハ出血スルカ或ハ敗血症ヲ發セントスル時ナリトス

○第二十八章 産褥婦攝生法

産婦ハ心身ノ安靜ヲ要ス而シテ産後少ナクモ二週間ハ宜シク就褥セシメ以テ完全ナル生殖器ノ恢復ヲ圖ルベシ

○産褥室ハ廣濶清潔ニシテ空氣ノ流通宜キヲ要ス○食物ハ初メハ消化シ易ク滋養品ヲ與ヘ漸次常食ヲ用ユルニ至ルベシ○尿利及便通ハ共ニ注意スベキモノニシテ通常便秘ノ傾向アルガ爲ニ産褥第三日ニ至ルモ便通ナキ時ハ石鹼水、グリセリン等ノ灌腸ヲ行ヒ或ハ一乃至二食匙ノ蓖麻子油ヲ投ズベシ若シ嘔吐スル時ハ大黄サグラダ越、旃那、硫酸苦土等ヲ與フベシ○褥婦若シ尿閉ヲ發スル時ハ一日三回殺菌セル「カテーテル」ヲ用ヰテ排尿セシムベシ

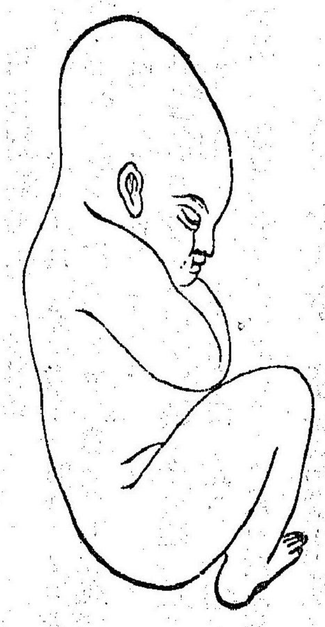
起立及ビ歩行○褥婦ハ第三日以後ニ於テ子宮ノ收縮佳良ナルニアラザレバ叨リニ

長ク側臥ヲ取ラシムベカラズ若シ子宮ノ收縮佳良ニシテ側臥ヲ取ルコトヲ許スモ一側ニ偏セザラシメ必ズ兩側相互ニ臥位ヲ取ラシムベシ而シテ第十日以後ニアラザレバ決シテ起立セシムベカラズ又屢々起立ニ際シ眩暈ヲ起シ卒倒スルコトアルヲ以テ充分ノ注意ヲ加ヘ徐々ニ身體ヲ運動セシムルコトヲ要ス○乳房ハ產褥ニアリテモ授乳ノ前後ニ淨水ヲ以テ拭淨シ清潔ニ保持スベシ○惡露ハ其量、色、臭氣等ノ性質ニ注意シ多量ニシテ臭氣ヲ帶ビ其色膿樣ナルガ如キトキハ創傷傳染ノ疑ヲ置キ適應ノ處置ヲ忘ルベカラズ

○第二十九章　初生兒ノ取扱法

臍帶ヲ切除シタル後煮沸殺菌セル水中ニ清潔ニシテ柔カキ小布片ヲ浸シ之レヲ以

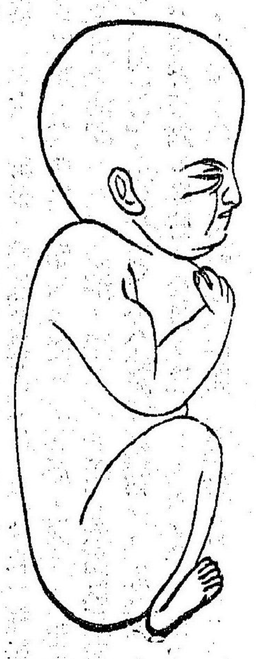
第九十九圖



後頭位ニテ產レタル兒頭

（ルンゲン氏ニ由ル）

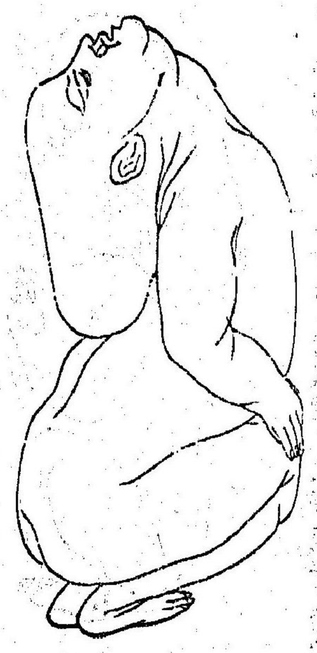
第百圖



前頭位ニテ產レタル兒頭

（ルンゲン氏ニ由ル）

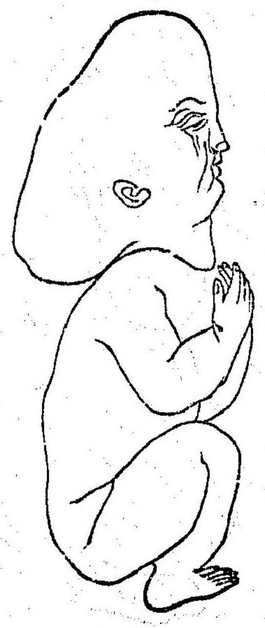
第百一圖



顏面位ニテ產レタル兒頭

（ルンゲン氏ニ由ル）

第百二圖



額位ニテ產レタル兒頭（ルゲンル氏ニ由ル）

テ先ヅ口ヲ清拭シ直チニ體溫ト同溫度ノ溫浴ヲ施シ胎脂ヲ除キ（胎脂除去困難ナルトキハ鷄卵或ハ嗅カキ「オレーフ」油ヲ用ユ）而シテ眼瞼ノ不潔物ヲ洗滌除去シ眼瞼ヲ開キ五十倍ノ硝酸銀溶液一滴ヲ點眼スベシ是レ初生兒膿漏性結膜炎ヲ豫防センガ爲ナリ次ニ臍帶ノ殘餘ヲ殺菌「ガーゼ」ヲ以テ纏絡シ之ニ繃帶ヲ施シ初衣ヲ着セシム兒頭ハ其產出ノ如何ニ從ヒテ其形ヲ異ニス（第九十九圖ヨリ百二圖）爾來毎日眼及口ヲ清潔ニシ、溫浴ヲ採ラシメ頸部腋窩鼠蹊臀部膝膕ニハ撒布藥ヲ撒布スベシ、初生兒ノ營養ハ產後八時間ノ後初メテ母乳ヲトラシメ（母乳ノ分泌未ダナキ時ハ茴香茶劑ニ乳糖ノ少量ヲ混ジタルモノ若シクハ單ニ溫湯ニ乳糖ヲ加ヘタルモノヽ少量ヲ與フ）爾後毎二時間（晝夜）若シクハ三時間（夜間）ニ之ヲ採ラシム

○第三十章　乳母ノ撰定

乳母ノ年齡ハ二十歲乃至三十歲ノ者ヲ可トス乳房ヲ壓シテ六乃至八個ノ乳管ヨリ乳汁ノ噴出ヲ認メザルベカラズ又乳頭ノ勃起ノ十分ナルモノヲ可トス

乳母ノ生ミタル子ハ發育十分ニシテ消化器ノ作用ニ變化ナキハ乳母トシテ適當ナルコトヲ證スルモノナリ然レドモ實際ニ於テ乳母ノ適當ナルヤ否ヤヲ定ムルニハ先ヅ數日間假ニ乳母ヲシテ授乳セシメ其成績如何ヲ見テ之ヲ用ユルヲ可トス但シ左ノ疾病アルモノハ一時ナリトモ乳母ノ職ニアラシム可カラズ即チ梅毒、結核、癲病、急性痳、腎臟病、貧血、トラホーム及自餘ノ傳染性疾病トス

○第三十一章　人工營養飲食料品

（甲）小兒ノ人工營養法

第一　牛乳　十分ニ煮沸シテ適度ニ稀釋シテ用ユ又諸種ノ品ヲ加ヘテ用ユ但シ煮沸スルニ「ソクスレー若クハ「ゾルトマン氏器ヲ用ユレバ最モ佳ナリ

○第一月牛乳一分稀釋液三分○第二月一分ト二分○第三及ヒ第四月等分○第五及第六月二分ト一分○第七及ヒ第八月三分ト一分○第九月ヨリ以上ハ純牛乳、

牛乳ニ加フベキ諸品左ノ如シ

（イ）水　十分ニ煮沸シタルモノヲ牛乳ノ稀釋ニ用ユ

(ロ)砂糖　乳糖ヲ可トスルモ蔗糖ヲ用ユベシ
(ハ)麥芽越　一〇〇、〇乃至一五〇、〇立方仙迷ノ牛乳ニ一茶匙、味ヲ美ニシ便秘ニ効アリ
(ニ)石灰水　二〇〇、〇立方仙迷ノ牛乳ニ一食匙過多ノ酸ヲ胃ニテ生ズルトキニ加フベシ
(ホ)煆製マグネシア　一〇〇、〇乃至二〇〇、〇立方仙迷ノ牛乳ニ一刀尖
(ヘ)粘滑液　一食匙ノ米ニ五〇〇、〇(凡ソ二合五勺)ノ水ヲ加ヘテ半時間煮テ半量ニ煮ツメ布ニテ漉シ更ニ水ヲ加ヘテ最初ノ量トナス下痢ノトキ加ヘテ効アリ
(ト)茴香水　一食匙ヲ一〇〇、〇立方仙迷ノ牛乳ニ加フベシ風氣ニ効アリ

第二肉羹汁(ソップ)　犢肉或ハ鷄肉ノ肉羹汁ヲ其儘或ハ牛乳ニ加ヘ用ユ
第三卵白水　鷄卵ノ卵白ニ水二〇〇、〇立方仙迷ヲ間斷ナク攪拌シナカラ加ヘ更ニ砂糖一五、〇ヲ加ヘテ用ユ
第四　「コンデンスミルク」　〇第一月　「コンデンスミルク」一分水二十二分〇第二月　一分ト二十一分〇第三月　一分ト二十分〇第四月　一分ト十九分〇第五月　一分ト十八分〇第六月　一分ト十七分〇第七月　一分ト十六分〇第八月　一分ト十五分〇第九月　一分ト十四分〇第十月　一分ト十三分〇第十一月　一分ト十二分〇第十二月　一分ト十一分

第五小兒粉　ヲストル氏、ハクフエーケ氏、ゲルベル氏等ノ小兒粉多ク賞用セラルル然レトモ本品ノミニテハ養育シ難キヲ以テ本品ハ牛乳ニ伍用スベキモノトス

(乙)　大人及ビ年長ノ小兒人工營養法

第一生肉液　新鮮ナル生牛肉ノ脂肪ナキトコロヲ細截シ強ク壓搾シテ製ス、時々一食匙宛内服スベシ「ソップ」杯ニ加ヘテ用ユルモ可ナリ但シ本品ハ決シテ溫メテ用ユベカラズ
第二肉液アイスクリーム　肉液ニ「コンニツヤク酒」、ワニルレン糖枸櫞汁ヲ加ヘテ製ス
第三ワレンチン氏肉液　冷水若クハ湯二分ニ本品一分ヲ加ヘテ用ユ
第四牛肉プイヨン　四〇〇、〇ノ脂肪ナキ牛肉ヲ細截シ凡ソ一〇〇〇、〇入リノ瓶ニ入レ輕ク栓ヲナシ湯ノ中ニ入レ徐々ニ熱シテ沸騰セシメ沸騰シ始メテヨリ二十五分間ノ後瓶ヲ取リ出シ其汁ノミヲ取リテ用ユ
高度ナル消化不良ノ者或ハ嘔吐アル者ニ用ユ
第五ロイベ、ローゼンタール氏肉液　一椀ノ「ソップ」若クハ湯ニ本品一食匙ヲ加ヘテ用ユベシ
第六肉粉　牛肉ヲ細ク薄ク截リテ重湯煎ニテ十分ニ乾燥セシメ乳鉢ニテ粉末トナシテ製ス本品五〇、〇瓦ヲ牛乳或ハ「プイヨン」ニ和シテ用ユ一日一回ヨリ數

回

第七ソマトーゼ　ソマトーゼハ一日三乃至四回一食匙宛肉羹汁、牛乳、咖啡等ニ加ヘテ用ヰ或ハ單ニ本品ノミヲ用ユ、入事不省ノ患者ニハ十乃至二十五%ノ液トナシ其二十五立方仙迷ヲ皮下ニ注射スベシ凡テ貧血、胃病、熱性病ノ患者及恢復期ノ患者ニ用ヰテ効アリ

第八リービヒ氏肉越幾斯　生肉液或ハ「ブイヨン」等ニ加ヘ若クハ本品ノミヲ用ユ

第九ペプトーン　(イ)コッホ氏肉ペプトーン一茶匙ヲ二五〇、〇ノ「ブイヨン」ニ加フ(ロ)ケンメリヒ氏肉ペプトーン一茶匙ヲ二五〇、〇ノ「ブイヨン」ニ加フ(ハ)リヂーグト氏流動肉ペプトーン一食匙ヲ一椀ノ「ブイヨン」ニ加フ(ニ)アントワイレル氏アルブモーゼン、ペプトーン一茶匙ノ本品ヲ一椀ノ湯、牛乳等ニ溶解シ食前ニ用ユ

凡テ「ペプトーン」ハ下痢ヲ惹起スルコトアリ又タ皮下注射ニ供スルトキハ有毒ナルガ故ニ皮下注射用トナスコトヲ禁ス

第十ラーデマン氏　マウエナリア(燕麥粉)肉羹汁、牛乳、水ニ和シテ用ユ味美ナリ

第十一アロイロナート　一分ノ「アロイロナート粉ヲ三分ノ牛乳、水ニテ煮沸シテ用ユ專ラ糖尿病患者ニ用ユ

第十二リベニン　一日數回一茶匙乃至一食匙

第十三卵黄　卵黄九乃至十貳個牛乳五合ニ砂糖二〇〇、〇ヲ加ヘ三回ニ用ユ又卵黄二個コンニヤック酒四食匙水八食匙若クハ四食匙ノ葡萄酒四食匙ノ水トニ適宜ノ砂糖ヲ加ヘテ用ユ

○第三十二章　食用品分析表

(甲)　野菜及海藻類分析表

名稱	蛋白質	脂肪	無窒素物	木材素	灰	水
甘藷(サツマイモ)	一、三五	〇、一九	六、六三	二、四八	〇、九三	六六、二八
青芋(ヤツガシラ)	一、四〇	〇、〇八	二、七〇	〇、六三	〇、九九	八五、二〇
九面芋(ナガイモ)	二、七八	〇、二九	三五、六九	一、一五	一、二八	六八、八一
薯預(クイモ)	二、三五	〇、一三	一七、九七	一、九	一、一七	七六、二〇
佛掌松(ツモ)	二、八五	〇、一一	一四、七二	〇、三五	一、二六	八〇、三一
蓮根	一、七〇	〇、〇八	一〇、八三	〇、四四	一、一三	八五、三九
蕪菁	一、六二	〇、〇七	二、八三	〇、七一	〇、七八	九四、〇〇
慈菇	四、二七	〇、二〇	一四、二六	〇、四五	〇、四四	六九、二八

名稱	蛋白質	脂肪	無窒素物	木材素	灰	水
根芋ヒヱ波ッ蝶ヲ微ヒシ水ヒ狗	0.40	0.01	3.40	0.51	1.24	94.35
馬鈴薯	1.15	0.35	14.1	1.10	0.48	82.13
百合根	1.36	0.08	15.13	2.18	0.53	80.51
慈姑	1.42	0.08	14.31	1.06	0.42	82.21
午蒡	3.34	0.12	13.15	1.42	0.35	81.35
胡蘿蔔	1.24	0.10	12.13	1.35	1.03	82.40
羅勒	1.01	0.13	3.13	—	1.04	94.30
芹ヲ	2.13	0.24	14.56	2.51	10.48	56.30
糯ヒレ	1.56	0.13	1.14	3.48	1.18	91.18
蓬ヲ草サ	1.30	0.12	1.56	0.58	1.30	94.24
芋	4.06	2.94	14.10	2.56	1.56	73.14
蕗	1.12	0.06	2.51	0.42	0.56	94.13

冬瓜ヲ	0.42	0.04	2.34	0.41	0.31	94.50
南瓜	0.56	0.15	5.06	0.58	0.45	93.20
茄子	1.00	0.05	3.11	1.41	0.41	94.00
甜瓜	1.15	0.42	4.10	1.12	0.58	94.12
胡瓜	0.46	0.06	1.56	—	0.42	96.56
黑胡椒	16.56	14.15	16.42	—	10.61	56.56
白胡椒	10.55	15.18	13.51	—	6.35	56.56
銀杏	3.46	1.16	14.51	0.56	1.56	80.00
筑紫	3.13	0.16	0.13	1.16	1.08	92.16
三ツ葉	0.56	0.13	3.42	1.16	1.13	92.56
島紫蘇	3.42	0.16	0.56	1.46	1.42	92.16
三椏	1.42	0.13	0.51	0.56	1.06	92.51
糯米	3.51	0.13	3.11	0.18	0.35	92.60

名稱	蛋白質	脂肪	無窒素物	木材素	灰	水
果カワメ	二、九〇	〇、三八	三六、四九	一、三	一、三	五七、八九
裙帶菜ヒジキ	二、六二	〇、三二	三七、八一		三、一五	一八、九二
羊栖菜ヒジキ	二、三七	〇、四九	五四、八四		一七、五六	一五、七四
昆布	七、二	〇、八七	四七、七〇		三、二四	二三、〇八
青海苔	一九、六五	一、七五	四六、一八		一九、二二	二二、五二
乾海苔アラメ	三三、五五	一、三〇	四一、三三		九、七五	二三、九八
黑菜アラメ	九、六五	〇、四六	五一、六三	九、七九	九、七九	一八、七五
椎茸	二、六三	一、六八	六七、七三	四、三七	四、三七	一四、五九
松茸	三、七三	〇、七八	一三、七八	一、〇〇	一、〇〇	八一、七三
乾瓢	八、一九	一、五四	五四、三二	四、九三	四、九二	二〇、三五
蒟蒻	〇、〇二	—	三、一〇	〇、四八	〇、四八	九六、一五
澤庵漬	一、三六	〇、〇六	六、〇二	一、五三	八、三〇	八三、七五
三河島漬菜	二、二八	〇、三二	三、五三	二、三三	〇、四八	九一、二五

(乙) 飯及ビ麵類

名稱	蛋白質	脂肪	無窒素物	木材素	灰	水
飯 上白米	三、〇〇	〇、〇四	三三、七二	〇、一三	〇、一六	六二、八五
飯 中白米	三、四九	〇、〇五	三四、〇二	〇、一三	〇、一四	六二、〇六
飯 下白米	三、〇六	〇、〇六	三一、五三	〇、三〇	〇、一八	六四、八五
飯 中級	三、〇九	〇、〇五	二九、七七	〇、三三	〇、一八	六六、五六
參飯	三、七	〇、三	一八、七四	〇、七	〇、四三	七六、〇六
蕎麥	三、三三	二、七三	六八、六六	一、一六	一、四三	三、九〇
煮溫飩	四、八六	〇、一〇	二五、九三	〇、四四	〇、三五	六八、三一
煮素麵	二、四五	〇、〇七	一七、一二	〇、二九	〇、二九	七九、九六

(丙) 菓類

名稱	粗蛋白質	脂肪	無窒素物	有機	木材纖維	灰	水
黑豆	四〇・三五	一八・二六	三二・九七		三・六	四・五五	一二・〇九
大豆（野州産）	三六・七一	一七・四三	三四・九三		二・四七	五・〇〇	一三・四六
大豆（武州産）	四二・八五	一三・五八	三三・六八		二・九一	四・七〇	一二・二八
小豆（野州産）	二二・〇二	〇・四〇	五五・四九		六・四四	三・〇六	一二・七〇
小豆（武州産）	二二・九七	〇・三八	五一・六七		五・四四	三・五四	一七・〇〇
豌豆	二二・六九	〇・五六	五一・〇三		七・二〇	二・四九	一四・九三
菜豆（ソンサイ）	三八・八八	一・二九	四九・七四		一・二二	三・一一	一五・六六
豆（メンサイ）	二〇・三〇	一・〇七	五三・一九		四・四六	三・四七	一七・五一
菜豆（ナタマメ）	二・六八	〇・二〇	三・八〇		二・八八	〇・九一	八八・五三
豆（ナリ）	一五・五九	〇・七〇	五二・六〇		五・〇一	二・二五	二二・八五
刀豆（ナタマメ）	二・三九	〇・一四	五・三二		二・二八	〇・九一	八八・九六
鵝豆（ジャメ）	二・二六	〇・一五	二・二五		二・四六	〇・六二	九二・二六

（丁）鳥肉、獸肉、魚肉、貝類分析表

名稱	粗蛋白質	脂肪	有機體無窒素	灰	水
鶏肉（肥）	一八・四九	九・二四	一・二〇	〇・九一	七〇・〇六
同上（痩）	一九・七二	〇・四二	一・二七	一・二七	七六・二二
鴨	二二・六五	二・一一	一・二五	一・〇九	七〇・八二

名稱	粗蛋白質	脂肪	有機體無窒素	灰	水
白味噌	一一・二二	〇・九二	一四・〇二	二・八二	五五・九七
豆腐	八・五五	一・九五	一・〇五	〇・〇二	八八・九七
豆腐皮	三二・八〇	五一・八〇	八・八九	〇・四八	二二・八五
豆腐菜	二・八八	〇・八四	六・二五	二・九〇	八四・八八
油揚	二二・九八	八・七二	〇・四九	〇・〇八	五七・四〇
豆腐	八・五五	二・九五	一・〇五	〇・〇二	八八・九七

名稱	蛋白質	脂肪	有無機窒素	灰	水
牡牛乳	三、三九	五、一九	0	一、七一	八三、三五
牝牛乳	三、六六	七、七〇	〇、四一	一、〇七	八〇、九六
豚肉(肥)	四、五四	三七、三〇	0	〇、七三	四七、四〇
同上(瘠)	一九、九一	六、八三	0	一、一〇	七三、一八
馬肉	四、四九	〇、七三	0	一、一七	七三、六三
鯛(肥)	一七、六〇	三、〇七		一、三八	七七、九〇
同上(瘠)	一〇、二八	〇、七五		一、三六	七七、六一
比目魚	一九、一六	〇、四七		一、一二	七九、三五
鮭(カレイ)魚	二一、九五	〇、七四		一、四五	七五、八八
鮫(サヨリ)魚	一八、一二	三、三〇		一、二〇	七七、三八
鮪(マグロ)魚	一七、六六	一、八九		一、五五	七八、九〇
鮫(ヨシキリ)魚	一九、二二	一、六六		一、三五	七七、八八
鮫(肥)	二五、七九	一〇、六四		一、八二	七一、五五

名稱	蛋白質	脂肪	有無機窒素	灰	水
鰹ノ腸ニ鯉(ソコキ)	一八、六二	二、九五	0、二二	一、〇二	七七、〇〇
鰤(ブリ)魚	一八、九四	〇、八三	〇、四一	一、〇〇	七二、二四
梅(ウメ)鯛(ダイ)魚	二二、四四	二、八三	0、六六	一、二二	七三、六六
鰈(ソモチ)魚	二二、九六	一、四五	0、七四	一、〇二	七六、〇〇
鯖(サバ)魚	一九、九六	〇、九〇	0、九九	一、一二	七七、九〇
鮭(サケ)魚	一八、八七	〇、六〇	0、九九	一、一一	七九、九一
鰯(イワシ)魚	一七、六八	一、四五	0、四四	一、一三	七九、九九
鯨ノ脂肪	一六、四三	三、六三	0、四四	一、〇一	七九、四六
鯨ノ皮	一八、三五	〇、五〇	0、五五	一、〇二	七九、六六
鯨ノ肉	二〇、四三	四、七八	0、四四	一、四五	七三、三四
鯨ノ腸	二一、一〇	四、八八	0、四四	一、五二	七三、五〇
鯨ノ舌	六、四四	二六、六六		六、八五	一〇、八五
同上(瘠)	一五、〇六	一、二二		一、〇〇	七二、七七
鮫ノ肉	一五、〇六	四、五五		一、四二	七〇、〇〇

名稱	蛋白質	脂肪	無機質	灰	水
鰮（イワシ）	二一、三九	六、七二		一、六四	七〇、三五
鱈（タラ）	二一、〇〇	〇、七五		一、五二	七六、七二
石斑魚（イナメ）	二一、〇三	〇、四五		一、五七	七六、九五
針魚（サヨリ）	三、六五	六、二〇		一、一四	七四、七一
鰹（カツオ）	一九、六	〇、八〇		二、三七	五六、八五
鰤（ブリ）	一八、七三	〇、三〇		一、五八	七九、三九
鮃（ヒラメ）	三、一四	一、七二		一、四〇	七四、七四
鯖（サバ）	一七、九八	三、一一		一、二五	七八、六五
鰈（カレイ）	一八、三五	一、四一		一、二〇	七九、〇四
鰻（ウナギ）	一八、〇九	二、六九		一、一四	六九、二四
泥鰌（ドジョウ）	一八、四三	〇、五〇		一、五六	七三、五九
鮫	二四、八二			一、〇九	

名稱	蛋白質	脂肪	無機質	灰	水
鯛（タイ）	一八、五五	一、一八		一、二七	七〇、〇〇
鱈（タラ）	二〇、〇七	〇、四一		一、一四	七八、三八
鱈子（タラコ）	一八、四三	〇、二〇		一、二四	八〇、一四
鮭（サケ）	二一、二三	〇、八八		一、五七	七六、四三
鱒（マス）	三三、三七	〇、八七		一、四七	七五、一九
鮭（シタビラメ）	三一、五三	〇、四三		一、七七	七六、二九
底魚（ヒラメ）	一八、九八	一、〇三		一、五一	七六、四九
鯉（コイ）	一七、三四	一、二八		六、七五	八一、八三
鮒（フナ）	一九、一三	〇、五六		一、四一	七八、九一
鯉（ヒラ）	二六、一〇	三、一四		九、二〇	六一、五一
鰤（ブリ）	一八、六〇	〇、一五		三、五五	七七、七〇
鯨（クジラ）	七、六七	八、九四		二、二五	八、一〇
鯨脂（クジラスボシ）	五九、六三	二、〇七		三、八〇	四四、五二
鶴（ツル）毛（ケ）ノ魚（ウオ）	二〇、六四	一、二五		〇、四五	七七、六六

名稱	蛋白質	脂肪	無窒素有機體	灰	水
鱈乾（メルルー）	六、五五	三、三三		六、一七	三一、〇八
シコ目刺	二九、一八	六、二〇		九、九一	四〇、七一
鰹節（カツボシ）	五五、六〇	五、二一		五、〇三	一四、二六
魚鮮	二〇、八九	〇、〇七		二、四三	七〇、三七
蛤（アサリ）	一三、一九	〇、八一		一、八八	八四、一一
蜊（ワカヒ）	一三、二〇	〇、七七		一、九六	八四、〇四
石決明（アワビ）	二四、五八	〇、四四		一、九八	七三、〇〇
蜆	一八、四〇	〇、八四		一、一九	七九、五七
牡蠣（アカ）	八、四五	〇、八九		〇、七七	八九、八九
斜蛤（カイ）	一五、七五	〇、四五		一、七三	八二、〇四
馬鹿貝	二一、〇八	〇、五六		二、二〇	八六、一六

田原良純氏ノ分析ニ從フ

○第三十三章　滋養灌腸料

第一肉液　前章ヲ參照スベシ

第二ペプトーン　一五、〇二一〇〇、〇〇ノ水ヲ加フ

第三ソマトーゼ　前章參照スベシ

第四ロイベ氏肉膵灌腸法　三分ノ牛肉、一分ノ膵ニ攝氏四十度ノ溫湯ヲ加ヘテ灌腸ス

第五クツスマウル氏卵灌腸法　數個ノ卵ニ其半量ノ水ヲ徐々ニ加ヘテ良ク混合シ十二時間ノ後之レヲ漉シ攝氏三十七度ニ溫メテ用ユ卵一個ニ食鹽一、〇ノ割合ニテ食鹽ヲ加フルヲ更ニ可トス

第六ボアス氏ノ滋養灌腸法　牛乳二五〇、〇卵黃二個食鹽一茶匙赤衛葡酒一食匙以上混和シテ用ユ、之レヲ灌腸スル前ニ先ヲ洗滌灌腸ヲ行ヒ而シテ子ラドン氏カテーテルヲ深ク直腸内ニ入レテ灌腸ス

○第三十四章　皮下注射藥及其用量主治

皮下注射器ハ其製普通藥液ノ量一瓦ヲ容ルベキ玻璃製唧筒ニシテ其中軸ノ表面ニ標刻セル分劃線ハ每線藥液一瓦ノ十分一ヲ示ス者リリ故ニ注射用ノ藥液モ亦其液中ニ含有スル藥品ノ現量幾許ナルヤヲ知リ易キガ爲メ一ニ對スル五百、百、五十等凡テ十分比例ノ配合ヲ以テス可シ而シテ注射器ノ套管鍼ハ之ヲ用ユルノ際可成速

カニ皮下ノ深組織ニ達スルコトヲ要スル者ナルヲ以テ鋭利清潔ヲ貴ブ可シ彼ノ酸化シテ錆ヲ帶ビタル套管鍼ノ如キハ之ヲ深ク組織中ニ刺入スルコト容易ナラザルノミナラズ或ハ徒ラニ組織ヲ傷ケ或ハ患者ヲシテ痛楚ニ苦マシメ又或ハ病毒ノ附着セル者ヲ送ル等其害尠ナカラズ

藥液注射ノ際ハ其皮膚ヲ左手ノ拇食二指間ニ摘テ高ク扛擧シ又注射後ニハ其部ヲ接壓シテ藥液法ノ吸入ヲ促進ス可シ

○石炭酸水　(〇、三)一〇、〇(即チ石炭酸〇、三餾水一〇、〇)一回ノ量半筒乃至一筒(即チ石炭酸ノ量ハ〇、〇一五乃至〇、〇三)或ハ以上主治局處消炎、神經痛

○アンチピリン水　(五、〇)一〇、〇(但シ熱湯ヲ用ユ)一回量一筒乃至二筒(〇、五乃至一、〇)局處鎭痛、解熱

○鹽酸アポモルヒヲ水　(〇、一)一〇、〇一回量大人ニハ半筒乃至一筒(〇、〇〇五乃至〇、〇一)小兒ニハ十分一筒半乃至十分三筒(〇、〇〇一五乃至〇、〇〇三)吐劑

○硫酸アトロピン水　(〇、〇一)一〇、〇一回量十分ノ四筒乃至一筒(〇、〇〇〇四乃至〇、〇〇一)ピロカルピン中毒、モルヒヲ中毒、

○エーテル　一回量半筒乃至一筒興奮

○樟腦油　(樟腦一、〇オレーフ油一〇、〇)一回量一筒乃至二筒(〇、一乃至〇、二)興奮

○鹽規水　(鹽規〇、五グリセリン、餾水各二、五)一回量一筒或ハ以上(〇、一以上)解熱麻拉里亞

○鹽酸コカイン水　(〇、二)一〇、〇一回量半筒乃至二筒局處麻醉

○燐酸コデイン水　(〇、五)一〇、〇一回量半筒乃至一筒

○安息香酸ナトリウムカフェイン水　(二、〇)一〇、〇一回量半筒乃至一筒(〇、一乃至〇、二)偏頭痛

○麥角越水　(二、〇)一〇、〇石炭酸〇、二一回量半筒乃至一筒(〇、一乃至〇、二)止血陣、陣痛、痛催進、子宮筋腫

○鹽酸ヘロイン水　(〇、〇五)一〇、〇一回量半筒乃至一筒

○鹽莫水　(〇、二)一〇、〇一回量半筒乃至一筒半(〇、〇一乃至〇、〇三)鎭痛、鎭痙

○亞砒酸カリウム液水　(二、〇)一〇、〇一回量半筒乃至一筒(〇、一乃至〇、二)乾癬舞蹈病、痙攣、神痙痛、神經疾患

○食鹽水　(食鹽六、〇炭酸ナトリウム二、〇蒸餾水一〇〇〇、〇)一回量五〇〇、〇乃至一〇〇〇、〇三十九度ニ溫メテ用ユ、大失血虎列刺

○鹽酸ピロカルピン水　(〇、二)一〇、〇一回量一筒乃至二筒(〇、〇二乃至〇、〇四)發汗

○硝酸ストリキニーヲ水　(〇、〇五)一〇、〇一回量十分ノ一半筒乃至一筒(〇、〇

○三乃至〇、〇一)

○第三十五章　吸入藥及其用量主治

(但シ蒸氣吸入器ヲ用ユ)

藥品名稱	分量	溶解液	量	主治
石炭酸	〇、五—二、〇	餾水	二〇〇、〇	肺壞疽
乳酸	五、〇—一〇、〇	同	二〇〇、〇	腐敗性氣管支炎
タンニン酸	一、〇—四、〇	餾水	二〇〇、〇	實扶的里性喉頭炎
亞硝酸アミール	二乃至五滴ヲ布片上ニ嗅シ用ユ	グリセリン	各一〇〇、〇	氣管支粘液漏
粗製明礬				痙攣性偏頭痛
石灰水、鹽水	〇、五—四、〇	餾水	二〇〇、〇	慢性氣管支加答兒
クレオソート水	各等分			同　喉頭加答兒
メール水	二、〇—一〇、〇	餾水	二〇〇、〇	格魯布性喉頭炎
	二、〇—四〇、〇	同	二〇〇、〇	肺痨　喉頭痨

ブローム、臭素カリ	各〇、四	同	二〇〇、〇	實扶的里性喉頭炎
硫酸キニーネ	〇、五	同	二〇〇、〇	定型性喘息
過グロール鐵液	一、〇—五、〇	同	二〇〇、〇	咯血
グリセリン	二〇、〇	同	二〇〇、〇	肺痨、喉頭痨
ヨードカリウム	一、〇—二、〇	同	二〇〇、〇	喘息
炭酸リチウム	〇、五—四、〇	同	二〇〇、〇	格魯布性、實扶的里性喉頭炎
安息香酸ナトリウム	一〇、〇—二〇、〇	同	二〇〇、〇	同上
重炭酸ナトリウム	〇、五—四、〇	同	二〇〇、〇	喉頭炎、氣管支炎
食鹽	〇、五—四、〇	同	二〇〇、〇	喉頭炎、氣管支炎

○第三十六章　配合禁忌藥

主藥	配合藥
鹽酸及硝酸硫酸	アルカリ類 酸化金屬類 有機酸鹽類 越幾斯類
亞砒酸	炭酸マグネシウム 酸化マグネシウム 酸化鐵 ヨードカリウム 石灰水
サリチール酸劑	過マンガン酸カリウム ヨードカリウム 石灰水 醋酸燐酸及硼酸ナトリウム
タンニン酸	蛋白質膠質澱粉ゴム 金屬鹽類 石灰水 炭酸アルカリ
硝酸銀	硫酸鹽酸及其鹽類 醋酸、酒石酸、青酸及其鹽類、杏仁水 ヨードブロームヨード及其鹽類 植物鹽基、植物性粉末
次硝酸蒼鉛	タンニン酸含有物 甘汞硫黃、硫化アンチモニー
鹽酸キニーネ	レゾルチン タンニン酸含有物
抱水クロラール	水溶液トナシ置ク時ハ炭酸アルカリ アンモニア鹽類 有機酸ノアルカリ鹽類
鹽酸コカイン	タンニン酸含有物 アルカリ鹽類 ヨード化鹽類

主藥	配合藥
カフエイン	ヨード化類 アルカリ鹽類 タンニン酸含有物
キナ皮	醋酸カリウム アルカリ鹽類 炭酸アルカリ ヨード鹽類 硫酸マグネシウム 亞砒酸カリ液 次亞燐酸鹽類 タンニン酸及其含有物赤葡萄酒
ヂギタリス葉	鉛糖、ヨード、ヨードカリ、炭酸アルカリ 鐵鹽類
ウワウルシ葉	酸類ニ由リテ「アルカロイド」含有物 金屬鹽類 石灰水 蛋白質類
甘汞	酸類及酸性鹽類 炭酸アルカリ及石灰水 ヨード鹽類 ヨード鹽及其製劑 次硝酸蒼鉛 越幾斯類 白糖、モルヒネ含有物其他還元性チオール物質
醋酸カリウム	鑛酸類 キナ及其製劑 抱水クロラール 赤葡萄酒
ヨードカリウム及ナトリウム	鑛酸類及酸性鹽類 硝酸銀酸化鐵 植物鹽基 水銀及鉛鹽類
鹽酸モルヒネ	ヨード鹽類 タンニン酸含有物 ノ重金屬酸類

重炭酸ナトリウム	酸類、酸性鹽類 植物鹽基含有物 タンニン酸及其含有物金屬酸類
阿片	炭酸アルカリ 金屬鹽類 タンニン酸含有物 藩木鼈及其製劑 ベラドンナ及其製劑
吐根	タンニン酸及其含有物 硝酸アルカリ アルカリ鹽 炭酸アルカリ鹽類
ゼヂガ根	酸類 アンモニヤ含有物及其鹽類
藩木鼈越幾斯及丁幾	アルカリ類 炭酸アルカリ ヨードカリ タンニン酸及其含有物金屬鹽類
蔘角	濕炭酸カリ ヨードカリ タンニン酸及含有物 酒精含有物 重金屬鹽類
ヨード鐵含利別	タンニン酸含有物
アンモニア茴香精	甘汞 植物鹽基含有物 酸類及酸性鹽類 ヨード及其溶液
コロンボ	ヨードカリ 酸類
アンチピリン	亞硝酸化合物 撒曹 甘汞 抱水クロラール
プロームカリウム及プロームナトリウム	鑛酸 水銀鹽類 銀鹽類

○第三十七章　第三改正日本藥局方

○內務省令第二十一號

明治二十四年五月內務省令第五號日本藥局方左ノ通改正シ明治四十年一月一日ヨリ施行ス

但前日本藥局方所定ノ藥品ハ本方施行後ト雖モ明治四十年十二月三十一日マテハ本方ト共ニ仍ホ其効ヲ有ス其前日本藥局方ニ據ルモノハ「前日本藥局方」ノ六字ヲ明記スヘシ

明治三十九年七月二日　內務大臣　原　敬

第三改正日本藥局方

中略

（第一表）藥局ニ於テ常ニ貯藏スルヲ要スル藥品

アセトアニリード	硼酸
アセチールサリチール酸	石炭酸
亞砒酸	稀鹽酸
サリチール酸	稀硫酸
タンニン酸	

酒石酸
含水ラノリン
麻醉用エーテル
藍靑
硼砂
澱粉
砒石解毒劑
アンチピリン
鹽酸アポモルヒヲ
アムモニア水
石炭酸水
蒸餾水

杏仁水
熔製硝酸銀
硫酸アトロピン
ペルーバルサム
次硝酸蒼鉛
次サリチール酸蒼鉛
煆製石灰
煆製硫酸カルチウム
精製樟腦
鹽酸キニーヲ
抱水クロラール
クロヽフォルム

鹽酸コカイン
キナ皮
硫酸銅
英法絆創膏
綿馬越幾斯
ゲンチアナ越幾斯
蔓菁越幾斯
麥角越幾斯
還元鐵
ヂギタリス葉
センナ葉
フォルマリン

グリセリン
アラビアゴム
昇汞
甘汞
ヨードフォルム
重酒石酸カリウム
ブロームカリウム
クロール酸カリウム
ヨードカリウム
クレオソート
過クロール鐵液
醋酸カリウム液

亞砒酸カリウム液
次醋酸鉛液
煆製マグヲシア
硫酸マグヲシウム
鹽酸モルヒネ
重炭酸ナトリウム
クロールナトリウム
サリチール酸ナトリウム
カヽオ脂
硫酸ナトリウム
肝油
オレーフ油

蓖麻子油
胡麻油
阿片
ドーフル散
吐根
大黃
ヤラッパ脂
乳糖
人工カルヽス泉鹽
サントニン
麥角
ヨード鐵舍利別
單舍利別

酒精
甘草羔
苦味丁幾
橙皮丁幾
吐根丁幾

ヨード丁幾
阿片丁幾
ストロフアンツス丁幾
番木鼈丁幾
頼草丁幾

水銀軟膏
單軟膏
亞鉛華軟膏
アセリン
硫酸亞鉛

（第二表）本表ノ藥品ハ猛烈ナル作用ヲ有シ所謂毒藥ニ屬ス他ノ藥品ト區別シテ閉鎖セル場所ニ藏メ最モ注意シテ貯フヘシ

亞砒酸
稀青酸
鹽酸アポモルヒネ
ヨード砒素
硫酸アトロピン

アコニット越幾斯
カラバル豆越幾斯
ブロームカリウム水素酸ホマトロピン
昇汞
赤色ヨード汞

黄色酸化汞
赤色酸化汞
サリチール酸汞
ヨード砒素汞液
亞砒酸カリウム液

鹽酸モルヒネ
硫酸モルヒネ
ニトログリセリン
巴豆油

昇汞錠
鹽酸モルヒネ錠
燐
サリチール酸フィゾスチグミン

硫酸フィゾスチグミン
鹽酸ピロカルピン
硝酸ストリキニーネ
ウエラトリン

（第三表）本表ノ藥品ハ劇藥ニ屬ス他ノ藥品ト區別シ注意シテ貯フベシ

アセトアニリード
石炭酸
粗製石炭酸
流動石炭酸
クローム酸
鹽酸
硝酸

粗製硝酸
發烟硝酸
ピクリン酸
硫酸
粗製硫酸
トリクロール醋酸
アガリチン

亞硝酸アミール
アンチピリン
サリチール酸アンチピリン
苦扁桃水
杏仁水
バクチ水
硝酸銀

硝酸銀加硝石
熔製硝酸銀
ブローム
安息香酸ナトリウムカフェイン
サリチール酸ナトリウムカフェイン
カフェイン
ブローム樟腦
カンタリス
蓚酸セリウム
抱水クロラール
クロヽフルォム
鹽酸コカイン

燐酸コデイン
發泡コロヂウム
銅礬
硫酸銅
ヂメチールアミドアンチピリン
印度大麻越幾斯
コロシント越幾斯
ヒヨス越幾斯
阿片越幾斯
南陸越幾斯
蓋若越幾斯
麥角越幾斯

番木鼈越幾斯
ベラドンナ葉
ヂギタリス葉
ヒヨス葉
曼陀羅葉
フォルマリン
コロシント實
昇汞綿
ヨードフォルム綿
グアヤコール
藤黄
印度大麻草

ロベリア草
甘汞
蒸汽製甘汞
黄色ヨード汞
油酸汞
白降汞
ヨードフォルム
ヨード
苛性カリ
クロール酸カリウム
ヨードカリウム
クレオソート

グッタペルカ液
ニトログリセリン液
次醋酸鉛液
メチールズルフォナール
鉛丹
鹽酸ヂアセチールモルヒネ
苛性ナトロン
揮發芥子油
阿片
パラアルデヒード
アンチピリン錠
鹽酸コカイン錠

甘汞錠
阿片吐根錠
フェナセチン
コロシントヒヨス丸
醋酸鉛
酸化鉛
ドーフル散
アコニット根
ゲルゼミウム根
吐根
ヤラッパ根
蓋若根

ヤラッパ脂
ポドフィルム脂
サントニン
蓼角
コルヒクム子
カラバル豆
ストロファンツス子
番木鼈
ヂフテリア血清
破傷風血清
硫酸スパルテイン
吐酒石

金硫黄
ズルフォナール
昇汞ガーゼ
ヨードフォルムガーゼ
サリチール酸ナトリウム
テオブロミン
アコニット丁幾
カンタリス丁幾
複方クロヽフォルムモルヒ子丁幾
コルヒクム丁幾
コロシント丁幾
ヂギタリス丁幾
ゲルゼミウム丁幾

吐根丁幾
ヨード丁幾
ロベリア丁幾
阿片丁幾
阿片安息香丁幾
蔓菁丁幾
ストロファンツス丁幾
番木鼈丁幾
ツベルクリン
コルヒクム酒
吐根酒
芳香阿片酒

吐酒石酒
クロール亞鉛

スルフォ石炭酸亞鉛
硫酸亞鉛

緬草酸亞鉛

（第四表）　大人ニ對スル藥品一回及一日ノ極量

醫師其處方箋ノ藥名ノ下特ニ注意標(!)ヲ記スルニアラサレハ此量ヲ超エテ處方スルヲ許サス

藥品ノ目	一回ノ極量	一日ノ極量	藥品ノ目	一回ノ極量	一日ノ極量
アセトアニリード	〇・五	一・五	臭酸アポモルヒ子	〇・〇一	〇・〇六
亞砒酸	〇・〇〇五	〇・〇一五	苦扁桃水	二・〇	六・〇
石炭酸	〇・一	〇・三	杏仁水	二・〇	六・〇
稀青酸	〇・一	〇・三	バクチ水	二・〇	六・〇
アガリチン	〇・一		硝酸銀	〇・〇三	〇・一

熔製硝酸銀	〇・〇三	〇・一
ヨード砒素	〇・〇〇五	〇・〇一五
硫酸アトロピン	〇・〇〇一	〇・〇〇三
安息香酸ナトリウムカフェイン	一・〇	六・〇
サリチール酸ナトリウムカフェイン	一・〇	六・〇
カフェイン	〇・五	一・五
ブローム樟腦	〇・三	一・〇
カンタリス	〇・〇五	〇・一五
蓚酸セリウム	〇・三	一・〇
抱水クロラール	二・〇	六・〇
鹽酸コカイン	〇・〇五	〇・一五
燐酸コデイン	〇・一	〇・三

硫酸銅（催吐藥トシテ頓服スルノ量）	一・〇	
ヂメチールアミドアンチピリン	〇・五	一・五
アコニット越幾斯	〇・〇一五	〇・〇五
印度大麻越幾斯	〇・一	〇・三
コロシント越幾斯	〇・〇五	〇・一五
ヒヨス越幾斯	〇・一	〇・三
阿片越幾斯	〇・一五	〇・五
カラバル豆越幾斯	〇・〇二	〇・〇六
商陸越幾斯	〇・五	一・五
莨菪越幾斯	〇・〇五	〇・一五
麥角越幾斯	〇・二	〇・六
番木鼈越幾斯	〇・〇五	〇・一

ヂギタリス葉	〇・二	一・〇
ヒヨス葉	〇・三	一・〇
グアヤコール	〇・三	一・〇
藤黃	〇・三	一・〇
ロベリア草	〇・一	〇・三
ブローム水素酸ホマトロピン	〇・〇〇一	〇・〇〇三
昇汞	〇・〇二	〇・〇六
赤色ヨード汞	〇・〇二	〇・〇六
黃色ヨード汞	〇・〇二	〇・〇六
黃色酸化汞	〇・〇二	〇・〇六
赤色酸化汞	〇・〇二	〇・〇六
サリチール酸汞	〇・〇二	〇・〇六

ヨードフォルム	〇・二	〇・六
ヨード	〇・〇二	一・〇六
クレオソート	〇・五	一・五
ヨード砒素汞液	〇・五	一・五
亞砒酸カリウム液	〇・五	一・五
メチールスルフォナール	二・〇	四・〇
鹽酸ヂアセチールモルヒ子	〇・〇一	〇・〇三
鹽酸モルヒ子	〇・〇三	〇・一
硫酸モルヒ子	〇・〇三	〇・一
巴豆油	〇・〇五	〇・一五
阿片	〇・一五	〇・五
パラアルデヒード	五・〇	一〇・〇

フェナセチン	1·0	三·0	沓木鹼	0·1	0·二
燐	0·001	0·00三	吐酒石	0·二	0·六
硫酸ガリチル酸アイソス	0·001	0·00三	金硫黄	0·二	0·六
硫酸アイソスチガミン	0·001	0·00三	硝酸ストリキニーネ	0·00五	0·01五
硝酸ピロカルピン	0·0二	0·0六	スルフォナール	二·0	四·0
コロシントヒヨス丸	0·五	1·五	カンタリス丁幾	0·五	1·五
酢酸鉛	0·1	0·三	コルヒクム丁幾	二·0	六·0
蓖麻根	0·1	0·三	コロシント丁幾	1·0	三·0
ヤワシバ脂	1·0	三·0	ヂギタリス丁幾	1·五	五·0
ポドフィルム脂	0·1	0·三	ケルキミカム丁幾	0·五	1·五
サントニン	0·1	0·三	ヨード丁幾	0·二	0·六
蒼角	1·0	五·0	ロベリア丁幾	1·0	三·0

阿片丁幾	1·五	五·0	ソニラトリン	0·00五	0·01五
蓖麻丁幾	1·0	三·0	コルヒクム酒	二·0	六·0
ストロファンツス丁幾	0·五	1·五	芳香阿片酒	1·五	五·0
沓木鹼丁幾	1·0	三·0	硫酸亞鉛（催吐藥トシテ服用スルノ量）	1·0	

（第五表）　頻繁ナル原藥ノ記號及原子量

原藥ノ目		記號	原子量
Aluminium.	アルミニウム	Al	二七·一
Argentum.	銀	Ag	一〇七·九三
Arsenicum.	砒素	As	七五·〇
Baryum.	バリウム	Ba	一三七·四
Bismutum.	蒼鉛	Bi	二〇八·五

Bornm.	硼素	B	一一・〇
Bromum.	ブローム	Br	七九・九六
Calcium.	カルチウム	Ca	四〇・〇
Carboneum.	炭素	C	一一・〇
Cerium.	セリウム	Ce	一四〇・一一五
Chlorum.	クロール	Cl	三五・四五
Chromium.	クローム	Cr	五二・一
Cuprum.	銅	Cu	六三・六
Ferrum.	鐵	Fe	五六・〇
Hydrargyrum.	水銀	Hg	二〇〇・三
Hydrogenium.	水素	H	一・〇一
Jodum.	ヨード	J	一二六・八五

iuKalm.	カリウム	K	三九・一五
Lithium.	リチウム	Li	七・〇三
Magnesium.	マグネシウム	Mg	二四・三六
Manganum.	マンガン	Mn	五五・〇
Natrium.	ナトリウム	Na	二三・〇五
Nitrogenium.	窒素	N	一四・〇四
Oxygenium.	酸素	O	一六・〇
Phosphorus.	燐	P	三一・〇
Plumbum.	鉛	Pb	二〇六・九
Stannum.	錫	Sn	一一八・五
Stibium.	アンチモニウム	Sb	一二〇・〇
Sulfur.	硫黄	S	三二・〇六

Zincum	亞鉛	Zn	六五・四

法定藥品名及慣用藥品名對照表

(甲表)

Acidum. acetsalicylicum.	*Aspirinum.*
アセチールサリチール酸	アスピリン
Albuminum tannicum.	*Tannalbinum.*
タンニン酸アルブミン	タンナルビン
Ammonium sulfoichthyolicum.	*Ichthyolum.*
スルフオイヒチオール酸アムモニウム	イヒチオール
Antipyrinum salicylicum.	*Salipyrinum.*
サリチール酸アンチピリン	サリピリン
Argentum proteïnatum.	*Protargolum.*
プロテイン銀	プロタルゴール
Bismutum subgallicum	*Dermatolum.*
次没食子酸蒼鉛	デルマトール
Bismutum tribromphenylicum.	*Xeroformum.*
トリブロームフエニル石炭酸蒼鉛	ホルロフオルム
Chininum aethylcarbonicum.	*Euchininum.*
キナーゼ炭酸エチール	オクヒニン
Dimethylamidoantipyrinum.	*Pyramidonum.*
ジメチールアミドアンチピリン	ピラミドン
Hexamethylentetraminum.	*Urotropinum.*
ヘキサメチレンテトラミン	ウロトロピン
Lactylphenetidinum.	*Lactophenin.*
ラクチールフエネチジン	ラクトフニン
Methylsulfonalum.	*Trionalum.*
メチールスルフオナール	トリオナール
Morphinum diacetylicum hydrochloricum.	*Heroinum hydrochloricum.*
鹽酸ジアセチールモルヒネ	鹽酸ヘロイン

Phenyldihydrochinazolinum tannicum.	*Orexinum tannicum.*
タンニン酸フヒニーミチリヒロリチン	タンニン酸キシキシン
Phenylum salicylicum.	*Salolum.*
チニチーミ酸フヒニーミ	サローミ
Tanninum acetylicum.	*Tannigenum.*
アセチーミタンニン	タンニゲン
Theobrominum natrio-salicylicum.	*Diuretinum.*
チニチーミ酸ナトーニカイトキシロ〃ン	チウレチン

（ヌ系）

Aspirinum.	*Acidum acetsalicylicum.*
アスピリン	アセチーミチニチール酸
Dermatolum.	*Bismutum subgallicum.*
チミトーール	次没食子酸蒼鉛

Diuretinum.	*Theobrominum natrio-salicylicum.*
チウレチン	チニチール酸ナトーニカイトキシロ〃ン
Euchininum.	*Chininum aethylcarbonicum.*
キヤヘリン	キチール炭酸キリーチ
Heroinum hydrochloricum.	*Morphinum diacetylicum hydrochloricum.*
鹽酸ヘロイン	鹽酸モルフヒニーミモミリチ
Ichthyolum	*Ammonium sulfoichthyolicum.*
イヒチオール	アンモニウム硫酸イヒチオール酸アイモニウム
Lactopheninum.	*Lactylphenetidinum.*
ラクトーフヒニン	ラクチーミフヒチチン
Orexinum tannicum	*Phenyldihydrochinazolinum tannicum.*
タンニン酸キシキシン	タンニン酸フヒニーミチリヒロリチンタニリン
Protargolum.	*Argentum proteinatum.*
プロタミニール	プロチイン銀

Pyramidonum.
ピラミドン
Salipyrinum.
サリピリン
Salolum.
サロール
Tannalbinum.
タンナルビン
Tannigenum.
タンニゲン
Trionalum.
トリオナール
Urotropinum.
ウロトロピン
Xeroformum.
キセロフォルム

Dimethylamidoantipyrinum.
ヂメチールアミドアンチピリン
Antipyrinum salicylicum.
サリチール酸アンチピリン
Phenylum salicylicum.
サリチール酸フェニール
Albuminum tannicum.
タンニン酸アルブミン
Tannimum acetylicum.
アセチールタンニン
Methylsulfonalum.
メチールスルフォナール
Hexamethylentetraminum.
ヘキサメチーレンテトラミン
Bismutum tribromphenylicum.
トリブローム石炭酸蒼鉛

○第三十八章　老人小兒藥量

（二乃至十二年ノ兒齢ヲ a 其藥量ヲ x 大人量ヲ b トスレハ $x = \frac{b\,a}{12+a}$ ナリ）

年齢	大人ニ對スル減量	年齢	大人ニ對スル減量
一年以下	十五分ノ一	七年以上	三分ノ一
一年以上	十二分ノ一	十四年以上	二分ノ一
二年以上	十分ノ一	六十五年乃至七十年	凡三分ノ二
三年以上	八分ノ一	七十年乃至八十年	凡二分ノ一
四年以上	六分ノ一		
	四分ノ一		

○第三十九章　藥品秤量比較表

磅	弓	弓	刃	匁
一一弓	八弓	三刃	一一〇匁	〇・〇六瓦
九六弓	一一四刃	六〇匁	一・一五瓦	
二八八刃	四八〇匁	三・七五瓦		
五・七六匁	三〇瓦			
三六〇瓦				

匁	瓦	匁	瓦	匁	瓦
百三十分一	〇・〇〇〇五	五分一	〇・〇一二	十(半刃)	〇・六
百分一	〇・〇〇〇六	四分一	〇・〇一五	十二	〇・七八
八十分一	〇・〇〇〇七五	三分一	〇・〇二	十五	〇・九
六十分一	〇・〇〇一	二分一	〇・〇三	十六	一・〇(瓦)
五十分一	〇・〇〇一二	一	〇・〇六	二十(一刃)	一・二五

匁	瓦	匁	瓦	匁	瓦
四十分一	〇・〇〇一五	半	〇・一	(二十半刃)	二・〇
三十分一	〇・〇〇二	二	〇・一二	二十二	二・一二
二十分一	〇・〇〇三	三	〇・一八	二十六	二・三六
十五分一	〇・〇〇四	四	〇・二四	四十	二・五
十二分一	〇・〇〇五	五	〇・三	五十匁	三・一二
十分一	〇・〇〇六	六	〇・三六	六十匁(一弓)	三・七五
八分一	〇・〇〇七五	七	〇・四二	八十匁	五・〇
六分一	〇・〇一	八	〇・五	百	六・二五

○第四十章　瓦量ト食匙、小兒匙、茶匙等ノ比較表

量名	瓦量	量名	瓦量
一リーテル	一〇〇〇・〇	一小兒匙	七・五
一盞	一〇・〇—一五・〇	一茶匙	三・〇—四・〇
一食匙	一〇・〇—一五・〇	一刀尖	〇・五—一・〇

○第四十一章　滴量瓦量比較表

○十六滴ハ一瓦、一滴ハ凡ソ○、○六ノモノ
蒸餾水○杏仁水○亞砒酸ガリウム液(法水)○炭酸カリウム液○苛性カリ液○
稀鹽酸○燐酸○稀硫酸○醋酸○鉛醋○ペルーバルサム
○三十滴ハ一瓦、一滴ハ○、○五ノモノ
阿片丁○桂皮油○丁香油オレーフ油○蓖麻子油
○二十五滴ハ一瓦、一滴ハ○、○四ノモノ
アニス油○ベルガモット油○橙花油○カヤプテ油○茴香油○ラヘンデル油○
薄荷油○コパイババルサム○枸櫞油○巴豆油○迷迭香油○薔薇油○テレピン
テ油○石油○エーテル精○クロヽフオルム○クレオソート
○五十滴ハ一瓦、一滴ハ○、○二ノモノ
エーテル

○第四十二章　ピール氏充血療法

ピール氏ハ消炎療法トソ諸種ノ炎症ニ對シテ充血療法ヲ用ユベキヿヲ公ニセリ而ソ之レヲ試用シタルモノ皆其卓効アルヲ認メ一般ニ之レヲ用ユルニ至レリ充血療法ハ鎮痛、殺菌若クハ弱菌、吸收、營養、及再生機促進ノ諸効ヲ兼ヌルモノナリ、充

血療法ニ二種アリ、鬱血療法及積血療法之レナリ鬱血療法ハ彈力帶ヲ炎症部ヨリ遠ク離レタル(中樞ニ近キ)部分ニ輕ク纏絡シテ鬱血ヲ生ゼシムルモノナリ(第百三圖)而ソ纏絡部ハ時々變更スルヲ可トス

入院患者ニハ一時間乃至二十時間モ用ユルヿアルモ普通一般ノ外來患者或ハ自宅患者ニハ一時間宛用ユベシ而ソ之ヲ用ユルニハ必ズ常ニ醫師ノ監督ノ下ニアリテ其結果ヲ觀察スルヲ要スルモノナリ鬱血ノ際疼痛ヲ增ス時ハ彈力帶ヲ解キ之レヲ更ニ一層輕ク(緊シクナキ樣ニ)卷クベシ斯ノ如クスルモ疼痛增加スルヰハ該症ニハ鬱血療法ノ適應セザルヿヲ示スモノナレハ斯ノ如キ場合ニハ速カニ本法ヲ止メ他法ヲ用ユベシ

本法ヲ特ニ用ユベキモノハ左ノ諸症ナリ

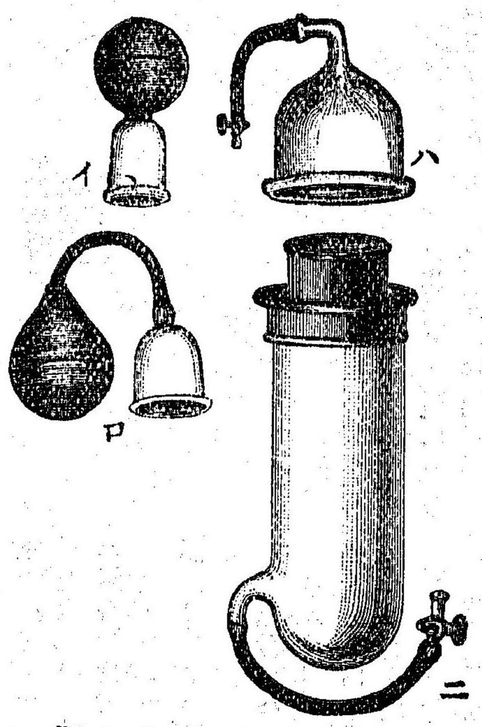
結核(就中骨及關節ノ結核)、急性及亞急性關節炎(就中淋毒性關節炎)慢性關節攣縮、神經痛

第百三圖

彈力帶ヲ施シタル圖

第百四圖ニ示スビール氏ノ吸引器モ亦タ充血療法ニ用ユルモノニシテ硝子鐘ノ緣ニ脂肪ヲ薄ク塗リテ之レヲ皮膚ニ接シ鐘中ノ空氣ヲ喞筒若クハ護謨球ノ作用ニテ稀薄ナラシメテ吸着セムベシ但シ決シテ強度ニ吸引セザル樣注意スベキヿヲ忘ルベカラズ此ノ法ニハ炎症部ニ小切開ヲ行ヒタル後ニ用ユベキヿアリ或ハ切開ヲ施サズシテ單ニ之レヲノミ用ユベキ場合アリ

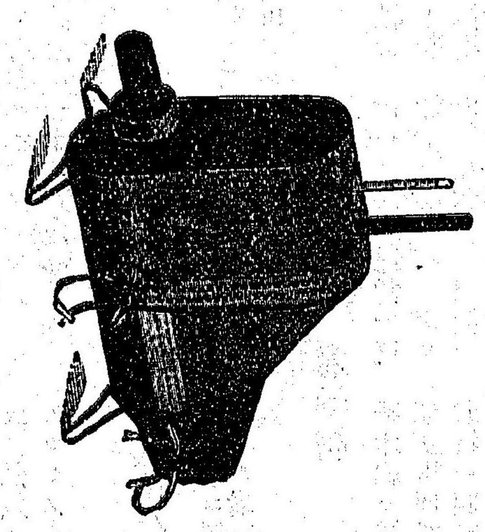
第百四圖



各種吸引裝置ノ圖

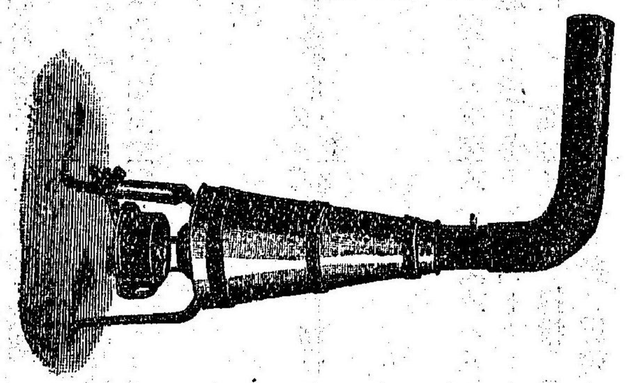
此ノ療法ノ殊ニ有効ナルハ左ノ諸症ナリ

第百五圖



置袋ヘル入ヲ部患

第百六圖



瘤癰、癤疽、膿瘍、乳房炎、瘻孔ヲ有スル淋巴腺炎、瘻孔ヲ有スル骨ノ疾病

積血療法トメビール氏ハ熱氣裝置ヲ最モ有効ナルモノトス第百五圖ハ其熱氣ヲ生スル暖爐ヲ示シタルモノニシテ此ノ熱氣ヲ第百六圖ノ如キ諸種ノ裝置内ニ導キ該裝置内ニ一定時間患部ヲ入レシムルモノナリ本法ハ關節諸症ロイマチスニ用ヰテ大ニ効アリ

○第四十三章　繃帶ノ用法

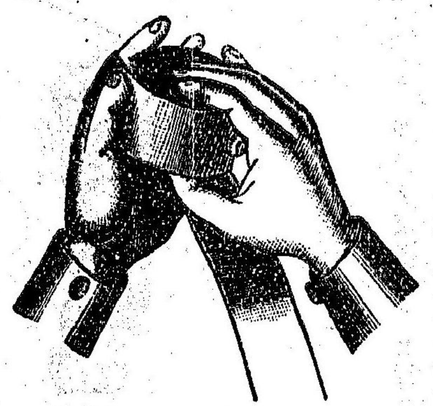
繃帶ニ二種アリ曰ク卷軸帶又タ通常單ニ繃帶ト稱スル者曰ク繃帶巾又タ繃帕ト稱ス而シテ繃帶中ニ四角巾アリ三角巾アリ

○(甲)　卷軸帶

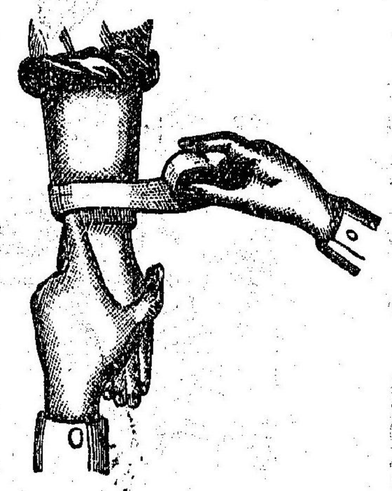
卷軸帶ヲ作ルノ法　通常一反ノ晒木綿ヲ縱ニ四裂或ハ五裂或ハ六裂或ハ八裂或ハ十裂シ而シテ其一條ヲ取リ一端ヲ數回折リ返シ相疊ミ卷キテ圓軸トナシ右手ノ拇指ト中指及示指ノ三指ニテ取持シ圓軸ニ接シタル部分ヲ左手ノ拇指ト示指トノ間ニ挾ミ、右手ノ圓軸ヲ回轉シテ卷クベシ(第百七圖)又タ多數ノ繃帶ヲ製スルニハ捲帶器ヲ用ユベシ

卷軸帶ヲ施スノ法　第百八圖ノ如ク卷軸帶ヲ右手ノ拇指ト示指中指トノ間ニ取リ左手ノ示指ニテ一端ヲ纏絡セントスル部ニ當テ、固定シ先ツ環行ヲナシ而シテ

第百七圖



第百八圖



後或ハ斜行シ或ハ蛇行シ或ハ折轉シ或ハ麥穗帶ヲ作リ或ハ龜甲帶ヲ作ル等各其部位ノ宜キニ應ジ終ニハ再ビ環行ヲナシテ纏絡シ了リ安全鍼ニテ其末端ヲ固定シ或ハ末位ヲ縱裂シテ結ブベシ

(一)環行帶　卷軸ヲ施スノ始メト終リトニ用ユルモノニシテ環狀ニ纏絡ス(第百八圖)

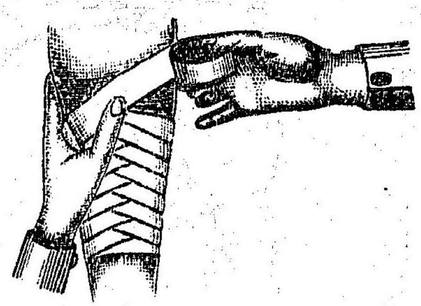
(二)螺旋帶　前回ニ纏絡セル帶部ノ一部ヲ被ヒツヽ進行スルコト螺旋ノ如シ

(三)蛇行帶　前回ニ纏絡セル帶部ヲ被フコトナクシテ進行スルルト第百九圖ノ如シ

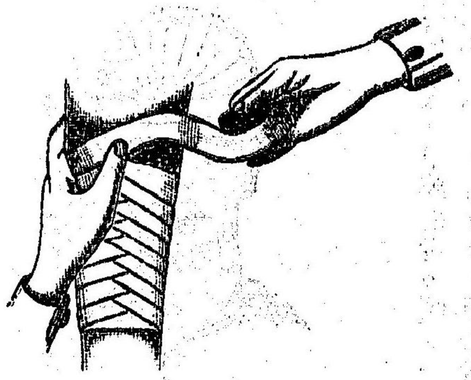
第百九圖

(四)折轉帶　四肢ノ末梢ヨリ上行スルニ當リテ下腿或ハ前膊ニ於テ其周圍不同ノ大サナルトキニ用ユ其方ハ第百十圖ノ如ク(1)先ヅ手掌ヲ術者ニ向フ樣

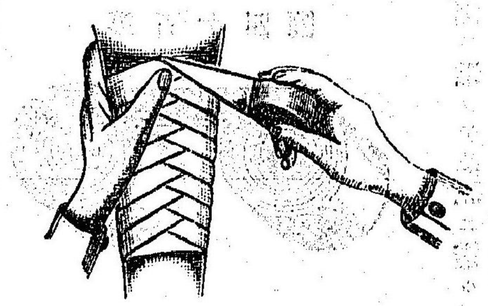
第百十圖



第百十一圖



第百十二圖



ニ繃帶ヲ持シ斜ニ之レヲ牽引シ左拇指頭ヲ帶行ノ中央ニ當テヽ固定ス(第百十圖)(2)牽引ヲ止メ右手ヲ肢ニ近ヅクルコト第百十一圖ノ如クシ(3)終ニ折轉ナナシテ帶ノ上緣ハ下緣トナルコト第百十二圖ノ如クスベシ

(五)麥穗帶　八人字帶ト稱シ又(S)字帶ト名ク第百十六圖第百十七圖等ノ如シ

(六)龜甲帶　ニ集合及離開ノ二種アリ第百二十六圖第百二十七圖ノ如シ

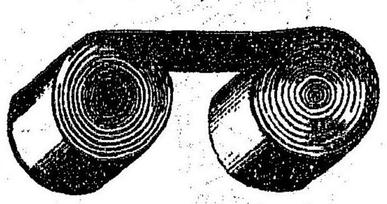
○頭部及ビ顔面ノ卷軸帶

(一)ヒツポクラーテス氏帽子帶（第百十三圖）甲乙ノ術者ヲ要ス先ヅ第百十四圖ノ如キ兩頭帶ヲ作リ其正中ヲ前額ニ當テ兩軸帶ヲ後方ニ廻ラシ後頭結節ノ下ニ

第百十三圖

ヒツポクラーテス帶

第百十四圖



テ相交叉ス次ニ甲施術者ハ頭ヲ一頭ノ正中線ニ沿フテ前記ニ送ルベシ乙術者ハ他ノ一頭ヲ以テ環行ヲナシ甲術者ノ前額ニ送リアル帶ノ上ヲ被フテ之レヲ固定

ス○甲施術者ハ正中線ヲ被ヘル帶ノ半面ヲ被ヒツヽ帶ヲ後頭ニ送ル而シテ乙ハ此處ニ環行シ來リテ甲ノ帶ヲ固定ス○甲ハ更ニ正中線ヲ被ヘル帶ノ他ノ半面ヲ被ヒツヽ帶ヲ前頭ニ送レハ乙ハ又タ環行シ來リテ之レヲ固定スルコト前回ノ如シ○是レヨリ甲ハ帶ヲ漸次左右ニ進メ乙ハ常ニ環行ヲ持續シ全頭ヲ被ヒ了リタラバ乙ハ兩端帶ヲ以テ環行ヲナス

第百十五圖

偏眼帶

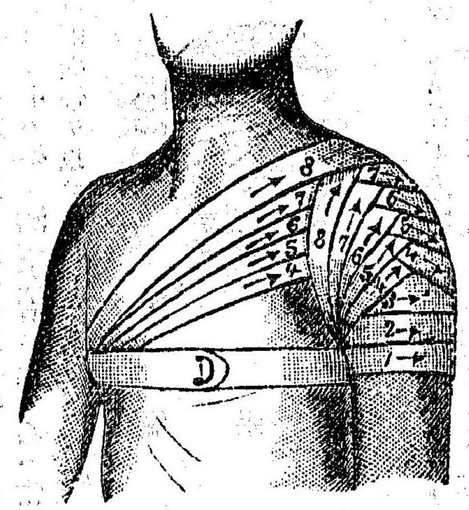
(二)偏眼帶（第百十五圖）ハ頭ノ周圍ニ環行ヲナスコト二回漸次下方ニ下リテ病眼ヲ覆ヒ頭部ノ環行ヲ以テ了ルベシ又次ノ方法アリ即チ頭部ノ環行ヲナスコト二回次ニ患側ノ耳トヲ經、斜ニ病眼ヲ被フテ顱頂ニ至リ斜ニ後頭ニ下行シ患側ノ耳下ヲ經、病眼ヲ被フコト前回ノ如ク反覆シテ終ニ頭部ノ環行ヲナス

(三) 兩眼帶 ハ先ヅ偏眼帶ヲ以テ偏眼ヲ被ヒ次ニ同法ヲ以テ他眼ヲ被フベシ

○四肢ノ卷軸帶

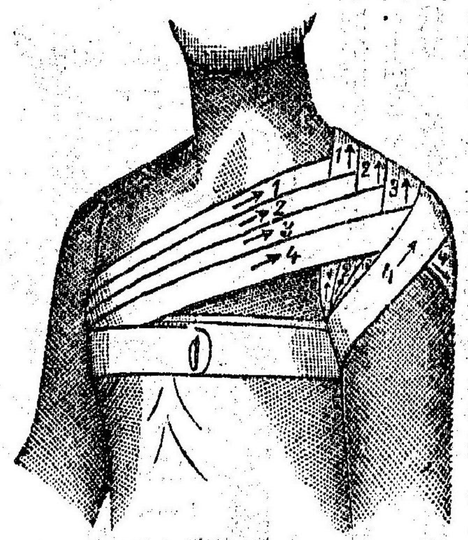
(四)上行上膊麥穗帶　(第百十六圖)上膊ノ環行○次ニ二ノ螺旋行○次ニ肩ノ下部ヨリ他側ノ腋窩ニ至リ患側ノ肩ノ下ニ返リ同側腋窩ニ入リ同側ノ腋窩ヲ出テ再ビ肩ニ上リ更ニ他側ノ腋窩ニ至リ復タ肩ニ返ルコト前回ノ如ク相反覆シ○胸部環行ニテ完結ス

第百十六圖



上行上膊麥穗帶

第百十七圖



下行上膊麥穗帶

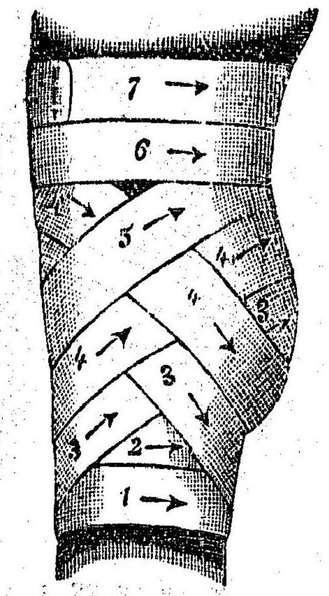
(五)下行上膊麥穗帶　(第百十七圖)胸部ノ環行○次ニ健側ノ腋窩ヨリ患側ノ肩ノ上部ニ至リ患側ノ腋窩ニ入リ之レヲ出テ、肩ノ上部ニ復歸シ健側ノ腋窩ニ至ル之ヲ反覆シテ○上膊ノ環行若クハ胸部ノ環行ヲ以テ完結ス

(六)上行股麥穗帶　(第百十八圖)大腿ノ環行○次ニ麥穗帶○腹部環行ニテ完結ス

（七）下行股麥穗帶（第百十九圖）腹部環行次ニ麥穗帶○次ニ大腿ノ環行ニテ完結ス

（八）集合龜甲帶（第百二十圖）下腿ノ環行○次ニ膝膕ヲ斜ニ通過シ大腿ニ至リ○次ニ交互ニ膝ノ上下ヲ被ヒ○膝ノ中央ニ於ケル環行ニテ完結ス

第百十八圖

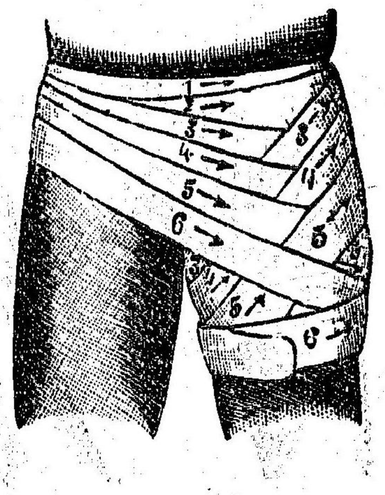


上行股麥穗帶

（九）離開龜甲帶（第百二十一）膝ノ中央ニ環行ヲナス○次ニ交互上下ニ龜甲帶大腿或ハ上腿ニテ完結ス

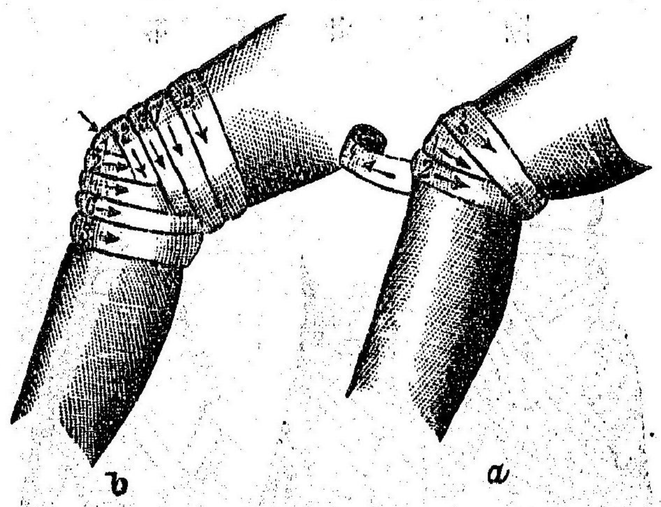
（十）鐙狀帶（第百二十二）（イ）趾ノ後方ニ環行○次ニ斜轉或ハ斜行○次ニ足ノ外緣ヨリ足背ヲ斜ニ內踝ニ達シ横ニ外踝ニ至リ斜ニ足背ヲ下リテ足ノ內緣ニ達シ横ニ足蹠ヲ通過シテ足ノ外緣ニ至ルコト反覆○後下腿ノ環行ニテ完結ス○又腰部ニ被フニハ（ロ）ノ如クス其他ハ圖ヲ熟覽シテ自得スベシ

第百十九圖



下行股麥穗帶

第百廿一圖

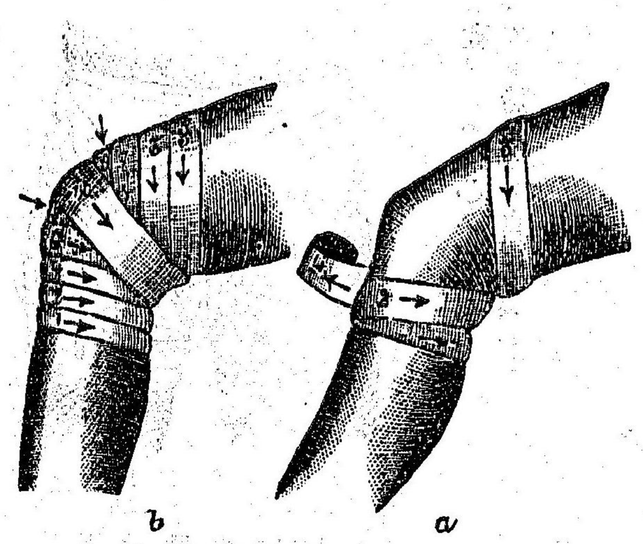


離開龜甲帶

第百廿二圖

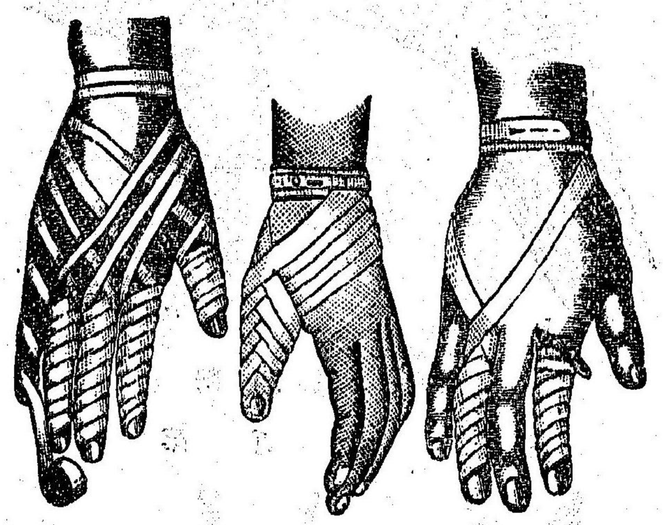
鐙狀帶

第百二十圖



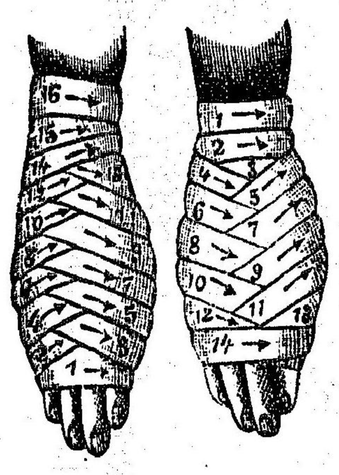
集合龜甲帶

第百廿三圖

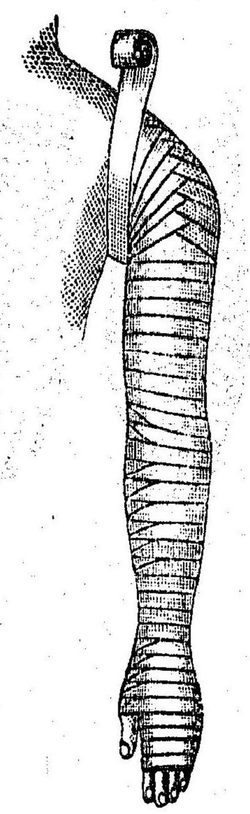


第百廿四圖

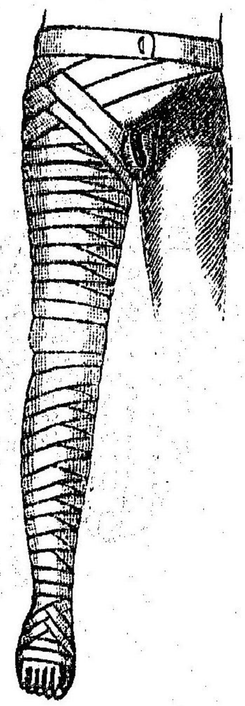
第百二十五圖



第百二十六圖



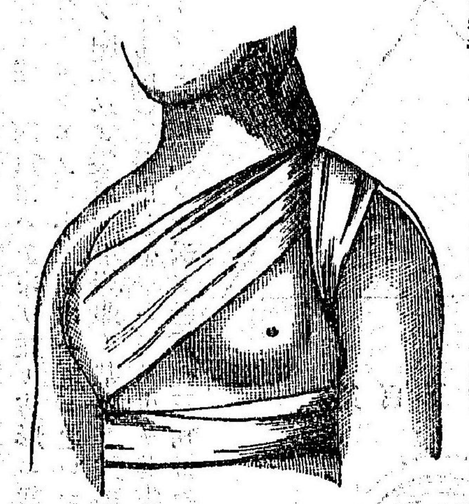
第百二十七圖



○乳房ノ卷軸帶繃帶

（十一）單提乳帶　（第百二十八圖）乳房ノ下方ニ環行○次ニ斜ニ乳房ノ下緣ヲ被ヒテ他側ノ肩ニ至リ腋窩ニ入リ之レヲ出デヽ肩ニ歸リ背ヲ經テ乳房ニ復歸スルコトナ反覆ス但シ始メハ乳房ノ下緣次ハ上緣次ハ下最後ニ乳房ヲ纏絡ス

第百二十八圖



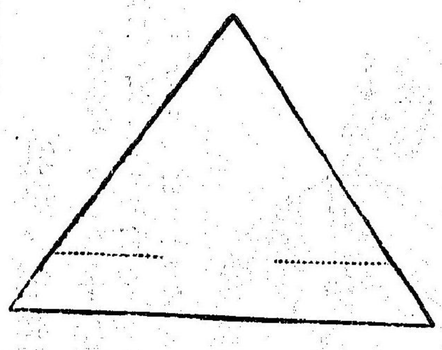
單提乳帶

（十二）複提乳帶　單提乳帶ヲ各側ニ行フベシ

○(乙)繃帶巾　或ハ繃帕

繃帶巾ヲ作ル法　四角巾ハ金巾ヲ採リ方形ニ裁チテ製ス○大三角巾ハ四角巾ヲ斜メニ二分シタルモノ、小三角巾ハ更ニ之レテ二分シタルモノナリ而シテ三角巾ハ左右ノ兩緣及ビ尖頂、下緣即チ基底ト尖尾即チ基底ト緣ノ相接スル點ヲ有ス(第百二十九圖)○頭巾狀帶トハ三角巾ヲ其尖頂ヨリ基底ニ向ヒ數回反折シテ幅二三寸トナシタルモノヲ云フ○重複三角帶ハ第百二十九圖ノ點線ニ沿フテ一部

第百二十九圖



第百三十圖

ヲ切リタルモノヲ云フ

三角巾ヲ疊ム法　基底ノ兩端即チ兩尖尾ヲ相重ネテ小三角形トナシ○次ニ此小三角形ノ兩尖尾ヲ各其尖頂ニ向テ反折シ四角形トナス○次ニ右ノ方形ヲ兩ツニ折リテ長方形トナシテ○次ニ此長方形ヲ更ニ二折シテ再タビ四角形トナシ○此四角形ヲ二ツニ折リテ長方形トナシ安全針ニテ繼ヒ止ムベシ

(一)小頭巾　(第百三十圖)又小頭帕ト稱ス三角巾ノ下緣ノ中央ヲ前額ニ當テ尖頂ヲ頂ニ垂レ其兩尖尾ヲ耳上ヲ經テ後頭ニ送リ左右相交叉シ前額ニ至ラシメテ之ヲ結合ス○尖頂ハ上方ニ飜轉シ頭上ニ於テ安全針ニテ固定ス

第百三十一圖

大頭帕

(二)大頭巾　(第百三十一圖)又大頭帕ハ重複三角巾ヲ採リ其底ノ中央ヲ前額ニ當テ尖頂ヲ頂ニ垂レ兩尖尾ヲ耳上ヲ經テ後頭ニ送リ相交叉シテ之ヲ前額ニ於テ結

合ス○側方ニ驅垂セル兩端ヲ頤下ニテ結ブ○次ニ尖頂ヲ飜轉シ頭上ニ安全針ヲ以テ固定スベシ

(三)提顎帶　(第百三十二圖)提顎帶投石帶又下顎帶ト稱ス重複三角巾ヲ採リ其上部三角形ノ部ヲ反折シテ頸巾狀トナシ其中央ヲ頤下ニ當テ兩端ヲ頭上ニ於テ結ブ○次ニ殘リノ兩端ハ之ヲ項部ニ送リ交叉セシメ前方頭上ニ結合ス

第百三十二圖

(四)四角頭巾　(第百三十三圖)ハ又四角頭帕ト稱ス四角巾ヲ折リテ二葉トナシ分葉ハ下葉ヨリ狹キコト約十仙迷トナシ之ヲ頭上ニ載セ下葉ノ前緣ヲ鼻緣上ニ上葉ノ前緣ヲ眉上ニ當テ○次ニ上葉ノ兩尖端ヲ頤下ニ於テ結ビ○次ニ下葉ノ前緣ヲ飜轉シテ其兩端ヲ後方ニ牽引シテ後部ニ於テ結フヘシ

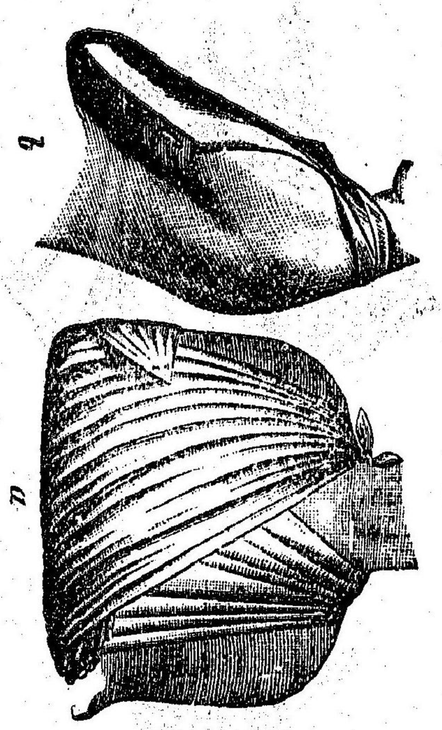
第百三十三圖

(五)擔布　(第百三十五圖)ハ一尖尾ヲ採リテ健側ノ肩上ヲ起エテ背部ニ垂レシメ○他ノ尖尾ヲ胸前ニ垂レ患側ノ肘關節ヲ直角ニ屈曲シ前膊ヲ三角巾ノ中央ニ當テ尖頂ヲ背後ニ餘スコト一寸五六分○故ニ前面ニ垂レタル尖尾ヲ患側ノ肩ニ送リ○次ニ背部ニ垂レタル尖尾ト肩上ニテ結合ス○次ニ尖頂ヲ前方ニ飜轉シ安全針

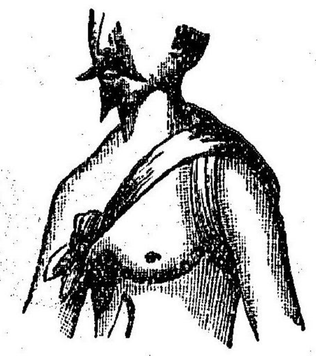
ヲ以テ固定ス

其他三角巾ハ頭巾狀帶トナシテ諸種ノ卷軸帶ニ代用シ又反折スルコトナクシテ諸種ノ複帶ニ應用スルコト次ノ圖ニ就テ見ル可シ

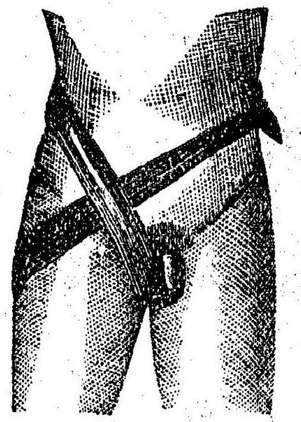
第百三十二圖　卷軸帶



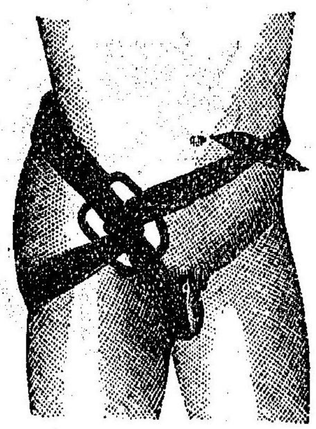
第百三十五圖



第百三十七圖

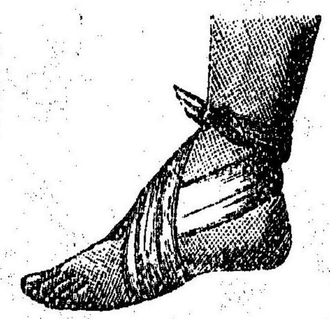


第百三十六圖



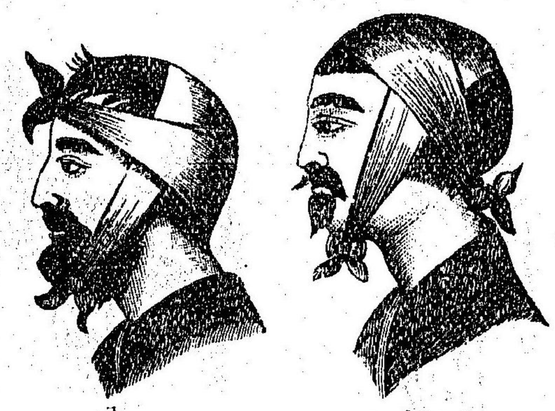
第百三十八圖

第三百三十九圖

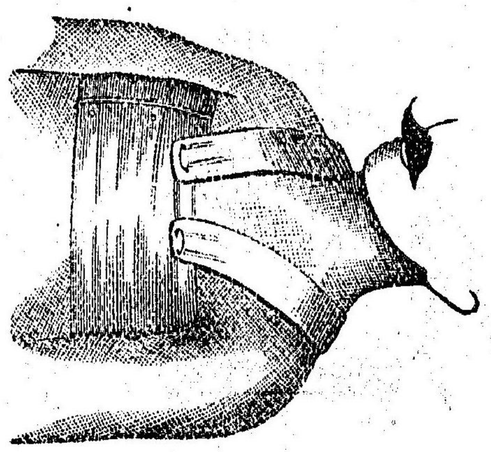


第百四十圖

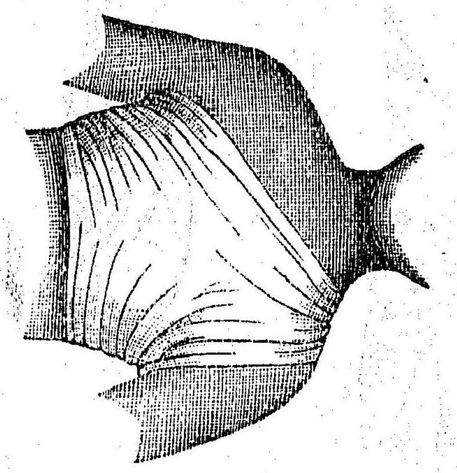
頭部四角



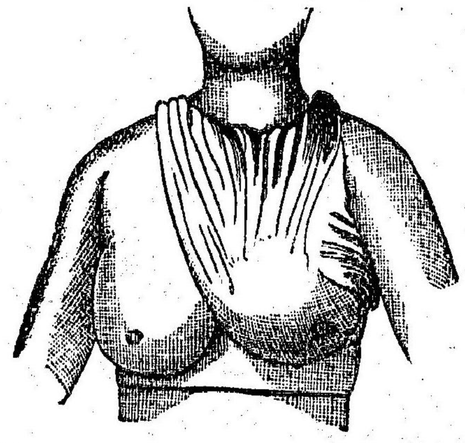
第百四十二圖



第百四十一圖

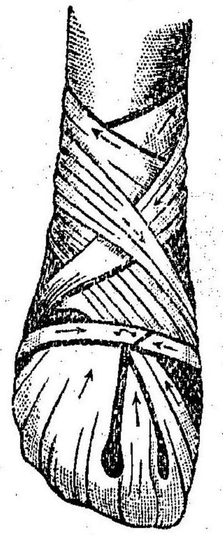


第百四十三圖



第百四十四圖

第百四十五圖



○第四十四章　溫度比較表

Cハ攝氏Rハ列氏Fハ華氏

C	R	F
〇	〇	三二
五	四	四一
一〇	八	五〇
一五	一二	五九
二〇	一六	六八
二五	二〇	七七
三〇	二四	八六
三五	二八	九五
四〇	三二	九六、八
四五	三六	九八、六
五〇	四〇	一〇〇、四
五五	四四	一〇二、二
六〇	四八	一〇四
六五	五二	一〇五、八
七〇	五六	一〇七、六
七五	六〇	一〇九、四
八〇	六四	一一一、二
八五	六八	一一三

三氏驗溫器中ノ或ル度ヲ他ニ換算スルノ方式ハ左ノ如シCハ攝氏ノ度數Rハ列氏度數Fハ華氏ノ度數ナリ

$$C = \frac{5}{4}R$$

$$C = \frac{5}{9}(F-32)$$

$$R = \frac{4}{5}C$$

$$R = \frac{4}{9}(F-32)$$

$$F = \frac{9}{4}C+32$$

$$F = \frac{9}{4}R+32$$

○第四十五章　熱ノ定型附表

(一)常溫 Normale Temperatur 攝氏三七、〇乃至三七、五度
(二)亞熱溫 Subfebrile Temperatur 攝氏三七、五乃至三八、〇度
(三)熱性溫 Febr le Temperatur (イ)微熱 Leichtes Fieber 攝氏三八、〇乃至三八、五度(ロ)輕熱 Missiges Fieber 朝三八、五乃至三九、〇度夕三九、五度(ハ)劇熱 Beträchtliches Fieber 三九、五乃至四〇、五度(ニ)高熱 Sehr Hohes Fieber 四〇、五度朝四〇、五乃至四一、五(ホ)過熱溫 hyperpyretische Temperatur 四〇、五度以上一日內ニ於ケル體溫昇降ノ度ニ從ヒ熱ノ定型ヲ四種ニ區別ス

(一)稽留熱 Febris continua 亮疝、肺炎、窒扶斯ノ極期ニ見ル朝夕ノ差〇、五度以下ニシテ四〇乃至四一度ニ達ス

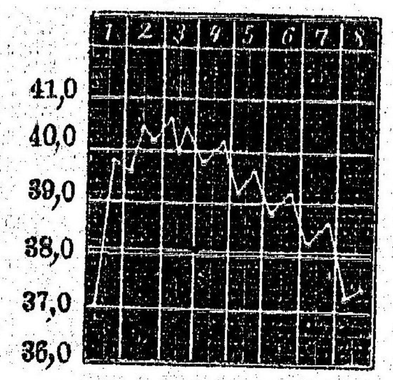
(二)弛張熱 Febris remittens 一度以上朝夕ニ於テ異ナル熱ヲ云フ是レ亞急性及慢性病ニ見ル所ナリ其弛ムトキ常溫ヨリ降ル者ヲ消耗熱 Febris hetica ト云フ

(三)間歇熱 Febris intermittens ハ數時間持續スルトコロノ高熱ノ發作ト久時ノ發熱期トヲ呈スルモノニシテ專ラ「マラリア」ニ見ルトコロノモノナリ

(四)回歸熱 Febris recurrens ハ回期熱ニ於テ見ル〇熱性病ニ左ノ期ヲ區別ス

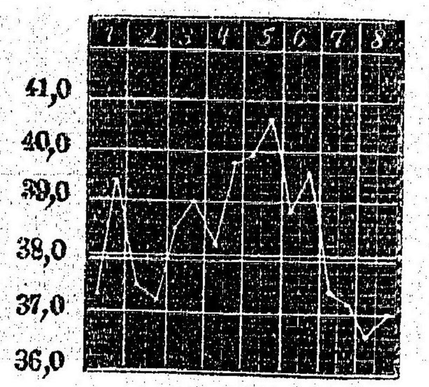
發熱期 Pyrogenetische Stadium 極期 Fastigium 分利 Krise 散換 Lyse 快復期 Rekonva lescenz 再期 Recidiv

第百四十六圖



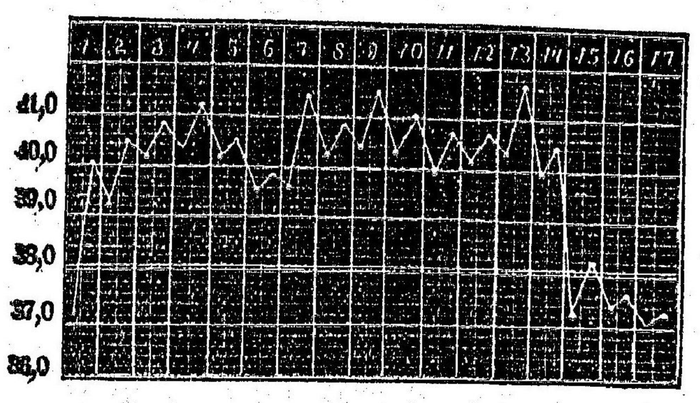
猩紅熱

第百四十七圖



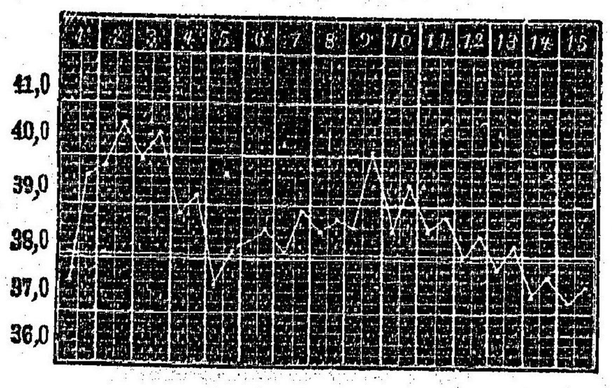
麻疹

第百四十八圖



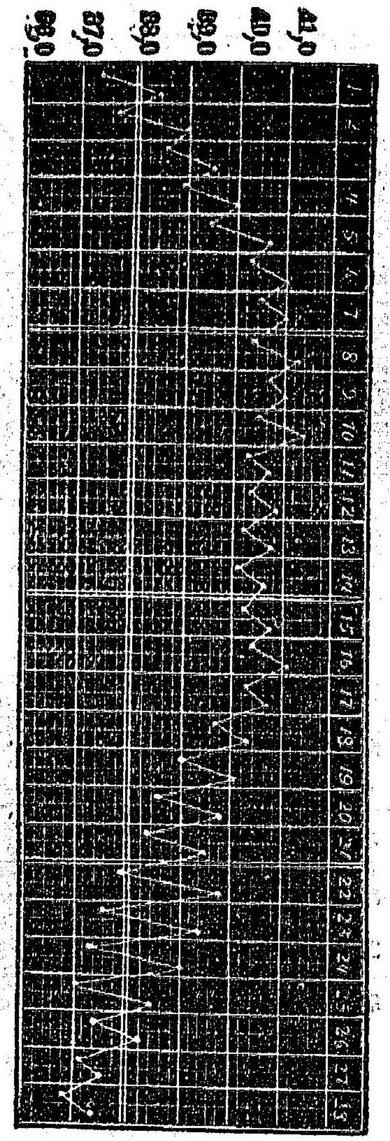
天然痘

第百四十九圖



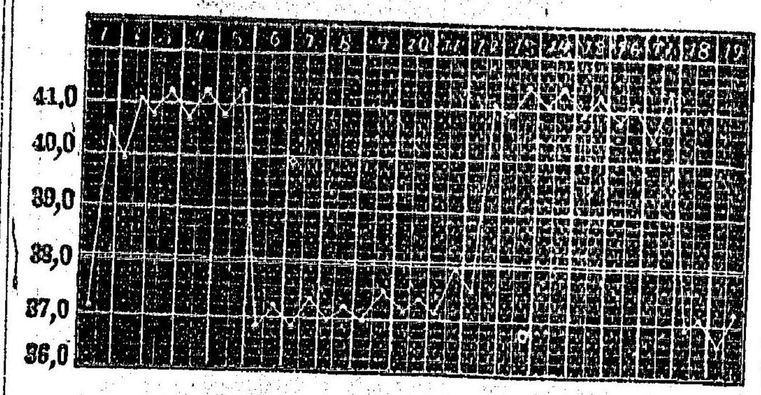
假痘

圖十五



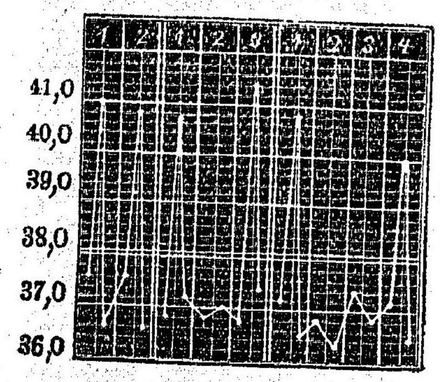
百日咳

第百五十一圖



回歸熱

第百五十二圖



毎日熱　隔日熱　四日熱
間歇熱

○第四十六章　比較物體ノ大小

醫學上獨乙國ニ於テ屢々大サヲ比較スルニ用ユル物體アリ、獨乙ノ醫書或ハ其譯書ヲ讀ムニ際シテ其物ノ大小ヲ審カニスルコト能ハザルモノ多シ「キール」大學教授エスマルヒ氏ノ圖ニ從ヒ左ノ數種ヲ示シテ其大小ヲ明ラカニス其白豆ト譯セルモノハ普通蠶豆ト譯セルモノナリ(卷末ノ圖ヲ見ルベシ)

○第四十七章　傳染病潛伏期一覽表

病名	人名	日數	摘要
痲疹	パーヌム フライルスチックル ツルベルベルヒ	(九日乃至十日) 十三日乃至十四日 十三日乃至十五日 十三日乃至十四日	傳染ヨリ發疹ニ至ル迄 同 同
猩紅熱	ムルヒソン	七日(四日乃至八日) 六日以下	

風疹	スウエストル マルシヤンド	五日乃至六日以下 三日	
	レーン フホン、ホイジン ゲル フルード	二週間半 十七日 十六日乃至十七日 十五日	
天然痘	フホン、ベーレン スプルング チームゼン ゲルハルト マルシヤンド アイヒホルスト トーマス リーベルマイステル	十日乃至十四日 十三日乃至十四日 十三日乃至十四日 十三日乃至十四日 十日 九日八時間 十三日乃至十七日 十三日乃至十五日	

猩紅熱	グリージンゲル ウ井ツス リーベルマイステル	七日乃至十四日 八日乃至九日以上 九日乃至十四日	二週以下ナルモノ及ビ四週ニ達スルモノ稀ニ之レアリ
腸窒扶斯		二週乃至三週	
實扶的里	ゲラー	二日乃至三日	
百日咳	レッシネル	多キモ六日	
亞細亞虎列刺	バンデー グットマン	五日乃至六日以下 二日乃至四日 卅六時乃至四十五時間 長キモ四日半	尚ホ其以下ナルコトアリ (廿四時乃至卅時間ナルコトアリ)
赤痢		三日乃至八日	
流行性耳下腺炎	ロートリヽエー及ビロンパール	七日乃至十四日 四日乃至二十五日 廿日乃至廿二日	(稀ニ十四日乃至十八日)

肺炎	デンメ カハパル フリント ラルル 子ッテル	八日乃至十五日 四日（二日乃至七日） 長キモ二日 少キモ三日 平均五日
インフルエンザア	ボイムレル グラッスマン	二日乃至四日 二日乃至八日 二日乃至七日
パスト		三週乃至四週
黴毒 甲 局處症狀ヲ發スルマデ	フールニュー ローレー	廿一日（平均） 廿五日
乙 發疹期マデ		九週乃至十一週間
恐水病		通常十五乃至廿五日

	バウエル パステール	廿日乃至五十九日 四十日乃至六十日

○第四十八章　精神病者入院ニ對スル鑑定ノ要領

マイヂルト氏

第一　姓名
第二　年齢　身分　宗教
第三　性質　職業
第四　誕生地
第五　在籍地
第六　最終ノ住居
第七　如何ナル發意或ハ如何ナル矛盾ノ爲メ入院セントスル患者ハ尋常ニアラサルモノヽ如キカ
第八　鑑定者ハ被鑑定ニ就テ如何ナル病症ヲ觀察若クハ探知シタルカ
第九　疾病ハ幾時間持續スルカ定期性ナルカ或ハ再發性ナルカ

第十　疾病ノ原因トナルベキモノニシテ明ラカナルモノハ何ナルヤ
第十一　患者ハ妨害ヲナスノ觀アルヤ或ハ公衆ニ對シ危險ナルノ觀アルヤ
第十二　注意

年月日　何之　誰

以上十二項ヲ悉ク記載シ得ルコト能ハザル場合アルハ論ヲ俟タズ然レトモ第七第八項及ビ第十一項ハ毎常必ラズ精密ニ記載センコトヲ要ス蓋シ此三項ニ因リテ入院ノ諾否ヲ決スベキノミナラス患者ノ診察及ビ治療ニ對シテ最モ緊要ナレバナリ

第八項ニ於テハ精神症候ノ傍ラ左ノ身體的關係ヲ必要トス

第一　年齢　身長　體重　營養狀態　皮膚色澤
第二　頭蓋ノ構造(直徑及ビ周圍ヲ測リテ確定ス)
第三　顏面ノ構造特ニ顎骨ノ構造(上顎骨前ニ下顎骨ノ突出スルハ貴要ナル變質ノ徵ナリ)顏面ノ畸形(兎唇等ノ如シ)
第四　五官器○眼　眼光　瞳孔及ビ眼球諸筋ノ狀態○耳　耳垂ノ癒着　耳輪缺損　感覺　知覺過敏及ビ痲痺
第五　舌ヲ出スト　震顫ノ有無　瘢痕(癲癇發作ノアリタル徵候)
第六　筋肉ノ狀態　一部若クハ全部ノ筋肉全痲痺或ハ不全痲痺震顫、搐搦自發運動
第七　生殖ニ對スル諸件　陰部ノ異常　陰部發育不全(睾丸隱匿　尿道下破裂及ビ上破裂、子宮ノ發育不全(子宮ノ閉或ハ鎖陰)色慾ノ發現

第八　植物性官能ノ狀態

第十項ニ於テハ疾病ノ原因ヲ專ラ檢査スルニ際シ左ノ諸件ヲ貴要ナリトス

第一　遺傳　(父母祖父母等ノ中精神病或ハ神經病、腦症ヲ發シテ頓死シタル者自殺者自殺ヲ謀リタル者、犯罪、大酒家ノ有無、兩親間血族ナルヤ否ヤ生殖ノ時ハ兩親ノ甚タ幼年ナル時或ハ甚タ老年ナル時ニアリシカ或ハ生殖前兩親ノ內疾病ノ爲メ衰弱ヲ呈セザリシカ或ハ父若クハ母生殖ノ際大醉ノ狀態ニアリシヤ否ヤ)
第二　先天性神經病的體質ノ有無
第三　不適當ナル教育
第四　年齡　春機發動期　壯年期　老年期
第五　疾病特ニ小兒期ニ發シタル搐搦(頭部損傷　腦膜炎　腦卒中　腦炎　腦腫瘍　脊髓痨　舞踏病　癲癇　ヒステリー　神經衰弱症　急性傳染病(就中窒扶斯、痘瘡、肺炎)急性貧血若クハ慢性衰弱症例令バ結核癌腫等ノ如キ疾病ニ因テ生シタル貧血黴毒婦人生殖器疾患
第六　手淫　房事過度
第七　姙娠　分娩　產後　授乳
第八　劇甚ナル感動精神ノ過勞　心痛

第九　アルコホル濫用
第十　炭酸中毒　慢性水銀及ビ鉛中毒　モルヒネ中毒　コカイン中毒等

○第四十九章　日本醫家須知法律及規則摘錄

○刑法摘錄

（明治四十一年改正新刑法）

第十三章　秘密ヲ侵ス罪

第百三十四條醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護人、公證人又ハ此等ノ職ニ在リシ者其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ秘密ヲ故ナク漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

以下畧ス

第百三十四條　本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第十四章　文書僞造ノ罪

第百六十條　醫師公務所ニ提出ス可キ診斷書、檢案書又ハ死亡證書ニ虛僞ノ記載ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十章　僞證ノ罪

第百六十九條　法律ニ依リ宣誓シタル證人虛僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第百七十條　前條ノ罪ヲ犯シタル者證言シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分ノ前自白シタルトキハ其刑ノ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十二章　猥褻姦淫及ヒ重婚ノ罪

第百七十六條　十三歲以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス十三歲ニ滿タサル男女ニ對シ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者亦同シ

第百七十七條　暴行又ハ脅迫ヲ以テ十三歲以上ノ婦女ヲ姦淫シタル者ハ强姦ノ罪ト爲シ二年以上ノ有期懲役ニ處ス十三歲ニ滿タサル婦女ヲ姦淫シタル者亦同シ

第百七十八條　人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ又ハ之ヲシテ心神ヲ喪失セシメ若クハ抗拒不能ナラシメテ猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ姦淫シタル者ハ前二條例ニ同シ

第百七十九條　前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百八十一條　第百七十六條乃至第百七十九條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第百八十二條　營利ノ目的ヲ以テ淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シテ姦淫セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六章　殺人ノ罪

第百九十九條　人ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第二百條　自己又ハ配偶若ノ直系尊屬ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第二百一條　前二條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二條　人ヲ教唆若クハ幫助シテ自殺セシメ又ハ被殺者ノ囑託ヲ受ケ若クハ其承諾ヲ得テ之ヲ殺シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二百三條　第百九十九條　第二百條及ビ前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二十七章　傷害ノ罪

第二百四條　人ノ身體ヲ傷害シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百五條　身體傷害ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第二百六條　前二條ノ犯罪アルニ當リ現場ニ於テ勢ヲ助ケタル者ハ自ラ人ヲ傷害セスト雖モ一年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百七條　二人以上ニテ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ニ於テ傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハス又ハ其傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコト能ハサルトキハ共同者ニ非スト雖モ共犯ノ例ニ依ル

第二百八條　暴行ヲ加ヘタル者人ヲ傷害スルニ至ラサルトキハ一年以上ノ懲役若クハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若クハ科料ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二十八章　過失傷害ノ罪

第二百九條　過失ニ因リ人ヲ傷害シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二百十條　過失ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百十一條　業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九章　墮胎ノ罪

第二百十二條　懷胎ノ婦女藥物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十三條　婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十四條　醫師、産婆、藥劑師又ハ藥種商婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十五條　婦女ノ囑託ヲ受ケス又ハ其承諾ヲ得スシテ墮胎セシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百十六條　前項ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

刑法施行法

（明治四十一年法律第二十九號）

第四十條　刑事訴訟法第百二十五條第二號ヲ左ノ如ク改ム

第二　醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護人、公證人、又ハ此等ノ職ニ在シ者及ヒ宗教若クハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル事實ニシテ默祕ス可キモノニ關スルトキ

第四十九條　刑事訴訟法第三百十九條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其事故ノ止ムマデ刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

一、心神喪失ノ狀態ニ在ルトキ

二、刑ノ執行ニ因リ生命ヲ保ツコト能ハサル虞アルトキ

三、受胎後七月以上ナルトキ

四、分娩後一月ヲ經過セサルトキ

第六十三條　證人、鑑定人及ヒ通事日當ハ左ノ範圍ニ於テ豫審判事、受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム

一、證人ノ日當ハ出頭一度ニ付金二十錢乃至金五十錢但止宿料ヲ給與スル場合ニ於テハ日當ヲ給與セス

二、鑑定人及ヒ通事ノ日當ハ出頭一度ニ付金三十錢乃至金五圓

第六十四條　證人、鑑定人及ヒ通事旅費ハ海陸路一里ニ付キ金五錢乃至金二十錢ノ範圍內ニ於テ豫審判事受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム但通路兩線以上アルトキハ最近ノ通路ヲ以テ旅費ヲ算定ス

前項ニ揭ケタル者ノ止宿料ハ一日ニ付金二十錢乃至壹圓ノ範圍內ニ於テ豫審判事ハ受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム但八里以上ノ地ヨリ來リ滯在スルトキニ非ザレバ之ヲ給與セス

第六十五條　證人鑑定人及ヒ通事ノ日當旅費及ヒ止宿料ハ豫審ニ於テハ其終結前公判ニ於テハ其判決前ニ本人ヨリ請求スルニ非サレバ之ヲ給與セス

第六十六條　鑑定、通譯ニ付キ數多ノ時間又ハ特別ノ技能若クハ費用ヲ要スルトキハ日當ノ外別ニ相當ノ金額ヲ給與スルコトヲ得

本法ハ刑法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

刑法附則其他舊刑法施行ノ爲メ公布シタル法令ハ之ヲ廢止ス

改正警察犯處罰令

○警察犯處罰令

（明治四十一年九月三十日公布內務省令第十六號）

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス

十八　病者ニ對シ禁厭、祈禱、符呪等ヲ爲シ又ハ神符神水等ヲ與ヘ醫療ヲ妨ケタル者

十九　濫ニ催眠術ヲ施シタル者

二十二　人ノ飲用ニ供スル淨水ヲ汚穢シ又ハ其ノ使用ヲ妨ゲ若ハ其ノ水路ニ障碍ヲ爲シタル者

三十四　人ノ死屍又ハ死胎ヲ隱匿シ又ハ他物ニ紛ハシク擬裝シタル者

三十五、一定ノ飲食物ニ他物ヲ混ジテ不正ノ利ヲ圖リタル者

三十六、不熟ノ果物、腐敗ノ肉類其ノ他健康ヲ害スベキ飲食物ヲ營利ノ用ニ供シタル者

第三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス

一、許可ナクシテ人ノ死屍又ハ死胎ヲ解剖シ又ハ之レガ保存ヲ爲シタル者

二、公衆ノ目ニ觸ルベキ場所ニ於テ袒裼、裸體シ又ハ臀部、股部ヲ露ハシ其ノ他醜態ヲ爲シタル者

六、石灰其ノ他自然發火ノ慮アル物ノ取扱ヲ忽ニシタル者

七、開業ノ醫師、產婆故ナク病者又ハ姙婦產婦ノ招キニ應セザル者

八、故ナク官公署ノ召喚ニ應ゼサル者

九、炮烙、洗滌、剝皮等ヲ要セス其ノ儘食用ニ供スベキ飲食物ニ覆蓋ヲ設ケズ店頭ニ陣列シタル者（覆蓋トハ硝子ノ蓋カ蚊帳網抔ヲイフ）

十、濫ニ禽獸ノ死屍又ハ汚穢物ヲ棄擲シ又之レガ取除ヲ怠リタル者

十一、監置ニ係ル精神病者ノ監護ヲ怠リ屋外ニ徘徊セシメタルモノ

第四條　本令ニ規定シタル違反行爲ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ各本條ニ照シ之ヲ罰ス

但シ精狀ニ依リ其刑ヲ免除スルコトヲ得

附則

本令ハ明治四十一年十月十日ヨリ之ヲ施行ス

○民事訴訟法摘錄　明治二十三年三月法律第二十九號

第二百九十八條　左ノ場合ニ於テハ證言ヲ拒ムコトヲ得

第一、官吏公吏又ハ官吏公吏タリシ者ガ其職務上默祕ス可キ義務アル事情ニ關

スルトキ

第二、醫師、藥商、穩婆、辯護士、公證人、神職及ビ僧侶ガ其身分又ハ職業ノ爲メ委託ヲ受ケタルニ因テ知リタル事實ニシテ默秘ス可キモノニ關スルトキ

第三、問ニ付テノ答辯カ證人又ハ前條ニ掲ケタル者ノ恥辱ニ歸スルカ又ハ其ノ刑事上ノ訴追ヲ招ク恐アルトキ

第四、問ニ付テノ答辯カ證人又ハ前條ニ掲ケタル者ノ爲メ直接ニ財産權上ノ損害ヲ生セシム可キトキ

第五、證人カ其技術又ハ職業ノ祕密ヲ公ニスルニ非サレバ答辯スルコト能ハサルトキ

第三百二十二條　鑑定ニ付テハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケサル限リハ人證ニ付テノ規定ヲ準用ス

○刑事訴訟摘錄（明治二十三年十月六日法律第九十六號）

第三編　犯罪ノ搜査起訴及ヒ豫審

第三章　豫審

第六節　證人訊問

第百十六條　證人病疾其他正當ノ事故ニ因リ呼出ニ應ズル能ハサルコトヲ證明シタルトキハ豫審判事其所在ニ就テ之ヲ訊問スヘシ

第百十七條　證人ト爲ルベキ者豫備後備ノ軍籍ニ在ラザル軍人軍屬ナルトキハ其所屬ノ長官又ハ隊長ヲ經由シテ呼出狀ヲ送達ス其長官又ハ隊長ハ即時ニ出頭セシムベキキコトヲ認可シ又ハ職務上已ムコトヲ得サル差支アルトキハ其事由ヲ附記シテ出頭ノ延期ヲ豫審判事ニ請求ス可シ

第百十八條　豫審判事ハ前二條ニ定メタル差支ノ場合ヲ除ク外證人呼出ニ應ゼサルトキハ檢事ノ意見ヲ聞キ其不參ニ因リ生シタル費用ノ賠償及ビ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ言渡ス可シ但シ其決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告執行ヲ停止スル効力ヲ有ス

豫審判事ハ其證人ニ對シ罰金言渡書ト共ニ再度ノ呼出狀ヲ送達シ又ハ直チニ拘引狀ヲ發スルコトヲ得若シ證人再度ノ呼出ニ應ゼサルトキハ費用賠償ノ外二倍ノ罰金ヲ言渡ス可シ又拘引狀ヲ發スルコトヲ得

豫備後備ノ軍籍ニ在ラザル軍人軍屬ニ對スル罰金ノ言渡シ及ヒ執行ハ軍事裁判所又ハ所屬ノ長官又ハ隊長ニ囑託シテ之ヲ爲ス可シ拘引ニ付テモ亦同シ

第百二十五條　左ニ記載シタル場合ニ於テハ證言ヲ拒ムコトヲ得

第一　官吏、公吏又ハ官吏、公吏タリシ者其職務上秘默スヘキ義務アル事情ニ關スルトキ

第二　醫師、藥商、產婆、辯護士、公證人、神職、僧侶、其身分聯業ノ爲メ委託ヲ受ケタルニ因リ知リタル事實ニシテ默秘ス可キモノニ關スルトキ

證言ヲ拒ム者ハ拒絶ノ原因タル事實ヲ開示シ且之ヲ證明ス可シ

第七節　鑑定

第百三十五條　豫審判事ハ犯罪ノ性質方法及ヒ結果ヲ分明ナラシムル爲メ鑑定ヲ必要ナリトスルトキハ學術職業ニ因リ鑑定スルコトヲ得ヘキ者一名又ハ數名ヲシテ鑑定ヲ爲サシム可シ

鑑定ノ爲メ必要アリトスルトキハ死體ノ解剖ヲ命シ又既ニ埋葬シタル死體ヲ解剖シ若クハ檢視スル爲メ墳墓ノ發掘ヲ命スルコトヲ得

第百三十六條　鑑定ニ付テハ第百十五條第百十八條乃至第百二十一條第百二十三條乃至第百二十五條及ヒ第百二十八條ノ規定ヲ準用ス但鑑定人ニ對シテハ拘引狀ヲ發スルコトヲ得ス

第百三十七條　鑑定人ハ公平且正實ニ鑑定ス可キ宣誓ヲ爲ス可シ其宣誓ハ第百二十二條ノ式ニ從フ

第百三十八條　鑑定人宣誓ヲ肯ンセス又ハ宣誓シテ鑑定ヲ肯シセザルトキハ豫審判事檢事ノ意見ヲ聞キ刑法第百七十九條ニ從ヒ罰金ヲ言渡ス可シ但其決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有ス

第百三十九條　豫審判事ハ鑑定人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ鑑定人ヲ增加シ又ハ別人ヲシテ鑑定セシムルコトヲ得

第百四十條　鑑定人ハ鑑定書ヲ作リ其手續結果及ヒ鑑定ヲ爲シタル時間ヲ詳記ス可シ

若シ結果ヲ得サルトキハ其推測スル所ヲ記載スヘシ鑑定人意見ヲ異ニスルトキハ各自鑑定書ヲ作リ又ハ各自ノ意見ヲ一箇ノ鑑定書ニ記載スヘシ

第百四十一條　鑑定人ハ旅費日當及立替金ノ辨濟ヲ求ムルコトヲ得

第八節　現行犯ノ豫審

第百四十四條　地方裁判所檢事及ヒ區裁判所檢事ハ豫審判事ヨリ先ニ重罪又ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬スルニ輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタル場合ニ於テ其事件急速ヲ要スルトキハ豫審判事ヲ待ツコトナク其旨ヲ通知シテ犯所ニ臨檢シ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得但罰金及ヒ費用賠償ノ言渡ヲ爲スコトヲ得

證人及鑑定人ノ供述ハ宣誓ヲ用ユルコトナク之ヲ聽ク可シ

第四編　公判

第一章　通則

第百八十三條　被告人精神錯亂又ハ疾病ニ因リ出頭スルコト能ハサルトキハ痊癒ニ至ルマテ辯論ヲ停止ス但罰金以下ノ刑ニ該ルヘキ事件ニ付被告人代人ヲ差出シタルトキハ此限ニ在ラス

辯論ニ取掛リタル後被告人精神錯亂シタル時ハ其痊癒ノ後新ニ辯論ヲ爲ス可シ其他疾病ニ罹ル時ハ痊癒ノ後前ニ停止シタルヨリ以後ノ手續ヲ爲ス可シ但五日間辯論ヲ停止シ又ハ檢事其他訴訟關係人ノ請求アリタル時ハ新ニ辯論ヲ爲ス可

シ若シ被告事件及ヒ法律ノ適用ニ付キ既ニ辯論ヲ終リタルトキハ其痊癒ノ後更ニ取消シヲナスコトナク裁判ヲ爲ス可シ

第百八十九條　豫審ニ於テ訊問シタル證人又ハ鑑定ヲナシタル鑑定人ハ更ニ之ヲ呼出スコトヲ得

豫審ニ於ケル證人ノ供述書又ハ鑑定人ノ鑑定書ハ更ニ其證人鑑定人ヲ呼出サザルトキ證人鑑定人呼出ヲ受ケ出頭セサルトキ又ハ豫審及ヒ公判ニ於ケル供述鑑定ヲ比較ス可キトキハ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ裁判長ノ職權ヲ以テ之朗讀セシムルコトヲ得

第百九十條　第百十五條以下ノ規定ハ公判ノ證人ニ第百三十五條以下ノ規定ハ公判鑑定人ニモ亦之ヲ準用ス

第百九十五條　證人又ハ鑑定人ノ供述不實ニシテ故意ニ出テ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノト思料シタルトキハ裁判所ニ於テ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ取押ヘ拘引狀ヲ發シ豫審判事ニ送致ス可シ

其證人又ハ鑑定人ノ供述ハ裁判所書記之ヲ錄取シ豫審判事ニ送致ス可シ本條ノ場合ニ於テハ裁判所ニテ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ本案ノ辯論ヲ停止スルコトヲ得

第五編　上訴

第二章　控訴

第二百五十八條　控訴ノ裁判ニ於テハ地方裁判所ノ第一審ニ關スル規定ヲ適用ス

第一審ニ於テ訊問シタル證人又ハ鑑定人ハ控訴裁判所ニ於テ其再度ノ訊問鑑定ヲ必要ナリトセサルトキハ之ヲ呼出サヽルコトヲ得

○第五十章　傳染病豫防ニ關スル諸法

甲　癩病豫防ニ關スル法律

（明治四十年法律第十號）

第一條　醫師癩病ヲ診斷シタルトキハ患者及ヒ家人ニ消毒其ノ他豫防方法ヲ指示シ且三日以內ニ行政官廳ニ屆出ベシ其ノ歸轉ノ場合及ヒ死體ヲ檢案シタルトキ亦同シ

第二條　癩患者アル家又ハ癩病毒ニ汚染シタル家ニ於テハ醫師又ハ當該吏員ノ指示ニ從ヒ消毒其ノ他豫防法ヲ行フベシ

第三條　癩患者ニシテ療養ノ途ヲ有セズ且救護者ナキモノハ行政官廳ニ於テ命令ノ定ムル所ニ從ヒ療養所ニ入ラシメ之ヲ救護スベシ但シ適當ト認ムルトキハ扶養義務者ヲシテ患者ヲ引取ラシムベシ

必要ノ場合ニ於テハ行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ前項患者ノ同伴者又ハ同居者ニ對シテモ一時相當ノ救護ヲ爲スベシ

前二項ノ場合ニ於テ行政官廳ハ必要ト認ムルトキハ市町村長（市制町村制ヲ施行セサル地ニアリテハ市町村長ニ準スベキ者）ヲシテ癩患者及ビ其ノ同伴者又ハ同居者ヲ一時救護セシムルコトヲ得

第四條　主務大臣ハ二以上ノ道府縣ヲ指定シ其ノ道府縣内ニ於ケル前條ノ患者ヲ收容スル爲メ必要ナル療養所設置ヲ命ズルコトヲ得

前項療養所ノ設置及ビ管理ニ關シ必要ナル事項ハ主務大臣之ヲ定ム主務大臣ハ私立療養所ヲ第一項ノ療養所ニ代用セシムルヿヲ得

第五條　救護ニ要スル費用ハ被救護者ヨリ負擔トシ被救護者ヨリ辨償ヲ得サルトキハ其ノ扶養義務者ノ負擔トス

第三條ノ場合ニ於テ之ガ爲メ要スル費用ノ支辨方法及其ノ追徵法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　扶養義務者ニ對スル患者引キ取リ命令及費用辨償ノ請求ハ扶養義務者中何人ニ對シテモ之ヲ爲スコトヲ得但シ費用ノ辨償ヲ爲シタルモノハ民法第九百五十五條及第九百五十六條ニ依リ扶養ノ義務ヲ履行スベキ者ニ對シ求償ヲ爲スヿヲ妨ケズ

第七條　左ノ諸費ハ北海道地方費又府縣ノ負擔トス但シ沖繩縣及東京府下伊豆七島小笠原島ニ於テハ國庫ノ負擔トス

一、被救護者又ハ其ノ扶養義務者ヨリ辨償ヲ得ザル救護費

二、檢診ニ關スル諸費三、其ノ他道府縣ニ於テ癩豫防上施設スル事項ニ關スル諸費

第四條第一項ノ場合ニ於テ其ノ費用ノ分擔方法ハ關係地方長官ノ協議ニ依リ之ヲ定ム若シ協議調ハザルトキハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル第四條第三項ノ場合ニ於テ關係道府縣ハ私立ノ療養所ニ對シ必要ナル補助ヲ爲スベシ此場合ニ於テ其ノ費用ノ分擔方法ハ前項ノ方法ニ依ル

第八條　國庫ハ前條道府縣ノ支出ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ六分ノ一乃至二分ノ一ヲ補助スルモノトス

第九條　行政官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ指定シタル醫師ヲシテ癩又ハ其ノ疑アル患者ノ檢診ヲ行ハシムルコトヲ得行政官廳ノ指定シタル醫師ノ診斷ニ不服アル患者又ハ其扶養義務者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ更ニ檢診ヲ求ムルコトヲ得

第十條　醫師第一條ノ屆出ヲ爲サズ又ハ虛僞ノ屆出ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條　第二條ニ違反シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條　行旅死亡人ノ取扱ヲ受クル者ヲ除クノ外行政官廳ニ於テ救護中死シタル癩患者ノ死體又ハ遺留物件ノ取扱ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

勅令第二百八十四號

明治四十年法律第十一號ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

內務省令第十九號

明治四十年七月廿日法律第十一號癩豫防ニ關スル件施行規則

第一條　明治四十年法律第十一條第一條ノ屆出ハ死體所在地ノ警察官署ニ之レヲ爲スベシ

癩患者ヲ診斷タル醫師ハ故ナク其ノ事實ヲ漏泄スルコトヲ得ス

第二條　癩患者ニシテ療養ノ途ヲ有セズ且救護者ナキモノアルトキハ警察官署ハ一時之ヲ救護シ又ハ市町村長ヲシテ一時之ヲ救護セシメ其ノ旨ヲ患者ノ家族又ハ扶養義務者ニ通知シ且患者ノ本籍住所姓名及ビ病況並扶養義務者ノ住所氏名等ヲ具シ地方長官ニ報告スベシ

地方長官ニ於テ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ所定ノ療養所ニ照會ヲ經タル上送致ノ手續ヲ爲スベシ但シ適當ト認ムル扶養義務者アルトキハ之ニ對シ患者ノ引取ヲ命スベシ

警察官署ハ必要ト認ムルトキハ第一項ノ癩患者ノ同伴者又ハ同居者ニ對シテモ一時相當ノ救護ヲ爲シ又ハ市町村長ヲシテ之ヲ爲サシムベシ

第三條　前條ニ依リ癩患者ヲ入ラシムベキ療養所ハ救護地道府縣ノ療養所トス但シ療養所管理者ノ協議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

第四條　明治四十年法律第十一號第四條ノ療養所ハ內務大臣ノ指定シタル設立地ノ地方長官ニ於テ之ヲ建設管理スベシ

當該地方長官ハ內務大臣ノ認可ヲ得テ療養所ノ位地ヲ定ムベシ

第五條　明治四十年法律第十一號第四條第三項ノ場合ニ於テハ療養所所在地地方長官ハ療養所ノ設立者ニ對スル命令條件ヲ定メ內務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第六條　明治四十年法律第十一號第九條第二項第二項行政廳官ノ職權ハ警察署之ヲ行フ

警察署ノ指定シタル醫師ノ診斷ニ不服アル患者又ハ其扶養義務者ハ發病以來症候經過及反對意見ヲ有スル醫師ノ診斷書其ノ他不服ノ理由ヲ具シ書面ヲ以テ地方長官ニ對シ其ノ指定シタル醫師ノ檢診ヲ請求スルヿヲ得

前項ノ場合ニ於テハ地方長官ハ檢診ノ場所及ビ日時ヲ請求者ニ通知シ二人以上ノ醫師ヲ指定シテ檢診ヲ行ハシムベシ此ノ場合ニ於テ請求者ハ其ノ費用ヲ以テ反對意見ヲ有スル醫師ヲ立會セシムルヿヲ得

檢診ノ爲メ病院其ノ他ノ現所ニ滯留ヲ命セラレタル患者其ノ命ヲ遵守セザルトキハ檢診ノ請求ヲ取消シタルモノト看做ス

第七條　檢診ノ請求ハ行政處分ノ執行ヲ停止セス但シ當該官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ此ノ限ニアラズ

第八條　行旅死亡人ノ取扱ヒヲ受クル者ヲ除ク外行政官廳ニ於テ救護中死亡シタル癩患者ノ死體及遺留物件ノ取扱ニ關シテハ行旅病人及ビ行旅死亡人取扱法規定ヲ準用ス但シ市町村長ニ於テ救護中死亡シタル場合ヲ除ク外同法中市町村長ノ職務ハ當該行政官廳之ヲ行フ第九條第二條及第六條ノ地方長官職權其ノ他癩豫防上警察ニ屬スル事項ハ東京府ニ於テハ警視總監之ヲ行フ

罫

本令ハ明治四十年法律第十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

內務省令第二十號

療養所設置區域ニ關スル事項　罫ス

勅令第二百八十五號

療養所精算國庫補助ニ關スル事項　罫ス

癩病患者輸送法（明治四十二年）

鐵道院ニ關スル事項　罫ス

內務大臣ノ訓示（明治四十二年二月）

主文罫ス

一、患者ノ居室ハ成可別ニ之ヲ定メ他ノ家人ハ雜居セザルコト

二、患者ノ衣類寢具其他日用器具等ハ特ニ專用ノ物ヲ備ヘ他ト混同セザル樣注意スルコト

三、患者ノ常用衣類敷布寢具等ハ時々消毒ヲ行ヒタル后洗濯スルコト

四、患者ノ居室ハ常ニ清潔ヲ保持スルコト

五、患者ノ居室ハ消毒藥ヲ容レタル唾壺ヲ備フルコト

六、病毒ニ汚染シタル繃帶手巾等ハ消毒ヲ行ヒ患家ノ紙屑、襤褸類ハ燒却スルコト

七、患者ノ外出ハ可成避ケシメ止ムヲ得ズ外出セントスルトキハ清潔ナル衣類ヲ著用シ又潰瘍アルモノハ其ノ繃帶ヲ更ムルコト

八、患者ハ可成他ノ交通ヲ避シメ又理髮店、公衆浴場、料理店、飲食店、劇場寄席乘合船車等公衆ノ出入スル場所ニ立入ラザルコト

九、患者ハ牛乳ノ搾取飲食物飲食器具金屬陶器類ヲ除ク玩具ノ調製又ハ其販賣ト他ノ病毒傳播ノ虞レアル業ニ從事セザルコト

一〇、患者ノ住居シタル家屋ハ消毒シタル後ニ非ラザレバ他ニ使用貸與又ハ授與セザルコト

一一、患者ノ使用シタル衣類寢具器具ハ勿論家人ノ常用衣類等病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル物件ハ消毒ヲ行ヒタル后ニ非ラザレハ他ニ使用授與移轉又ハ遺棄セザルコト

一二、患者ノ一時滯留シタル場合ニ於ケルモ其ノ占居シタル室幷ニ使用シタル

衣類寢具器具等ニ對シテ亦前二號ヲ適用スベシ

一三、看護等ノ爲メ常ニ患者ニ接近シ又ハ病毒汚染物件ヲ取扱フ者等ハ常ニ手指ノ消毒ニ注意シ又可成上被ヲ着用シ時々之ヲ消毒スルヿ

一四、癩患者ノ屍體ハ消毒ヲ行ヒタル后可成火葬スルヿ

一五、消毒方法ハ明治三十年內務省令第十三號ノ規定ニ準シ施行スルヿ

乙　傳染病豫防法摘錄

（明治三十年三月法律第三十六號）

第一條　此ノ法律ニ於テ傳染病ト稱スルハ虎列刺、赤痢、腸窒扶斯、痘瘡、發疹窒扶斯、猩紅熱、實布的利亞（格魯布ヲ含ム）及「ペスト」ヲ謂フ

前項ニ掲クル八病ノ外此ノ法律ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要トスル傳染病アルトキハ主務大臣之ヲ指定ス

第三條　醫師傳染病患者ヲ診斷シ若クハ其ノ死體ヲ檢案シタルトキハ其ノ家人ニ消毒方法ヲ指示シ且直ニ患者若クハ死體所在地ノ警察官吏、市町村長、區長、戶長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ屆出ヘシ其轉歸ノ場合亦同シ

第四條　傳染病又ハ其ノ疑アル患者若ハ其死者アリタル家ニ於テハ速ニ醫師ノ診斷若ハ檢案ヲ受ケ又ハ直ニ其ノ所在地ノ警察官吏、市町村長、區長、戶長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ屆出ヘシ

前項ノ屆出ヲ爲スヘキ義務者ハ一般民家ニ在リテハ戶主若ハ之ニ代ルヘキ者、社寺、公私立ノ學校病院、製造所又ハ船舶、會社、各種事務所、貸席、興行場其ノ他集會ノ場所ニ在リテハ其ノ首長管理人又ハ代理者トス

第十條　傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物件ハ當該吏員ノ認可ヲ受クルニ非サレハ使用授與、移轉遺棄又ハ洗滌スルコトヲ得ス

第十一條　傳染病患者ノ死體ハ當該吏員ニ於テ充分ト認ムル消毒方法ヲ施シタル後ニ非サレハ埋葬スヘカラス

傳染病患者ノ死體ハ醫師ノ檢案ニ依リ當該吏員ノ認可ヲ經テ二十四時間內ニ埋葬スルコトヲ得

第二十九條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リテ當該吏員ノ指示命令シタル事項ヲ指定ノ期限內ニ履行セサルモノハ五圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十條　醫師傳染病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死體ヲ檢案シタル後十二時間以內ニ屆出ヲ爲サス又ハ虛僞ノ轉歸屆ヲ爲シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條　第四條、第五條、第九條、第十條、第十一條第一項、第十二條ニ違背シタル者、交通遮斷ヲ犯シタル者、當該吏員ノ尋問ニ對シ答解ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者、又ハ醫師ニ請託シテ第三條ノ屆出ヲ爲サシメス若ハ其屆ヲ

妨ケタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス（本條ハ明治三十八年三月十三日法律第五十六號ノ改正ニ據ル）

○第五十一章　傳染病豫防法施行規則抄

（明治三十年五月一日發布内務省令第十一號）
（同三十八年六月十三日内務省令第十四號改正）

第三條　警察官吏又ハ檢疫委員傳染病豫防法第三條又ハ第四條ノ屆出ヲ受ケ又ハ傳染病患者死者其他傳染病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アルコトヲ知リタルトキハ市町村長區長戸長又ハ豫防委員ニ通報スヘシ但警察署長又ハ分署長ヨリ府縣廳（東京府ハ警視廳）ニ報告スヘシ

第四條　市町村長區長戸長又ハ豫防委員ハ傳染病患者死者其ノ他病毒汚染ノ事實アルコトヲ知リタルトキハ速ニ傳染病患者死者アリタル家其他病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル家ニ清潔法消毒方法ヲ施行セシメ「ペスト」病ナルトキハ特ニ鼠族ノ驅除ヲ施行セシムヘシ但警察官吏衛生官吏郡吏員島廳吏員又ハ檢疫委員ハ市町村長區長戸長又ハ豫防委員ヲ指示シテ其ノ事務ニ從事スヘシ

第六條　警察官吏又ハ檢疫委員ハ傳染病豫防法第八條ニ依リ虎列拉、赤痢、發疹窒扶斯、「ペスト」ニ對シ左ノ事項ヲ施行スルコトヲ得

一　患者又ハ死體アル間及患者ヲ入院若クハ入舍セシメ又ハ患者治癒若クハ死亡シタル後消毒方法ノ施行ヲ了ルマテ其ノ家ノ交通ヲ遮斷ス

二　前號ノ外病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル家ハ消毒方法ノ施行ヲ了ルマテ交通ヲ遮斷スルコト

三　前二號ノ家ノ居住者其他病毒感染ノ疑アル者ヲ消毒方法ノ施行ヲ了リタル時ヨリ起算シ左ノ日時間隔離所若クハ消毒方法ノ施行ヲ了リタル家其ノ他適當ノ場所ニ隔離スルコト

虎列刺、赤痢　滿五日間
發疹窒扶斯　滿七日間
「ペスト」　滿十日間

四　交通遮斷又ハ隔離中ニ新ニ患者ヲ發シタルトキハ更ニ本條ニ依リテ處置スルコト

傳染病豫防法第十九條第二ニ依ル交通遮斷及隔離ノ施行ハ警察官吏又ハ檢疫委員ニ於テ前項ニ準シ之ヲ行フヘシ但特ニ府縣知事（東京府ハ警視總監）ノ命アル場合ニ限ル市町村長區長戸長又ハ豫防委員ハ警察官吏又ハ檢疫委員ノ指示ヲ受ケテ本條ノ交通遮斷及隔離ニ關スル事務ニ從事スヘシ

附則

本令ハ明治三十八年七月一日ヨリ施行ス

○第五十二章　清潔方法及消毒方法

（明治三十年五月六日發布内務省令第十三號
（全三十八年六月十四日内務省令第十七號改正）

第一章　清潔方法

第一條　清潔方法ノ要項左ノ如シ

一　傳染病患者アリタル家ニ於テハ殊ニ患者ノ居室其他病毒汚染ノ疑アル場所ニ注意シ消毒方法ノ施行ヲ了リタル後掃除ヲ行ヒ其塵芥ハ之ヲ燒却スヘシ

二　家屋掃除ノ際床下ノ塵芥其ノ他ノ不潔物ハ之ヲ取除キ燒却スヘシ

三　傳染病患者アリタル家ノ井戸流、塵所流、便所又ハ芥溜ノ掃除ヲ要スルトキハ消毒方法ノ施行ヲ了リタル後之ヲ行フヘシ但必要ノ場合ニハ修理改造及井戸浚ヲ爲スヘシ

四　「ペスト」ニ對シテハ前各號ノ外屋根裏、天井、羽目板間、床下等ニ就テ鼠族ノ搜索驅除ヲ行フヘシ

五　傳染病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル家ニ於テ施行スル場合亦前各號ヲ準用スヘシ

第二條　傳染病流行ニ際シ溝渠ヲ攪拌スルハ却テ病毒蔓延ノ媒介ヲ爲スノ虞ナシトセス必要ノ場合ニハ消毒藥（生石灰末若クハ石灰）ヲ投シタル後浚渫スヘシ

第三條　傳染病ノ流行前又ハ流行後ニ於テ清潔方法ヲ行ヒ家宅ノ掃除溝渠ノ浚渫ヲ爲ス場合ニ於テハ濾リニ消毒藥ヲ撒布スヘカラス

第四條　溝渠ヲ浚ヘタル汚泥塵芥ハ直ニ一定ノ運搬器ニ入レ健康上有害ナラサル樣一定ノ場所ニ棄ツヘシ汚泥ヲ路傍ニ散逸セシメ又ハ之ヲ堆積スヘカラス

第二章　消毒方法

第五條　消毒方法ハ左ノ四種トス

一　燒却
二　蒸汽消毒
三　煮沸消毒
四　藥物消毒

第六條　燒却ニ適スルモノハ左ノ如シ

一　傳染病患者若クハ死體ニ用ヰタル被服、臥具、布片、便器其ノ他ノ器具等ニシテ甚タシク病毒ニ汚染シ消毒後再ヒ用ニ供スル目的ナキモノ

二　傳染病患者ノ吐瀉物其他ノ排泄物及塵芥動物ノ死體等

第七條　蒸汽消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ

一　衣服、臥具、布片等總テ絹布、綿布、麻布、毛織物類

二　梢子器、陶器、瓷器其ノ他鑛製若クハ木製品類等ニシテ汽熱ニ堪フルモノ

第八條　蒸汽消毒ヲ施行スルトキハ左ノ各項ニ注意スルヲ要ス

一　革類、革製品、漆器其ノ他ノ塗物類、ゴム製品、ゴム用品、糊附品、膠附品、毛皮、象牙、鼈甲、角ノ類ハ物品ヲ損スルヲ以テ蒸汽消毒ヲ避クヘシ

二　被服類ニ蒸汽消毒ヲ施スニハ豫メ袖中又ハ衣嚢中ヲ檢索シ若シ彈丸、火藥等爆發又ハ發火シ易キ物品アルトキハ之ヲ取出スヘシ又消毒中他物ニ染色ノ虞アルモノハ蒸汽消毒ヲ避クヘシ

三　蒸汽消毒ハ流通蒸汽ヲ用ヒ成ルヘク消毒器中ノ空氣ヲ驅逐シ一時間以上攝氏百度以上ノ濕熱ニ觸レシムヘシ

第九條　煮沸消毒ニ適スルモノハ蒸汽消毒ニ適スルモノニ同シ

煮沸消毒ハ消毒スヘキ物品ヲ全部水中ニ浸シ沸騰後三十分間以上煮沸スヘシ

第十條　藥物消毒ニ供スル藥劑並ニ其用法ハ左ノ如シ

一　石炭酸水（二十倍）　結晶石炭酸五分、鹽酸一分、水九十四分

石炭酸水ヲ製スルニハ石炭酸五分ニ凡水一分ヲ加ヘ攪拌又ハ振盪シツヽ徐々ニ定量ノ水ヲ注キ後鹽酸一分ヲ加フベシ溫湯ヲ用フレハ其ノ溶解殊ニ速カナリトス但使用ノ際ハ毎回振盪スルヲ要ス

石炭酸水ハ各種物件ノ消毒ニ適ス但シ使用ノ際ハ左ノ諸件ニ注意スヘシ

一　吐瀉物其ノ他排泄物ニハ同容量ヲ加ヘ攪拌スヘシ

二　器具室内等ヲ消毒スルニハ擦拭又ハ撒布スヘシ

三　手足等ヲ消毒スルニハ洗滌シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗淨スヘシ

四　衣服等ヲ消毒スルニハ鹽酸ヲ加ヘサルモノヲ用ヒ六時間以上浸漬シ其ノ後淨水ヲ以テ更ニ洗濯スヘシ

一ノ二　クレゾール水　クレゾール石鹼液六分水九十四分

クレゾール水ヲ製スルニハ「クレゾール」石鹼液六分ニ定量ノ水ヲ加フヘシ

クレゾール水ハ各種物件ノ消毒ニ適シ其用量及應用ハ石炭酸水ニ準スヘシ

二　昇汞水（千倍）　昇汞一分、鹽酸十分　水九百八十九分

昇汞水ヲ製スルニハ昇汞ヲ定量ノ水ニ溶解シ後鹽酸ヲ加フヘシ

昇汞水ハ猛毒ニシテ無色無臭ナルカ爲メ危險ヲ招キ易キノ虞アリ故ニ貯藏使用ノ際充分ニ注意ヲ加ヘ又其ノ危險ヲ防カン爲メ「スカレット」又ハゾイレフクシン其ノ他適當ノ色素ヲ加ヘテ着色シ一見識別シ易カラシムルヲ要ス但金屬製ノ器ニ貯藏スヘカラス

昇汞水ハ陶器、硝子器、木製器具又ハ室内ノ消毒ニ適ス飲食用器具、玩具ノ消毒飲料水ニ滲透スヘキ場所ノ消毒及金屬製品、糞便、吐瀉物ノ消毒ニ用フヘカラス

手足等ヲ消毒スルニハ洗滌シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗淨スヘシ

三　生石灰　小量ノ水ヲ灌ケハ熱ヲ發シテ崩壞スルモノ

生石灰水　生石灰ニ少量ノ水ヲ加ヘ粉末ト爲シタルモノ

生石灰末ハ用ニ臨ミテ之ヲ製シ吐瀉物其ノ他ノ排泄物、溝渠等ノ消毒ニ用フヘシ吐瀉物其他排泄物ヲ消毒スルニハ少クモ其容量五十分一ヲ投シ能ク攪拌スヘシ

石灰乳(十倍)　生石灰一分　水九分

石灰乳ヲ製スルニハ一分ノ生石灰ニ九分ノ水ヲ徐々ニ加ヘ能ク攪拌スヘシ其ノ用量ハ吐瀉物其ノ他排泄物等ノ容量四分ノ一以上トス但石灰乳ハ用ニ臨ミテ之ヲ製シ使用ノ際ニハ毎回攪拌スルヲ要ス

普通石灰ハ生石灰ヲ得ルコト能ハサル場合ニ限リ代用トシテ其ノ倍量ヲ用フヘシ

四　クロール石灰水(二十倍)　クロール石灰五分　水九十五分

クロール石灰水ノ際用幷用量ハ石灰乳ニ同シ但用ニ臨ミテ製スヘシ

五　カリ石鹸又ハ綠石鹸

カリ石鹸又ハ綠石鹸三分ヲ熱湯百分ニ溶解シ使用ノ際ニハ加熱スルヲ要スカリ石鹸又ハ綠石鹸ハ不潔ナル木製器具、戸障子床面ノ消毒ニ適ス

六　フオルムアルデヒード

「フオルムアルデヒード」ハ「フオルマリン」ヲ噴霧發生セシメ又ハ適當ノ裝置ニ依リ之ヲ發生セシムヘシ

一　氣密ニ閉鎖シ得ヘキ消毒函内又ハ土藏造、洋風、建物、船舶、瀘車等ニテ戸、扉、窓、窓孔等ヲ密閉シ得ヘキ室内ニ非サレハ之ヲ使用スヘカラス

二　消毒函又ハ室内ノ容積百立方尺ニ付フオルマリン四十瓦以上ヲ噴霧セシメ若クハ「フオルマリンアルデヒード」瓦斯十五瓦以上ヲ發生セシメ同時ニ約百瓦以上ノ水ヲ蒸發セシムルノ比例ヲ以テ處置シタル後七時間以上密閉シ置クヘシ

「フオルムアルデヒード」ハ左ノ消毒ニ用ヰルコトヲ得

一　土藏造、洋風建物、船舶、瀘車等ノ密閉シ得ル室内又ハ室内ニ定着セル器物ニシテ他ノ消毒方法ヲ行フコト能ハサルモノ

二　他ノ消毒方法ヲ行コフト能ハサル貴重品其ノ他ノ物件ニシテ其内部ニ至ルマテ消毒方法ヲ施スノ必要ナシト認メタルモノ

第十一條　消毒方法ノ應用ハ左ノ如シ

第一　患者

傳染病患者治癒シタルトキハ全身入浴ヲ行ヒ衣服ヲ更メシムヘシ場合ニ依リテハ溫濕布ヲ以テ拭淨シ入浴ニ代ユルモ妨ナシ

第二　死體

傳染病ノ死體ヲ棺ニ歛ムルニハ其ノ被服ニ昇汞水若クハ石炭酸水ヲ充分ニ撒布シ又ハ昇汞若クハ石炭酸水ニ浸漬シタル布ヲ以テ包ミ又ハ石灰ヲ以テ塡ツヘシ

第三　看病人、病家ノ家人其ノ他病毒ニ觸接シタル者

看病人、病家ノ家人其ノ他消毒方法ノ施行又ハ患者、死體、排泄物ノ運搬等ノ爲病毒ニ觸接シタル者ハ時々若クハ其ノ都度手足及衣服ヲ消毒シ入浴スヘシ

第四　患者「死體ノ運搬器」

傳染病ノ患者、死體ヲ運搬シタル駕籠釣臺ノ類ハ使用後毎回昇汞水若クハ石炭酸水ヲ以テ擦拭スヘシ

第五　便所、芥溜、溝渠等

傳染病患者ノ吐瀉物其ノ他排泄物ノ入リタル便所ノ糞池、肥料溜等ニハ生石灰末、石灰乳若クハ「クロール石灰水ヲ灌キ能ク攪拌スヘシ但便所ハ石炭酸水ヲ以テ消毒シタル後ヲ直ニ使用シ糞便ハ一週間ノ後肥料ニ供セシムルコトヲ得病毒ニ汚染シタル土地ニハ石灰乳若クハ「クロール石灰水ヲ灌キ消毒スヘシ

病毒ノ混入シタル芥溜ニハ生石灰末、石灰乳若クハ「クロール石灰水ヲ灌クヘシ

第六　衣服、器具、敷物

傳染病患者ノ着用セル衣類臥具並ニ其病室ニ在ル諸器具又ハ看病人及患者ニ接シタル家人ノ衣類其ノ他病毒汚染ノ虞アルモノハ各物件ノ種類ニ從ヒ消毒方法ヲ施行スヘシ

第八條第一ニ掲ケタル物品ノ類ハ「カリ石鹼又ハ綠石鹼(毛皮ニハ避クベシ)ヲ以テ洗ヒ又ハ石炭酸水ヲ以テ拭淨若ハ撒布シ又ハ「フオルムアルデヒード」ヲ第五條ニ掲クル各消毒方法ヲ施行スルコト能ハサルモノハ日光ニ曝シ若クハ大氣中ニ乾燥セシムヘシ

第七　家屋

患者ノ居室其ノ他傳染病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル室内各部ハ石炭酸水又ハ昇汞水ヲ以テ拭淨スヘシ但土藏造、洋風建物等密閉シ得ヘキ室内ニハ「フオルムアルデヒード」ヲ用ヰルコトヲ得

消毒後ハ日光ノ射入空氣ノ流通ヲ良クシ乾燥セシムルヲ要ス

第七ノ二　井戸、水槽等

傳染病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル井戸、水槽等ニハ水量五十分ノ一ノ生石灰ヲ乳狀トナシテ投入シ能ク攪拌シタル後十二時間以上放置シ又ハ適當ノ

裝置ニ依リテ熱蒸汽ヲ通シ三十分間以上沸騰セシムヘシ

第八　流車

傳染病患者若クハ死體アリタル流車内ノ消毒ハ第七ニ準スヘシ

傳染病患者ノ吐瀉物其ノ他排泄物ニ對シテハ消毒藥ヲ混シ適宜處置スベシ

車室ニ附屬スル便所ハ石炭酸水ヲ以テ消毒スベシ

第九　船舶

傳染病患者若クハ死體アリタル船室内ノ消毒ハ第七第八ニ準スヘシ其他ノ塲所ニ對シテハ消毒藥ノ撒布擦拭等適宜處置スヘシ

船底水ニハ其ノ容量二百分ノ生石灰末ヲ加ヘ二十四時間ヲ經タル後汲出サシム

附　則

本令ハ明治三十八年七月一日ヨリ施行ス

○第五十三章　死亡診斷書及死産證書並檢案書

内務省訓令第二十八號

本年九月當省令第四十一號ヲ以テ規定シタル醫師ノ作爲スベキ死亡診斷書、死體檢案書及醫師又ハ産婆ノ作爲スベキ死産證書、死體檢案書ノ樣式並ニ其記載方ハ左ノ各項ニ準據セシメラルヘシ

明治三十三年十月九日

内務大臣　侯爵　西鄕從道

第一　死亡診斷書、死體檢案書

樣式

死亡診斷書（死體檢案書）

一　氏名

二　男女ノ別

三　出生ノ年月日

四　職業　死亡者ノ職業
家計ノ重ナル職業

五　病死、自殺、其他ノ變死、中毒ノ別

六　病名（自殺者ニ手段及中毒者ニ在テハ）種類
（自殺以外ノ變死者在テハ）

七　發病年月日（變死者自殺者等ニ在テハ之ヲ除ク）

八　死亡ノ年月日

九　死亡ノ塲所

右證明（檢案）候也

年　月　日

住所
醫師　何　某　印

記載方

一　戸籍上ノ氏名ヲ記スベシ自殺者變死等者ニ在テ若シ氏名明カナラザルトキハ不詳ト記スベシ

二　經久ノ死體ニシテ男女ノ區別明瞭ナラザルトキハ不詳ト記スベシ

三　自殺者變死者等ニシテ出生ノ年月日明瞭ナラザルトキハ推定年齢何歳ト記シ若シ推定シ能ハザル場合ニ於テハ不詳ト記スベシ

四　死亡者ノ家計　主働者ナル場合ニ於テハ死亡者ノ職業ノミヲ記シ、死亡者若シ幼者、老者、婦女等ニシテ一定ノ職業ナキ場合ニ於テハ家計ノ主ナル職業ヲ記シ死亡者ノ職業無シト記スベシ又死亡者一定ノ職業アルモ他ニ家計ノ主働者アル場合ニ於テハ死亡者ノ職業ト家計ノ主ナル職業トヲ併記スベシ

五　總テ職業名ハ商又ハ工等單一ノ汎稱ニ據ラズシテ何商又ハ何工等成ルベク細密ニ記スベシ

六　自殺者變死者等ニ在テ其職業明カナラザル場合ニ於テハ不詳ト記スベシ

七　病死ナルヤ自殺ナルヤ若クハ自殺以外ノ變死ナルヤ中毒ナルヤノ別ヲ記スベシ

八　病死ノ場合ニ於テハ其死因トナリタル病名ノ外何等ノ事項ヲモ記スベカラズ

同時ニ二種以上ノ疾病ニ侵サレ死亡シタル者ニシテ一ノ原病アリテ他ハ繼發病若クハ貽後病ナルトキハ其原病名ノミヲ記シ又各種獨立ノ疾病ナルトキハ主トシテ死亡ノ原因トナリタル病名ノミヲ記スベシ若シ以上ノ區別ヲ爲シ能ハザルトキハ各種ノ病名ヲ併記スベシ

九　全ク死因タル病名ヲ診定シ能ハザルトキハ不詳ト記スベシ

自殺者ニ在テハ其自殺ノ手段例之バ縊死及傷入水等ノ別ヲ明記スベシ

自殺以外ノ變死者　中毒者ニ在テハ其種類例之ハ溺死、壓死、燒死、他殺、河豚中毒アルコール中毒等ノ別ヲ記スベシ

病死者ニ在テハ死因トナリタル疾病ノ發病年月日ヲ記スベシ若シ明瞭ナラザルトキハ推定何年何月何日ト記スベシ又全ク推シ能ハザル場合ニ於テハ不詳ト記スベシ

病死、自殺、變死、中毒ニ拘ハラズ變死ノ年月日時ヲ記スベシ若シ自殺者、變死者等ニ在テハ死亡ノ時明瞭ナラザルトキハ推定セル年月日時ヲ記スベシ此場合ニハ推定ノ二字ヲ冠セシムルヲ要ス

死亡ノ場所ハ郡市區町村大字名及番地（番戸、番屋敷）ヲ記スベシ若シ自殺者、變死者等ニシテ漂着セル死體ナルトキハ其漂着シタル場所ヲ明記スベシ此場合ニハ其下ニ漂着ト記スルヲ要ス

第二　死產證書死胎檢案書

樣式

死産證書(死胎檢案書)

一　父ノ氏名(私生子ノ場合ニ在テハ母ノ氏名)

二　父ノ出生ノ年月日(私生子ノ場合ニ在テハ之ヲ除ク)

三　母ノ出生ノ年月日

四　父ノ職業(私生子ノ場合ニ在テハ母ノ職業)

五　姙娠ノ月數

六　分娩ノ年月日

七　分娩ノ場所

八　死胎ノ男女ノ別

九　死胎ノ嫡出子、庶子、私生子ノ別

右證明(檢案)候也

年　月　日　　住所

醫師(産婆)　何　某印

記載方

一　死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ氏名ヲ記スベシ若シ私生子ナルトハ其母ノ氏名ヲ記スベシ

二　死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ出生ノ年月日ヲ記スベシ

三　死胎ノ何タルニ拘ハラズ其母ノ出生ノ年月日ヲ記スベシ

四　死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ職業ヲ記スベシ若シ私生子ナルトキハ其母ノ職業ヲ記スベシ

總テ職業名ハ商又ハ工等單一ノ汎稱ニ據ラズシテ何商又ハ何工等成ルベク細密ニ記スベシ

五　姙娠ノ月數ハ受孕ヨリ分娩ニ至ル姙娠ノ經過ニシテ死胎ハ約四週日ヲ一月ト見做シタル第幾月目ニ該當スルカヲ記スベシ

六　分娩ノ年月日ヲ記スベシ若シ明瞭ナラザルトキハ推定シタル年月日時ヲ記スベシ此場合ニハ推定ノ二字ヲ冠セシムルヲ要ス

七　分娩ノ場所ハ郡市區町村大字名及番地(番戸、番屋敷)ヲ記スベシ

八　死胎ハ男女孰レニ屬スルカヲ記スベシ若シ鬼胎等ニ在テ男女ノ區別ヲ爲シ能ハザル場合ニ於テハ其事由ヲ添テ不詳ト記スベシ

九　死胎ハ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルカ若クハ私生子ナルカノ別ヲ記スベシ

○第五十四章　精神病者監護法

（明治三十三年三月九日法律第三十八號）

第一條　精神病者ハ其ノ後見人配偶者四親等内ノ親族又ハ戸主ニ於テ之ヲ監護スルノ義務ヲ負フ但シ民法第九百八條ニ依リ後見人タルコトヲ得ザル者ハ此ノ限ニ在ラズ

監護義務者數人アル場合ニ於テ其ノ義務ヲ履行スベキモノヽ順位ハ左ノ如シ但シ監護義務者相互ノ同意ヲ以テ順位ヲ變更スルヲ得

第一　後見人

第二　配偶者

第三　親權ヲ行フ父又ハ母

第四　戸主

第五　前各號ニ掲ゲタル者ニ非ラザル四親等内ノ親族中ヨリ親族會ノ選任シタル者

第二條　監護義務者ニ非ラザレバ精神病者ヲ監置スルコトヲ得ズ

第三條　精神病者ヲ監置セントスルトキハ行政廳ノ許可ヲ受クベシ

但シ急迫ノ事情アルトキハ假リニ之ヲ監置スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ二十四時間内ニ行政廳ニ届出ベシ

前項假監置ノ期間ハ七日ヲ超ユルコトヲ得ズ

行政廳ノ許可ヲ受ケテ監置シタル精神病者ノ監置ヲ廢止シタル後三箇年内ニ更ニ之ヲ監置セムトスルトキ又ハ民法第九百二十二條ニ依リ禁治産者ヲ監置セムトスルトキハ行政廳ニ届出ベシ

第四條　精神病者ノ監置ノ方法又ハ場所ヲ變更シタルトキハ二十四時間内ニ行政廳ニ届出ベシ

第五條　監置シタル精神病者治療シ死亡シ若ハ行方不明トナリタルトキ又ハ其ノ監置ヲ廢止シタルトキハ七日内ニ行政廳ニ届出ベシ

第六條　精神病者ヲ監置スル必要ノアルモ監護義務者ナキ場合又ハ監護義務者其ノ義務ヲ履行スルコト能ハザル事由アルトキハ精神病者ノ住所地、住所地ナキトキ又ハ不明ナルトキハ其ノ所在地市區町村長又ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ監護スヘシ

第七條　行政廳ハ精神病者ノ監護ニ關シ必要ト認ムルトキハ監置ノ許可ヲ取消シ監置ノ廢止ヲ命ジ又ハ監置ノ方法若ハ場所ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

監置ノ許可ヲ消取サレ又ハ其ノ廢止ヲ命ゼラレタル者監置ヲ廢止セザルトキハ行政廳ハ直接ニ監置ヲ廢止スルコトヲ得

第八條　精神病者監置ノ必要アルトキ又ハ監置不適當ト認ムルトキハ行政廳ハ第一條第二項ノ順位ニ拘ラズ監護義務者ヲ指定シ之ガ監置ヲ命ズルコトヲ得但シ

急迫ノ事情アルトキハ行政廳ハ假リニ其ノ精神病者ヲ監置スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三條第二項ノ規定ヲ準用ス

市區町村長ニ於テ監護スル精神病者ノ監護義務者ヲ發見シ又ハ監護義務者其ノ義務ヲ履行シ得ルニ至リタルトキ亦前項ニ同ジ

本條ニ依リ精神病者ノ監置ヲ命ゼラレタル監護義務者其ノ命ヲ履行セザルトキハ第六條ノ例ニ依リ市區町村長ニ於テ之ヲ監護スベシ

本條ニ依リ監護義務者ノ監置シタル精神病者ニ關シテハ行政廳ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ監置ヲ廢止シ又ハ監置ノ方法若ハ場所ヲ變更スルコトヲ得ズ

第九條　私宅監置室公私立精神病院及公私立病院ノ精神病室ハ行政廳ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

私宅監置、公私立精神病院及公私立病院ノ精神病室ノ構造設備及管理方法ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條　監護ニ要シタル費用ハ被監護者ノ負擔トシ被監護者ヨリ辨償ヲ得ザルトキハ其扶養義務者ノ負擔トス

市區町村長ニ於テ監護スル場合ニ於テ之カ爲メ要スル費用ノ支辨方法及其ノ追徵方法ハ行旅死亡人取扱ノ規定ヲ準用ス

第十一條　行政廳ハ必要ト認ムルトキハ其ノ指定シタル醫師ヲシテ精神病者ノ檢診ヲ爲サシメ又ハ官吏若ハ醫師ヲシテ精神病者ニ關シ必要ナル尋問ヲ爲サシメ又ハ精神病者アル家宅病院其ノ他ノ場所ニ臨檢セシムルコトヲ得

第十二條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ執行ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十三條　本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ執行ニ關スル行政廳ノ處分ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第十四條　官吏公吏又ハ行政廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ醫師本法ノ執行ニ關シ不正ノ所爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ重禁錮ニ處シ百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十五條　官吏公吏又ハ行政廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ醫師本法ノ執行ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ刑法第二百八十六條ノ例ニ照ラシテ處斷ス

第十六條　左ニ掲クル者ハ一年以上ノ重禁錮ニ處シ百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

一　詐僞ノ行爲ヲ以テ行政廳ノ許可ヲ受ケ若ハ虛僞ノ屆出ヲ爲シ精神病者ヲ監置シ又ハ拘束ノ程度ヲ加重シタル者

二　醫師精神病者ノ診斷書ニ虛僞ノ事實ヲ記載シ又ハ自ラ診斷セスシテ診斷書ヲ授與シタル者

前項第一號ノ場合ニ於テハ監置又ハ拘束ノ日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ

第十七條　左ニ掲クル者ハ二月以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加シ又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ監置又ハ拘束ノ日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ

一　許可ヲ受ケス又ハ屆出ヲ成サス若ハ命ヲ受ケスシテ精神病者トシテ入ヲ監

置シタル者

二　禁治產ノ宣告又ハ監置ノ許可ヲ取消サレ又ハ監置ノ廢止ヲ命セラレ若ハ假監置ノ期間ヲ經過シタル後監置ヲ廢止セサル者

三　許可ヲ受ケ又ハ屆出ヲ爲シ若ハ命ヲ受ケタル程度ヲ超エテ精神病者ヲ拘束シタル者

第十八條　左ニ掲クル者ハ一月以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以下ノ罰金ヲ附加シ又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一　精神病者ノ監置ニ關シ虛僞ノ事實ヲ記載シタル願屆其ノ他ノ書類ヲ行政廳ニ提出シタル者

二　監護義務ヲ履行スヘキ順位ニ在ラサル者ニシテ許可ヲ受ケス又ハ命ニ依ルニ非スシテ監置ヲ廢止シ又ハ監置ノ方法若ハ場所ヲ變更シタル者

三　官吏又ハ行政廳ノ指定シタル醫師ノ臨檢若クハ檢診ヲ拒ミ又ハ其尋問ニ對シ答辭ヲ爲サス若ハ虛僞ノ答辭ヲ爲シタル者

第十九條　左ニ掲クル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　監置ノ方法若ハ場所ノ變更ヲ命セラレ其命ヲ履行セサル者

二　監護義務者精神病者ノ監置ヲ命セラレ其ノ命ヲ履行セサル者

三　第八條第四項及第九條第一項ニ違背シタル者

第二十條　第四條及第五條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

第二十一條　本法ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前ヨリ精神病者ヲ監置シタル者ニシテ仍ホ之ヲ繼續セシムトスルトキハ本法施行ノ日ヨリ二箇月內ニ第三條ノ許可ヲ受ケ又ハ屆出ヲ爲スヘシ

第三條ノ許可ヲ受ケス又ハ屆出ヲ爲サスシテ前項ノ期間ヲ經過シタル後監置ヲ廢止セサル者ハ第十七條ノ例ニ照ラシテ處斷ス

本法中市町村長ニ屬スル職務ハ市制區制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ市區町村長ニ準スヘキ者之ヲ行フ

第二十二條　外國人タル精神病者ノ監護ニ關シ別段ノ規定ヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十三條　人事訴訟手續法第五十條又ハ第六十條ニ依リ裁判所ニ於テ精神病者ノ監護ニ付必要ナル處分ヲ命シタル場合ニ關シテハ本法ノ規定ヲ適用セス

○第五十五章　精神病者監護法施行規則

（明治三十三年六月二十八日內務省令第三十五號）

第一條　精神病者監護法第一條第二項但書ニ依リ監護義務者ノ順位ヲ變更シタルトキハ關係者ハ七日內ニ連署ヲ以テ警察官署ヲ經テ地方長官ニ屆出ヘシ

第二條　精神病者監護法第一條第二項第五號ニヨリ監護義務者ヲ選任シタルトキ

ハ親族會ハ七日内ニ警察署ヲ經テ地方長官ニ届出ヘシ

第三條　精神病者監護法第三條ニヨリ精神病者ヲ私宅病院其ノ他ノ場所ニ監置セントスルトキハ監護義務者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ警察官署ヲ經テ地方長官ニ願出又ハ届出ヘシ

第三條第一項但書ニ依リ精神病者ヲ監置シタルトキハ監護義務者ハ警察官署ニ届出ヘシ此ノ場合ニ於テハ醫師ノ診斷書ヲ添フルコトヲ要セス

第四條　精神病者ヲ監置セントスル場合ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受クルノ暇ナシト認ムルトキハ監護義務者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ警察官ニ届出ヘシ

前項ノ場合ニ於テハ監護義務者ハ三十日内ニ前條ニ依リ更ニ地方長官ニ願出ヘシ

第五條　前二條ノ願出又ハ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ監置ノ方法及場所ヲ記シ若シ私宅監置室ヲ設クルトキハ其ノ構造設備ヲ記シタル書類ヲ添付スヘシ

第六條　本則第四條第一項ニ依リ監置シタル精神病者ニ關シ三十日内ニ地方長官ニ監置ノ願出ヲ爲サヽルトキ又ハ地方長官ニ於テ願出ニ對シ不許可ノ處分ヲ爲シタルトキハ警察官署ノ與ヘタル許可ハ取消サレタルモノトス

第七條　精神病者監護法第四條又ハ第五條ノ届出ハ監護義務者ニ於テ醫師ノ診斷書又ハ檢案書ヲ添ヘ警察官署ヲ經テ地方長官ニ之ヲ爲スヘシ但シ行方不明ノ場合ニ於テハ醫師ノ診斷書又ハ檢案ヲ添フルコトヲ要セス

本則第四條第一項ニ依リ監置シタル精神病者ニ關シテハ前項ノ届出ハ警察官署ニ之ヲ爲スヘシ

第八條　私宅監置室ハ精神病者ノ資産又ハ扶養義務者扶養ノ程度ニ應シ相當ノ構造設備ヲ爲シ之ヲ管理スルコトヲ要ス

第九條　府縣立ヲ除ク外公私立精神病院及公私立病院ノ精神病室ヲ設置セントスルトキハ其構造設備及管理ニ關スル事項ヲ具シ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更セントスルトキ亦同シ

第十條　精神病者監護法第七條及第八條行政廳ノ職權ハ地方長官之ヲ行フ但シ急迫ノ事情アルトキハ警察官署ニ於テ之ヲ行ヒ直ニ地方長官ノ指揮ヲ請フヘシ

第十一條　精神病者監護法第九條第一項行政廳ノ職權ハ地方長官之ヲ行フ但シ私宅監置室ニ關シテハ警察官署之ヲ行フ

第十二條　精神病者監護法第十一條行政廳ノ職權ハ内務大臣地方長官又ハ警察官署之ヲ行フ

第十三條　本則第九條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條　本則第一條及第二條ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十五條　東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

○第五十六章　精神病者監護法第六條及第八條

第三項ニ依レル監護ニ關スル件

（明治三十三年六月二十九日勅令第二百八十二號）

第一條　精神病者監護法第六條ニ依リ市區町村長ニ於テ精神病者ヲ監置スヘキ場合ニ於テハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

前項地方長官ノ認可ヲ受クル暇ナキトキハ市區町村長ハ警察官署ノ同意ヲ經テ三十日内精神病者ヲ監置スルコトヲ得但シ急迫ノ事情ルトキアハ警察官署ノ同意ヲ經サルモ七日内假ニ之ヲ監置スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ警察官署ニ通知スヘシ

第二條　精神病者監護法第六條及第八條第三項ニ該當スル精神病者アルトキハ地方長官ハ警察官署ヲシテ之ヲ市區町村長ニ引渡サシムヘシ但シ急迫ノ事情アルトキハ警察官署ハ假ニ之ヲ市區町村長ニ引渡シ直ニ地方長官ノ指揮ヲ請フヘシ

第三條　市區町村長ニ於テ監置シタル精神病者治癒シ死亡シ又ハ行方不明ト爲リタルトキハ第一條第一項及第二條ニ依リテ監置シタ者ニ付テハ地方長官ニ報告シ第一條第二項ニ依リテ監置シタル者及第二條但書ニ依リテ假ニ監置シタル者ニ付テハ警察官署ニ通知スヘシ

市區町村長ニ於テ監置シタル精神病者ノ監置ヲ廢止シ又ハ監置ノ方法若ハ場所ヲ變更セントスルトキハ第一條第一項ニ依リテ監置シタル者ニ付テハ地方長官ニ報告シ第一條第二項ニ依リテ監置シタル者ニ付テハ警察官署ニ通知スヘシ但シ監置ノ方法又ハ場所ノ變更ヲ要シタル者ニ付テハ警察官署ノ同意ヲ經ヘシ

第四條　市區町村長ハ其ノ監護スル精神病者ノ監置ヲ適當ナル公私ノ施設又ハ私人ニ委託スルコトヲ得

第五條　東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

附則

本令ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

○第五十七章　種痘規則

（明治十八年十一月九日布告第三十四號）

第一條　種痘ハ小兒出生後滿一年以内ニ之ヲ行フベシ若シ不善感ナルトキハ更ニ一週年内ニ再三種ヲ行フベシ

第二條　種痘ハ善感後ト雖モ五年乃至七年ニ再種ヲ行ヒ再種後五年乃至七年ニ三種ヲ行フベシ

第三條　天然痘流行ノ兆アルトキハ第一條第二條ノ期限ニ拘ハラス掛官吏ノ指シタル期日内ニ種痘ヲ行フベシ

第四條　種痘ヲ受クベキ者病氣或ハ事故アリテ第一條、第二條、第三條ノ時期ニ種痘ヲ行フコト能ハキルトキ病氣ハ醫師ノ診斷書事故ハ親戚又ハ隣保ノ證印ヲ爲シタル證書ヲ副ヘ戸長役場ニ届出ベシ

第五條　種痘ヲ受ケシ者ハ醫師ノ指定シタル日ニ於テ檢診ヲ受ケ痘漿採取ヲ要スルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第六條　種痘濟ノ者ハ醫師ヨリ種痘證ヲ受領シ戸長役場ニ届出ベシ

但天然痘ニ罹リタル者ハ醫師ヨリ其證ヲ受領シ本條ニ準スベシ

第七條　十六歳未滿ノ者ノ尊長後見人若クハ雇主等ニシテ現ニ其幼者ヲ監督スル者ハ前各條ノ責ニ任スベシ

貧院育兒院等ヘ入院ノ者該主長ニ於テ前各條ノ責ニ任スベシ

第八條　醫師ハ種痘ノ善感不善感ヲ檢診シ種痘證ヲ與付スベシ

但天然痘ニ罹リタル者ヲ治療シタルトキハ本條ニ準ジ其證ヲ與付スベシ

第九條　第一條、第二條、第三條、第四條、第五條、第六條及第八條ヲ犯シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス

第十條　府知事縣令ハ種痘明細表ヲ製シ毎年一月七月ノ兩度内務卿ニ報告スベシ

第十一條　此規則ヲ施行スル方法細則ハ府知事縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出ヘシ

右奉　勅旨布告候事

○第五十八章　種痘施術心得書

（明治十八年三月二十四日内務省達甲第九號）

種痘ヲ施ス者ハ種痘ノ適否接種ノ方法痘苗採取及貯蓄ノ法善感不善感ノ鑑別種痘ノ注意等ヲ詳知セサル可カラス其要左ノ如シ

第一　種痘ノ適否

第一條　種痘ハ左ニ掲クル者ニハ施サヽルヲ可トス

一　生後七十日ヲ經ザル者

二　種痘ノ爲メニ一時增進スヘキ病患アル者

三　丹毒流行ノ土地ニ住居スル者

四　蔓延性ノ皮膚病アル者

五　熱性症ニ罹リ居ル者

第二條　種痘ニ適スル時期ハ春（三月四月五月）秋（九月十月十一月）二季ヲ以テ最良トス然レトモ四季共ニ之ヲ施シテ妨ナシ

第二　接種ノ方法

第三條　種痘ヲ施スハ上膊（三稜筋抵止ノ部位）ニ於テ各々三針乃至五針（受痘者ノ年齡體質等ニ隨フ）トシ各針ノ距離曲尺五分以上ニシテ痘疱ノ暈輪互ニ密接セザル樣注意スベシ

第四條　施術ニ先チ針尖ヲ拭淨シ一時ニ數人ニ採種スルトキハ一人毎ニ之ヲ拭淨スベシ

第五條　良性ナル痘漿ヲ採リテ移種スルヲ確實ノ良法トスレドモ此法ヲ行フコト能ハザルトキハ貯蓄ノ痘苗ニシテ成ルヘク鮮新ナル者ヲ選ビ用フベシ但痂皮ハ用ヒザルヲ可トス

第三　痘苗採收及貯蓄ノ法

第六條　痘苗ハ左ニ掲グル者ヨリ採收スベカラズ

一、痘疱ノ成形過度及過大ノ者　發暈非常ニ大ナル者疱緣又ハ暈部ニ水疱ヲ生ズル者　痘疱非常ニ隆起シテ澄明ノ漿液ヲ漏出スル者　一種ノ疑フベキ色例ヘバ紅藍色ヲ呈セルカ如キ者

但此等ノ異常痘疱ノ近傍ニ在ル正疱モ亦同ジ

二　痘漿ノ血液ヲ混セル者　疱ノ中央ニ在ル痘漿ノ腐敗ニ向ントスル者　痘疱ノ已ニ化膿ニ傾キシ者　爬搔又ハ摩擦ノ爲ニ痘漿破潰セシ者

三　梅毒腺病及ビ皮膚病ニ罹リ居ル者　營養不良ノ者

四　丹毒ヲ併發セル者　經過不整ニシテ不善感ノ疑アル者（第十三條ヲ參觀スベシ）

五　天然痘ヲ經タル者　再三種ノ者

第七條　痘漿ヲ採ルハ通常接種後第八日（二十四時間ヲ以テ一日ト算ス下皆同ジ）ヲ以テ佳トスト雖トモ時候ノ寒暖及各人ノ性質ニ隨ヒ第七日又ハ第九日ヲ以テ適度トスルコトアリ痘疱ハ善感良性ノ者ニシテ其含包セル所ノ漿液ハ渾濁セス粘稠露滴ノ如クナルヘシ

第八條　痘漿ヲ採ルニハ痘疱ノ中心ヲ避テ疱面ヨリ斜ニ淺刺シ深ク刺シテ出血セシムベカラズ

第九條　發痘一顆ナル者ノ痘疱ハ其漿液ヲ採ルベカラズ又數顆アルモ其一顆ハ傷クルベカラズ

第十條　痘苗ノ貯蓄シテ接種ノ用ニ供セントスルニハ硝子板間ニ貯ヘテ密封シ又ハ硝子製毛細管ニ吸入セシメテ其兩端ヲ因封シ日光及寒熱ノ劇度ヲ避ケ貯フベシ（痘苗ノ貯蓄法甚宜シキヲ得ルトキハ五箇月間充分ノ效力アリ）

第四　善感不善感ノ鑑別

第十一條　種痘ノ善感不善感ヲ鑑別スルニハ左ノ各項ヲ以テ要點ト爲ス

一　接種後第二日以内ニ成形ヲ始メシヤ否

二　痘疱常形ニシテ其大サ及硬サハ皮下皮上共ニ同一ナルヤ否

三　紅暈ハ常形ナルヤ否

四　經過整然トシテ其時期ヲ誤ラサルヤ否

五　第八日ニ至リテ微熱ヲ發スルヤ或ハ然ラザルモ其他ノ徵候ヲ呈スルヤ否

六　痂皮ハ黯褐色又ハ黑色ニシテ其厚サ及硬サハ常度ナリヤ否

第十二條　種痘善感ノ徵候ハ左ノ經過ニ就キテ知ルベシ

接種後第一日第二日ノ間ハ他ノ刺傷ニ異ナルコト無シ施術後針痕ノ周圍ニ淡紅色ノ小暈ヲ發スレドモ暫時ニシテ消失ス（或ハ此暈ヲ見ザルコトアリ）

第三日ニハ針痕ノ部ニ少ナル紅點ヲ生ジ試ニ指頭ヲ以テ之ニ觸ルレバ稍々隆起セルヲ覺ユ（經過緩慢ナル者ハ第四日第五日ニ至リ始テ此紅點ヲ生ズルコト有リ）

第四日ニハ紅色ニシテ硬ク且ツ隆起セル圓形若クハ橢圓形ノ小結節ヲ生ズ

第五日ニハ結節細小ノ水疱ト爲リ其周圍ニ狹キ紅暈ヲ見ル

第六日ニハ水疱稍々增大シ其邊緣隆起シテ疱ノ中央ニハ陷凹ヲ呈シ疱中ニハ稀薄透明ニシテ稍帶藍色ナル液ヲ充實シ周圍ノ紅暈稍ヤ增大ス

第七日ニハ諸症益々增進ス

第八日ニハ痘疱全ク成形ス其大サハ豆大ニシテ周圍ハ陷腫シ微シク疼痛アリ疱中ノ液ハ倍々充實シ紅暈亦著シク增大ス此期ニ當リ（或ハ此期以前）微熱ヲ發シ或ハ全ク熱候ナク顏面ハ蒼白色ヲ呈スルコトアリ又腋下ニ疼痛ヲ覺エ水脈腺腫起スルコトアリ

第九日ニハ紅暈更ニ增大シ其色澤モ亦加ル

第十日ニハ疱液化膿シテ白濁或ハ黃色シ濃稠液ト爲リ疱ノ中央稍々凹隆ス然レドモ其形必ズ扁圓ナリ

第十二日ニ至ルマデハ痘疱其形狀ヲ變ズルコトナク此日ヨリ收壓ヲ始メ疱ノ中央ヨリ邊緣ニ向ヒテ次第ニ乾固シ漸ク褐色ニ變ジ周圍ノ紅暈モ亦漸ク消退ス爾後黯褐色又ハ黑色ニシテ堅實ナル厚痂ヲ結ビ初ハ皮膚ニ緊著シテ容易ニ剝離セズ結痂後八日乃至十日ニ至リ始テ剝脫ス其剝脫ノ後ニ遺セル瘢痕ハ圓形又ハ橢圓形ニシテ淺キ凹窩ヲ爲シ窩內ニハ更ニ數多ノ小凹點ヲ呈ス

但一回種痘セシ者ニ再三種シテ感染スルコトアルモ其疱顆小ニシテ七八日間ニ全ク經過スルヲ常トス

第十三條　種痘不善感ノ諸徵ハ左ノ如シ

一　接種後第二日以內ニ成形ヲ始メ常形ニ達セズシテ直ニ廣ク蔓延セル炎症ヲ發シ皮下ニ硬キヲ覺ヘズシテ紅暈ハ不整形ナリ痘疱ハ速ニ化膿シ其隆起ノ狀或ハ半球形或ハ圓錐形ト爲リ乾固スレバ黃色ニシテ鬆疎ナル痂皮ヲ結ブ（時トシテ第二日後ニ成形ヲ始ムル者疼アレモ其經過總テ不正ナルヲ以テ自ラ善感ノ者ト區別ストルヲ得ベシ又不善感ノ者ト雖モ腋下ニ疼痛ヲ覺エ微熱ヲ發スルコト無キニ非ズ）

二　接種後第一日ニ大ナル赤色ノ色ヲ生ジ速ニ漿液ヲ充實シ上皮破レテ膿面ヲ呈シ或ハ濕潤セル淡色ノ痂皮ト爲ルヲ見ル

三　紅暈速ニ增大シテ腫起シ或ハ遂ニ潰瘍ニ陷ル

四　第八日ニ至リ數疱相合シテ一大潰瘍ト爲リ或ハ一面ノ痂皮ヲ結ビ其潰瘍又

ハ痂皮ノ周圍ニハ廣ク赤色ヲ呈ス

五　痂皮剝脫ノ後ニ遺セル瘢痕ハ深クシテ不整形ヲ呈シ其底面平滑ナリ

第五　種痘ノ注意

第十四條　初種ノ不善感ハ痘苗ノ不良ナルカ或ハ其人一時ノ不感性ヲ有セルニ由ル者ナルガ故更ニ三四週ノ後善良ナル痘苗ヲ撰ビテ再ビ接種スベシ

第十五條　種痘ヲ施スニ當リテハ併發病ヲ防ギ殊ニ天然痘流行ノ際ニハ接種後第八日ニ至ルマデハ嚴ニ其感染ヲ防禦スベシ然レドモ受痘者已ニ暗ニ天然痘ニ感染シ其潛伏期ニ於テ接種スルコト間々之アリ

第十六條　天然痘流行シ種痘ヲ猶豫ス可カラザル際ニハ第一條各項ニ掲グル者ト雖モ熱性病ヲ除クノ外ハ總テ接種スベシ

第十七條　種痘中ハ寒冷ヲ避ケシメ成ルベク清潔ノ空氣中ニ居ラシムベシ平常慣習セル食物等ハ總テ禁忌スルニ及バズ又別ニ醫藥ヲ要セズ

○第五十九章　藥品營業並ニ藥品取扱規則追加

◎內務省令第四號

明治二十二年三月法律第十號藥品營業並藥品取扱規則第三十五條ニ依リ明治二十五年三月當省令第二號毒藥劇藥品目中劇藥ノ部「コツホ氏ツベルクリン」トアルヲ「ツベルクリン」ト改メ「コツホ氏新ツベルクリン」ノ次ヘ左ノ通追加シ明治三十六年七月一日ヨリ施行ス

明治三十六年六月二十四日　內務大臣　男爵　內海忠勝

ヂフテリヤ血清　破傷風血清　ツウレチン　鹽酸ヘロイン

○第六十章　痘苗及血清其他細菌學的豫防治療品製造取締規則

內務省令第五號

痘苗及血清其他細菌學的豫防治療品製造取締規則左ノ通定ム

明治三十四年六月二十四日　內務大臣　男爵　內海忠勝

痘苗及血清其他細菌學的豫防治療品製造取締規則

第一條　痘苗及血清其他細菌學的豫防治療品ヲ販賣ノ目的ヲ以テ製造セムトスルモノハ左ノ事項ヲ具シテ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

一　製造所ノ名稱及位置

二　製造品ノ種類、製造ノ方法、有效期限、販賣價格

三　製造所ノ建物畜舍ノ構造、敷地ノ坪數及圖面

四　所長及主任技術者ノ氏名履歷

前項ノ認可ヲ受ケタル後前各號ノ事項ニ變更ヲ要スルトキハ更ニ認可ヲ受クベ

シ

第二條　地方長官ハ必要ト認ムルトキハ本則ノ認可ヲ取消スコトアルベシ

第三條　本則施行ノ際痘苗及血清其他細菌學的豫防治療品ヲ販賣ノ目的ヲ以テ製造スルモノハ本則施行ノ日ヨリ四ケ月内ニ本則ニ據リ認可ヲ受クベシ

第四條　本則ニ違背シタルモノハ二十五圓以下ノ罰金又ハ二十五日以下ノ重禁錮ニ處ス

第五條　本則ハ明治三十六年七月一日ヨリ施行ス

第六條　東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

◉第六十一章　學校醫職務規程

（明治三十三年三月二十六日文部省令第五號）

第一條　學校醫ハ本令ニ規定アルモノヽ外地方長官ノ命ヲ受ケ學校衛生ニ關スル職務ニ從事ス

第二條　學校醫ハ毎月少クトモ一回教授時間内ニ於テ當該學校ニ至リ衛生上ノ事項ヲ視察スベシ

學年ノ終及始メニ於テハ特ニ當該學校ニ到リ視察スルコトヲ要ス

第三條　學校醫ハ學校視察ノ際左ノ事項ヲ調査シ之ヲ視察簿ニ記入スベシ

一　換氣ノ良否

二　採光ノ適否

三　机腰掛ノ適否

四　前列及最後列ノ机ト黑板トノ距離

五　煖爐ノ有無及煖爐ト最近生徒トノ距離

六　室内ノ溫度

七　圖書掛圖黑板ノ衛生上ノ適否

八　學校清潔方法實行ノ情況

九　飲料水ノ良否

十　其ノ他衛生上ニ必要ナル事項

第四條　學校醫ハ學校視察ノ際疾病ニ罹レル生徒ヲ發見シタルトキハ其病症ニ依リ缺課休校又ハ療治ヲナサシムベキコトヲ學校長ニ申告スベシ

第五條　學校醫ハ明治三十三年文部省令第四號學生生徒身體檢査規定ニ依リ生徒ノ身體ヲ檢査シ身體檢査票ヲ調製スベシ

學校醫ハ生徒ノ入學退學等ニ際シ學校長ノ請求ニ應シ其生徒ノ身體ヲ檢査スベシ

第六條　學校醫ハ學校ノ近傍若クハ學校内ニ於テ傳染病ノ發生シタルトキハ數次學校ニ到リ必要ナル豫防消毒方法ヲ施行シ尚其狀況ニ依リ學校ノ全部若クハ一部分ノ閉鎖ヲ必要ト認ムルトキハ之ヲ管理者及學校長ニ申告スベシ

通學生徒ノ所在地ニ傳染病ノ發生シタル場合ニ於テ其通學生徒ノ昇校ヲ禁ズベキ必要ヲ認ムルトキハ之ヲ管理者及學校長ニ申告スベシ

第七條　學校醫ハ衛生上必要ト認メタル事項ニ就テハ管理者及學校長ニ申告スベシ

第八條　此規程施行ノ爲メ必要ナル細則ハ地方長官之ヲ定ムルコトヲ得

○第六十二章　學生生徒身體檢査規程

（明治三十三年文部省令第四號）

第一條　學生生徒ノ身體檢査ハ毎年四月ニ於テ之ヲ施行スベシ

第二條　明治三十一年勅令第二號第一條第二項ニ依リ學校醫ヲ置カザル場合ニ於テハ他ノ醫師ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第三條　身體檢査ハ學校醫ヲシテ之ヲ行ハシムベシ但シ學校醫ヲ置カザル場合ニ於テハ他ノ醫師ヲシテ之ヲ行ハシムコトヲ得

第四條　身體檢査ハ左ノ項目ニ就キ施行スベシ

一身長、　二體重、　三胸圍、　四脊柱、　五體格、　六視力

七眼疾、　八聽力、　九耳疾、　十齒牙、　十一疾病

小學校ニ在リテハ視力聽力ノ二項目ヲ檢査スルコトヲ要セズ、但シ著シキ障害アリト認ムルモノハ此限ニアラズ

第五條　身體檢査ハ左ノ各號ニ準據シテ施行スベシ

一　檢査器械ハ「メートル」式ニ從ヒ衡器ハ水準器ヲ具ヘタルモノヲ可トス

二　檢査ノ表記ニハ衡ハ「キログラム」度ハ「センチメートル」ヲ以テ一位トシ以下四捨五入法ヲ用ヒテ小數一位ヲ作ルベシ

三　身長ヲ測定スルニハ足袋靴等ヲ脫セシメ兩蹠ヲ密接シテ直立シ兩上肢ヲ鉛直シテ垂レ頭部ヲ正位ニ保タシムヘシ又女子ニシテ髷アル者ハ小桿ヲ髷下ヨリ水平ニ横ヘテ測定スヘシ

四　體重ハ着衣ノ儘測定シタルトキハ其着衣ノ重量ヲ全重量ヨリ却去スベシ

五　胸圍ハ兩上肢ヲ鉛直ニ垂レ自然ノ位置ニ在ラシメ乳頭ノ水平線ニ於テ當時ヲ測定スベシ充盈空ノ虚差ヲ測定スルトキ亦同シ、但小學校生徒ニアリテハ常時ノミヲ測定スルモノトス

六　脊柱ハ正、左彎、右彎、後屈及屈彎ノ程度ヲ檢査シ强中弱ノ三種ニ區別スベシ

七　體格ハ强健、中等、瀕弱ノ三等ニ區別スベシ

八　視力ハ中心視力ヲ兩眼ニ就キ各別ニ檢査ヘシ

九　聽力ハ其障害ノ有無ヲ檢査スヘシ

十　齒牙ハ齲齒ノ有無ヲ檢査スヘシ

十一　疾病ハ腺病、營養不良、貧血、脚氣、肺結核、頭痛衄血、神經衰弱其他慢性疾患等ノ檢査ノ際發見シタルモノヲ記入スベシ

前各號ノ外身體檢査上必要ト認メタル事項ハ特ニ檢査ヲ行フヘシ

第六條　身體檢査ヲ施行シタルトキハ左ノ樣式ニ依リ身體檢査票ヲ調製スヘシ

身體檢査票（男女）

校名（何科）		檢査番號						
姓名	出生年月	身長	體重	胸圍 常時	胸圍 盈虚差	脊柱	體格	檢査年月

出生地	學年	視力 左	視力 右	眼疾	聽力	耳疾	齒牙	疾病	備考	檢査醫姓名印

第六條　身體檢査ヲ施行シタルトキハ學校長ハ左ノ樣式ニ依リ統計表ヲ調製シ翌月限リ文部省直轄學校長ニ在リテハ文部大臣ニ其他ノ學校長ニ在リテハ地方長官ニ報告スヘシ

地方長官ハ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ取纏メ其年六月限リ文部大臣ニ報告スヘシ

校名學生生徒身體檢査統計表（男女）　明治　年　月　日檢査

年齡			何年 最大	何年 最小	何年 平均	何年 最大	何年 最小	何年 平均
身長								
體重								
胸圍	常時							
胸圍	盈虚之差							
脊柱	正							
脊柱	左彎	強						
		中						
		弱						
脊柱	右彎	強						
		中						
		弱						
脊柱	後屈	強						
		中						
		弱						
體格	強健							
體格	中等							
體格	薄弱							
視力	兩眼正視							
視力	左眼	正視						
		遠視						
		近視						
視力	右眼	正視						
		遠視						
		近視						
眼疾								
聽力ニ障碍アル者								
耳疾								
齒牙	齲齒アル者							
齒牙	齲齒ナキ者							
疾病								
總人員								
備考								

一　本表ノ年齢ニ於テ何年ト稱スルハ一箇月ヨリ十二箇月ニ至ル迄ヲ云フ例ヘハ七年ト稱スルハ六年一箇月以上滿七年迄ヲ指スカ如シ

一　本表ノ平均ハ最大最小ノ平均ニアラス總數ノ平均ナリ本表ハ男生徒女生徒ヲ置クモノ及學科ノ部類ヲ異ニスルモノハ各別ニ調製スベシ

一　檢査スベキ科目ノ全部ヲ檢査セサルモノハ表中之ヲ記入スベカラズ

第八條　幼稚園ニ於テハ本令中小學校生徒ノ身體檢査ニ關スル規定ヲ準用ス

附　則

第十條　本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

○第六十三章　學校清潔法方（明治三十年十一月文部省訓令第一號）

清潔方法ヲ分チテ日常清潔方法、定期清潔方法及浸水後清潔方法トス

甲　日常清潔方法

一　教室及寄宿舍ハ毎日人ナキ時ニ於テ先ツ窓戸ヲ開キ如露ヲ以テ少シク牀板及階段ヲ潤シ掃出シタル後濕布ヲ以テ建具學具等ヲ拭フベシ、但掃除ノ爲メニ室内ヲ潤スハ生徒ノ再ヒ之ニ入ル迄テニ充分ニ乾燥シ了ルヲ度トスベシ

二　教室及寄宿舍ハ其人員ニ應シ紙屑籠ト少量ノ水ヲ盛レル唾壺トヲ備ヘ紙片其他塵埃物ハ必ス紙屑籠ニ投入シ痰唾ハ必ス唾壺ニ於テシ決シテ室内廊下等ニ放下セシムヘカラス紙屑籠及唾壺ハ毎日之ヲ掃除スヘシ

三　寄宿舍内ニ於テハ戸外ニ於テ用ヰル履物ヲ禁スベシ但止ムヲ得サル事情アリテ特ニ之ヲ許ストキハ適宜ノ方法ヲ設ケテ室内ノ不潔ニ陷ラザルコトヲ務ムベシ

四　靴ノ儘昇降スル校舍ノ出入口ニハ人員ニ應シ靴拭ヲ備フベシ

五　寢具ハ毎月小クトモ一回之ヲ日光ニ曝シ被覆寢衣等ハ務メテ洗濯スヘシ

六　便所ノ尿溝及注壁等ハ毎日一回水ヲ以テ洗ヒ圊房ハ濕布ヲ以テ拭フヘシ樋箱ニハ成ルヘク蓋ヲ設クベシ

七　尿壺内ニハ防臭藥トシテ粗製過滿俺酸加里、粗製格魯兒滿俺（以上百倍乃至三百倍）硫酸鐵、泥炭末、木炭末、乾燥土粉灰等ヲ撒布シ期ヲ愆ラス汲取ラシムヘシ

八　食堂、炊事場、浴室、洗面所、洗濯所等ハ時々窓戸ヲ開キテ空氣ヲ通シ惡臭煙氣又ハ湯氣ノ鬱滯ナキヲ務メ且掃除ヲ怠ルベカラズ殊ニ食堂ニ於テハ毎食前如露ヲ以テ牀面ヲ潤ホシ食後ニハ濕布ヲ以テ其食卓等ヲ拭フベシ

九　芥棄場ノ不潔物ハ愆ラズ搬送セシムヘシ

十　下水ハ常ニ疏通セシメ炊事場、浴室、洗面所等ノ下水ハ毎月少クトモ一回大掃除ヲ行フベシ

十一　庭園、體操場、遊戯場、簷下、椽下等モ亦常ニ清潔ヲ保タシムベシ

定期清潔方法ハ毎年少クトモ一回夏休又ハ其他ノ長休ニ際シ之ヲ行フモノトス

十二　先ツ教室、寄宿舍内等ニ在ル机、腰掛、寢臺、戸棚等ヲ室外ニ出シ戸、障子、窓掛等ヲ外シ敷物ヲ剝キタル後如露ヲ以テ牀板及廊下ヲ潤ホシ天井、四壁牀板、廊下等悉ク之ヲ掃ヒ然ル後清水ヲ以テ洗拭スヘシ但汚染殊ニ甚シキ部分及器具等ハ熱滷汁若クハ石鹼水ヲ以テ洗拭スヘシ

十三　簷下、牀下等モ手ノ届ク限リ之ヲ掃ヒ外部ノ羽目及簷廻リハ龍吐水等ヲ以テ洗滌スヘシ

十四　寢具、窓掛、敷物等ニシテ洗濯シ得ヘキモノハ之ヲ洗濯シ得ベカラサルモノハ先ツ其塵ヲ拂ヒ書籍文具ト共ニ敷日之ヲ日光ニ曝シ刷掃スヘシ

十五　器具、寢具等ハ總テ室ノ乾キタル後ニアラサレハ室内ニ持込ムヘカラス室ハ掃除後五日間以上窓戸ヲ開キテ空氣及日光ヲ通セシムベシ

十六　牀板、壁面等ニ斷隙アルモノハ此際之ヲ塡塞シ風拔穴煙突等ノ塵煤ハ之ヲ除去スヘシ

十七　浴室、洗面所、食堂、炊事場、生徒控所、雨中體操場、便所、下水、芥棄場等ニシテ破損アルモノハ此際盡ク修理ヲ加ヘ且大掃除ヲ行フヘシ

丙　澄水後清潔方法

洪水ノ爲メ水害ヲ被リタリ學校ハ開校前左ノ清潔方法ヲ施行スヘシ

十八　水ニ浸サレタル校舍殊ニ寄宿舍ノ建築牀板等ハ取外シテ空氣ヲ通シ且牀下ノ汚物泥土ヲ除去シ場合ニヨリテハ焚火火鉢等ヲ用ヰテ乾燥セシムヘシ

十九　建具、牀板、校具、腰張等ノ浸水シタルモノハ清水又ハ熱湯ヲ以テ洗拭シタル後可成之ヲ日光ニ曝シ充分ニ乾燥セシムヘシ

二十　浸水ノ害ヲ被リタル井戸ハ必ス數回之ヲ淩渫シテ汚物ヲ除キ井戸側ハ清水ヲ以テ洗ヒ能ク水ノ澄ミタル後ニ之ヲ使用スベシ、但開校後一箇月間ハ必ス其水ヲ煮沸シテ飲用スベシ

二十一　右ノ外定期清潔方法ニ掲ケタル各項ヲ適宜應用スベシ

○六十四章　學校傳染病豫防及消毒方法

（明治三十一年九月二十八日文部省訓令第二十號）

第一條　學校ニ於テ特ニ豫防スヘキ傳染病ノ種類左ノ如シ

第一類

甲　痘瘡及假痘、實布垤利亞、猩紅熱、發疹窒扶斯、ペスト

乙　百日咳、麻疹、流行性感冒、風疹、流行性耳下腺炎、水痘、肺結核、癩病、

第二類

赤痢、虎列刺、腸窒扶斯、

第三類

傳染性皮膚病、傳染性眼炎

第二條　第一條第一類甲又ハ等二類ノ傳染病ニ罹リタル職員生徒等ハ昇校スルコトヲ得ス

前項ノ職員生徒等其傳染病治癒シタル後昇校セントスルトキハ先ツ全身浴ヲ行ヒテ衣服ヲ更メ且ツ醫師ニ於テ傳染ノ虞ナキヲ證明スルコトヲ要ス

第三條　第一條第一類乙又ハ第三類ノ傳染病ニ罹リタル職員生徒等ハ其病況ニ依リ醫師ニ於テ適當ノ處置ヲ施シ傳染ノ虞ナキコトヲ證明シタルモノニアラザレハ昇校スルコトヲ得ス

第四條　職員生徒等ニシテ家族又ハ同居人中ニ第一條第一類甲又ハ第二類ノ傳染病ニ罹リタルモノアルトキ又ハ學校内ニ傳染病發生シタル場合ニ於テ其患者死體又ハ病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル物件ニ觸接シタルトキハ醫師ニ於テ適當ノ處置ヲ施シ傳染ノ虞ナキコトヲ證明シタル後ニアラサレバ昇校スルコトヲ得ズ

第五條　教員舍監等學校内ニ於テ第一條ノ傳染病若クハ其疑アル者ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ當該學校長ニ申告スベシ學校長ハ醫師ヲシテ診斷セシメ相當ノ處置ヲナスベシ

第六條　學校内、學校所在地及其近傍若クハ生徒通學區域内ニ於テ第一條ノ傳染病發生シタルトキハ其病況ニヨリ必要ト認ムルトキハ全校若クハ其一部ヲ閉鎖スベシ

第七條　學校所在地若クハ其近傍ニ於テ第一條第一類甲又ハ第二類ノ傳染病發生シタルトキハ明治三十年文部省訓令第一號ニ從ヒ充分ノ清潔方法ヲ施行スベシ

但シ第一條第二類ノ傳染病發生シタルトキハ校舍内ニ於テ使用スル飲料水ハ煮沸シタルモノヲ用フヘシ

第八條　生徒通學區域内ニ於テ第一條第一類甲又ハ第二類ノ傳染病發生シ其病況ニ依リ必要ト認ムルトキハ其局部ヨリ通學スル生徒ノ昇校ヲ停止スルコトヲ得

此場合ニ於テハ當該學校長ヨリ二十四時間以内ニ其旨管理者ニ届ケ出ベシ

第九條　傳染病ノ爲メニ閉鎖シタル學校若クハ其舍室ハ再ヒ使用スルニ先チ明治三十年文部省訓令第一號定期清潔方法ノ各項ヲ施行スベシ

其二　消毒方法

第十條　學校ニ於テ第一條第一類又ハ第二類ノ傳染病發生シタルトキハ其死體排泄物又ハ病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑ヒアル物件ニ對シ左ノ區別ニ依リ消毒法ヲ施行スヘシ、但第一條第三類ノ傳染病發生シ其病況ニ依リ必要ト認ムルトキハ適宜本條ノ消毒方法ヲ應用スベシ

一　第一條第一類及第二類ノ傳染病患者ノ死體、第一類ノ傳染病患者ノ用ヒタル唾壺、第二類ノ傳染病患者ノ上リタル圖房其他障壁、牀、壁、建具、寢蓆、器具

等ハ石炭酸水ヲ以テ消毒スベシ

二　第一條第二類ノ傳染病患者ノ吐瀉物其他ノ排泄物ハ生石灰ヲ以テ消毒シ強亞爾加里性反應ヲ呈スルニ至ルベシ

三　食器被服寢具等ハ煮沸又ハ蒸氣消毒ニ附スベシ

四　消毒困難ニシテ廉價ナルモノハ之ヲ燒却スベシ

五　前各項ノ消毒ニ適セザルモノハ「フォルムアルデヒード」ニ依リ消毒スルカ又ハ刷掃シ數日間日光ニ曝スベシ

第十一條　消毒ニ供フル藥劑並其應用ハ左ノ如シ

一　石灰酸水（二十倍）（結晶石炭酸五分鹽酸一分水九十四分ヲ攪拌シ溶解シタルモノ）

本品ハ死體、吐瀉物其他ノ排泄物、器具、居室、手足等ノ消毒ニ用フ又衣類等ヲ消毒スルニハ鹽酸ヲ加ヘザルモノヲ用フヘシ

二　生石灰末（生石灰ニ少量ノ水ヲ灌キ崩壞セシメタルモノ但用ニ臨ミテ之ヲ製スヘシ）

本品ヲ以テ吐瀉物其他ノ排泄物ヲ消毒スルニハ其分量ノ五十分ノ一ヲ用ユヘシ又溝渠、芥溜、泔下等ヲ消毒スルニ用フ

石灰乳（十倍）（生石灰一分ニ水九分ヲ攪拌混合シタルモノ）

本品ノ應用ハ生石灰末ニ同シク吐瀉物等ニハ其分量ノ四分ノ一ヲ用フ

三　格魯兒石灰水（二十倍）（格魯兒石灰五分ニ水九十五分ヲ攪拌混和セルモノ）

格魯兒石灰水ノ應用並用量ハ石灰乳ニ同シ但用ニ臨ミテ製スベシ

四　「フォルムアルデヒード」

「フォルムアルデヒード」ニ依リ消毒スルニハ消毒函又ハ室內ノ容積百立方尺ニ付日本藥局方「フォルマリン」四十瓦以上ヲ噴霧スルカ又ハ適當ノ裝置ニ依リ「フォルムアルデヒード」瓦斯十五瓦以上ヲ發生セシメ同時ニ約百瓦以上ノ水ヲ蒸發セシムルノ比例ヲ以テ處置シタル後七時間以上密閉シ置クヘシ但消毒函又ハ室ハ使用前約十二時間寒冷ニ保持スルヿヲ要ス若シ室ニ虧隙アルトキハ昇汞液中ニ浸漬セル綿ヲ以テ之ヲ栓塞スヘシ

附則

第十二條　此省令ハ幼稚園ニ適用ス

○第六十五章　肺結核豫防ニ關スル件

（明治三十七年二月四日內務省令第一號）

第一條　學校、病院、製造所、船舶發着待合所、劇場、寄席、旅店其ノ他地方長官ノ指示スル場所ニハ適當數箇ノ唾壺ヲ配置スヘシ

警察官署ハ前項配置ノ唾壺不適當ナルカ若クハ其ノ箇數充分ナラスト認ムルト

トキハ期間ヲ定メテ唾壺ノ變更ヲ命ジ若クハ箇數ヲ指定シテ之ヲ增置セシムルコトヲ得

前項ノ唾壺ニハ唾痰ノ乾燥飛散ヲ防ク爲少量ノ消毒藥液又ハ水ヲ入レ置キ唾壺內ノ唾痰ハ第六條ノ方法ニ依リ消毒スルニアラサンバ投棄スベカラス

第二條　前條ノ場所ニ於テハ何人ト雖モ唾壺以外ニ唾痰ヲ略出スルコトヲ得ズ

第三條　地方長官ノ指定シタル鑛泉場、海水浴場、轉地療養所ニ於ケル旅店ハ左ニ掲クル事項ヲ遵守スベシ

一　營業用ニ供スル寢具ハ白布ヲ以テ被包スルコト

二　前號ノ白布及貸浴衣ハ使用者ヲ更ムル每ニ洗濯スルコト

三　肺結核患者若クハ其疑アル患者ナルコトヲ知リタルトキハ其ノ患者ノ居室ハ消毒スルニアラザレハ他人ヲ宿泊セシメザルコト

四　前號ニ掲クル患者ノ使用シタル物品ハ消毒スルニアラザレハ他人ニ使用セシメサルコト

第四條　病院ハ左ニ掲クル事項ヲ遵守スベシ

一　肺結核患者ト他ノ患者トヲ同室ニ收容セサルコト

二　肺結核患者ヲ入レタル病室ニハ消毒スルニアラサレハ他ノ患者ヲ收容セザルコト

三　結核病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル物品ハ使用者ヲ更ムル每ニ消毒スルコト

第五條　監獄、官公立ノ學校、病院、養育院、育兒院、製造所、官設及私設ノ鐵道停車場、同客車ニ於テハ其ノ首長ハ本令ノ規定ニ準ジ相當ノ措置ヲ爲スベシ

第六條　消毒方法ハ明治三十年五月內務省令第十三號ニ依ルベシ但シ唾痰ヲ消毒スルニハ石炭酸水(二十倍)結晶石炭酸五分鹽酸一分水九十四分ヲ使用スベシ

第七條　第一條第一項ニ違背シテ唾痰ヲ配置セサル者醫察官署ノ指定シタル期間ニ其命令ヲ履行セサル者同條第三項及第三條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條　第二條ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第九條　第四條ニ違背シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第十條　第七條第九條ノ罰金ハ使用人其他ノ從業者ノ所爲ト雖モ之ヲ其首長又ハ營業者ニ科ス

法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本令ニ違背シタル場合ニ於テハ本令ニ規定シタル罰金ハ之ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ處罰スベキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

第十一條　本令ノ規定ハ廳府縣令ヲ以テ肺結核豫防ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ妨ケス

第十二條　東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ
第十三條　本令ハ明治三十七年四月一日ヨリ施行ス

○第六十六章　有害性著色料取締規則第二條野菜果實類ノ貯藏品及昆布中銅ノ試驗方法

（明治三十七年十一月七日内務省令第十五號）

檢體五グラム」ヲ磁製坩堝ニ取リ熱灼シテ炭化セシメ冷後硝子棒ヲ以テ搗碎シテ粉末トナシ稀硝酸約五立方「センチメートル」ヲ注加シテ溫浸シ「エルレンマイエル」硝子壜中ニ濾入シ濾紙上ノ殘留物ハ濾紙ト共ニ再ビ前ノ磁製坩堝ニ致シ乾燥シ熾灼シテ全ク灰化セシメ此殘灰ニ稀硝酸約二立方センチメートル」ヲ加ヘ溫浸シ濾過シ洗滌シ前ノ濾液ニ合シ「アムモニア」水ヲ以テ中和シタル後鹽酸々性トナシ之ニ硫化水素ヲ通シテ充分飽和セシメ壜口ヲ寬ク栓塞シ約三時間溫所ニ放置シ全ク沈底セル硫化銅ヲ濾紙上ニ採取シ硫化水素水ヲ以テ善ク洗滌シタル後乾燥シ濾紙ト共ニ前ノ磁製坩堝内ニ於テ灰化シ殘灰ヲ數滴ノ硝酸ニ溶解シ重湯煎上ニ溫メ「アムモニア」水ヲ注加シテ「アルカリ性トナシ若シ必要アレバ濾過シ茲ニ得タル澄明ノ液ヲ蒸發皿ニ移シ重湯煎上ニ蒸發シテ過剩ノ「アムモニア」ヲ驅逐シ中性反應ヲ呈スルニ至リ其中性液ヲ二百立方センチメートル」ノ標線アル硝子壜ニ移シ硝酸アムモニウム溶液（硝酸アムモニウム百グラム」ヲ蒸餾水一リーテル」ニ溶解シ其反應全ク中性ノモノ）二十立方センチメートル」ヲ注加シ水ヲ以テ全容量二百立方センチメートル」トナシ善ク混和シテ其二十立方センチメートル（原品〇、五グラム」ニ相當ス）ヲ内徑約一、五センチメートル」ノ無色試驗管ニ取リ又別ニ前ト同一ノ試驗管數箇ニ標準銅溶液（純結晶硫酸銅〇、三九二七グラム」ヲ蒸餾水一リーテル」ニ溶解シタルモノニシテ其ノ一立方センチメートル中〇、一ミリグラム」ノ純銅ヲ含有ス）若干立方センチメートル」ニ取リ之ニ硝酸アムモニウム溶液二立方センチメートル」ヲ加ヘ水ヲ以テ全容量二十立方センチメートル」トナシタル後各試驗管ニ新ニ製シタル黃色血滴鹽溶液（用ニ臨テ黃色血滴鹽一グラム）ヲ蒸餾水一リーテル」ニ溶解シタルモノ）〇、五立方センチメートル」ヲ加ヘ善ク混和シ十分時間内ニ白紙上ニ於テ上面ヨリ透視シ比色定量法ヲ行フベシ

○第六十七章　痘苗血清類賣捌規則

◎内務省令第十六號

傳染病研究所痘苗血清類賣捌規則左ノ通リ定ム

明治三十八年六月十三日　内務大臣　子爵　芳川顯正

附錄　有害性著色料取締規則第二條野菜果實類ノ貯藏品及昆布中銅ノ試驗方法
痘苗血清類賣捌規則

○傳染病研究所痘苗、血清類賣捌規則

第一條　傳染病研究所ニ於テ製造賣捌ノ痘苗血清類左ノ各種トス

痘苗
ヂフテリア血清
破傷風血清
ツベルクリン

第二條　前條ノ痘苗、血清類ヲ要スル者ハ傳染病研究所ニ賣渡ヲ請求スヘシ但シ血清ツベルクリンノ請求者ハ醫師、藥劑師又ハ藥種商ニ限ル

官衙、公署其他公共團體ニ於テ血清ツベルクリンヲ要スルトキハ其ノ賣渡ヲ請求スルコトヲ得

第三條　外國ヨリ痘苗、血清類ノ請求アリタルトキハ內地ノ供給ヲ妨ゲサル限リ之ニ應スルモノトス

第四條　痘苗、血清類ノ定價ハ左ノ如シ但シ運送費ヲ要セス

痘苗
ヂフテリア血清
液體ヂフテリア血清

第一號　一壜（六〇〇免疫單位）金六拾錢

第二號　一壜（一〇〇〇免疫單位）金一圓

第三號　一壜（一五〇〇免疫單位）金一圓五拾錢

乾燥ヂフテリア血清　一壜（五〇〇〇免疫單位）金五圓

破傷風血清
液體破傷風血清

第一號　一壜（一〇〇〇免疫單位）金七十五錢

第二號　一壜（四〇〇〇免疫單位）金三圓

乾燥破傷風血清

第二號　一壜（一〇〇〇〇免疫單位）七圓五十錢

第三號　一壜（三、〇立方センチメートル）金三圓

ツベルクリン

第五條　市町村（之ニ準スヘキモノヲ含ム）ニ於テ施行スル種痘ニ要スル痘苗ノ代價ハ前條定價ノ半額トス

外國ヨリノ請求ニ係ル痘苗ハ清韓兩國ニ在リテハ其ノ代價ヲ前條定價ノ二倍其

ノ他ノ國ニ在リテハ六倍トシ血清ツベルクリンハ總テ其ノ代價ヲ同定價ノ二倍トス

藥劑師（現ニ藥品營業ヲ爲スモノ）藥種商ニハ痘苗、血清類ヲ通シテ特ニ前條定價ノ一割ヲ減シ賣渡スヘシ

傳染病研究所長ハ特別ノ事情アリト認ムル者ニ限リ內務大臣ノ認可ヲ經條件ヲ附シテ痘苗、血清類ノ定價ノ幾分ヲ減シ之ヲ交付スルコトヲ得但シ其ノ代價ハ前條定價ノ半額ヲ下ルコトヲ得ス

第六條　痘苗、血清類ノ代價ハ收入印紙ヲ以テ納付スヘシ但シ官衙及外國ヨリノ請求ニ係ルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七條　痘苗、血清類請求數量ニ對シ納付ノ收入印紙ニ過不足アルトキハ印紙相當ノ數量ヲ送付スルモノトス但シ一具若ハ一壜ノ代價ニ滿タサル端數ハ切捨トス

第八條　傳染病研究所長ハ腸窒扶私血清、赤痢血清、虎列刺血清、ペスト血清、飯匙蛇毒血清、連鎖球菌血清、丹毒治療液ヲ相當代價ヲ以テ血清類ニ關スル本則ノ規定ニ準シ賣渡スコトヲ得

附　則

第九條　本則ハ明治三十八年六月二十日ヨリ施行ス

第十條　明治二十九年內務省令第八號痘苗賣下規則及同三十五年內務省令第十五號血清賣下規則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

○第六十八章　醫師法

法律第四十七號（明治三十九年五月一日）

醫師法

第一條　醫師タラントスル者ハ左ノ資格ヲ有シ內務大臣ノ免許ヲ受クルコトヲ要ス

一　帝國大學醫科大學醫學科又ハ官立、公立若ハ文部大臣ノ指定シタル私立醫學專門學校醫學科ヲ卒業シタル者

二　醫師試驗ニ合格シタル者

三　外國醫學校ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ醫師免許ヲ得タル者ニシテ命令ノ規定ニ該當スル者

醫師試驗ハ中學校若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ノ卒業者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ニシテ醫學專門學校ニ卒業シ若ハ外國醫學校ニ於テ四箇年以上ノ醫學課程ヲ修了シタル者ニ非サレハ之ヲ受クルヿヲ得ス

第二條　左ニ掲クル者ハ免許ヲ受クルコトヲ得ス

一　重罪ノ刑ニ處セラレタル者但シ國事犯ニシテ復權シタルトキハ此ノ限ニ在ラス